UNESCO ASPnet
International ESD Events
for Students and Teachers
Platform for Students

ユネスコスクール世界大会
高校生フォーラムまとめ

岡山市 ESD 世界会議推進局

2014 年 12 月

目 次

● 付 録

平成26年度 ユネスコスクール世界大会 Student(高校生)フォーラム関係事業一覧

事業名	日時	場所	参加者
1 ユネスコスクール世界大会岡山運営協議会			
(1) 委員会			
第6回	5月16日(金)	岡山市役所	18名(委員、事務局)
第7回	10月16日(木)	岡山市役所	18名(委員、事務局)
第8回	12月15日(月)	岡山市役所	名(委員、事務局)
(2) 運営委員会			
第5回	5月28日(水)	ほっとプラザ大供	21名(委員、事務局)
第6回	10月17日(金)	岡山市役所	19名(委員、事務局)
第7回	12月16日(火)	岡山市役所	名(委員、事務局)
2 準備セミナー			
生徒研修会(第0回)	4月13日(日)	岡山市勤労者福祉センター	115名(高校生、教員、大学生、事務局) ※岡山の前年経験者生徒を対象
第1回	5月11日(日)	岡山大学	569名(高校生、教員、大学生、事務局)
第2回	6月15日(日)	岡山大学	558名(高校生、教員、大学生、事務局)
第3回	7月20日(日)	大阪府立大学中百舌鳥キャンパス	533名(高校生、教員、大学生、事務局)
第4回	8月10日(日)～11日(月) ※8/10は台風接近のため中止	ホテルグランヴィア岡山	513名(高校生、教員、大学生、事務局) ※全国6地域からの参加者含む
第5回	10月5日(日)	岡山市立岡山後楽館高等学校	531名(高校生、教員、大学生、事務局)
振り返りセミナー	12月20日(土)(予定)	岡山市立中央公民館	名(高校生、教員、大学生、事務局) ※岡山のみ対象
3 教員連絡会			
第1回	4月27日(日)	岡山大学	教員、代表大学生、事務局
臨時	5月31日(土)	岡山市立中央公民館	代表教員、事務局
第2回	6月8日(日)	岡山市立中央公民館	教員、代表大学生、事務局
臨時	7月6日(日)	岡山県立和気閑谷高等学校	代表教員、事務局
第3回	7月13日(日)	岡山市立中央公民館	教員、代表大学生、事務局
臨時	7月27日(日)	岡山県立和気閑谷高等学校	代表教員、事務局
第4回	8月3日(日)	岡山学芸館高等学校	教員、代表大学生、事務局
臨時	8月10日(日)	岡山シティミュージアム	代表教員、事務局
臨時	9月21日(日)	岡山市立中央公民館	代表教員、事務局
第5回	9月28日(日)	岡山市立中央公民館	教員、代表大学生、事務局
臨時	10月19日(日)	岡山市役所	代表教員、事務局
第6回	10月26日(日)	岡山市立中央公民館	教員、代表大学生、事務局

事業名	日時	場所	参加者
4 生徒係別練習会（自由参加形式）（※岡山開催のみ掲載）			
第1回	7月12日(土)～13日(日)	岡山市立中央公民館	ディスカッション・プレゼンチーム
第2回	7月13日(日)	岡山市立中央公民館	ファシリテーター
第3回	8月3日(日)	岡山学芸館高等学校	ディスカッション・プレゼンチーム
第4回	8月4日(月)	岡山学芸館高等学校	ディスカッション・プレゼンチーム
第5回	9月7日(日)	岡山学芸館高等学校	ディスカッション・プレゼンチーム
第6回	9月14日(日)	岡山市立中央公民館	ファシリテーター、ディスカッション・プレゼンチーム、工房・問題解決
第7回	9月28日(日)	岡山市立中央公民館	ディスカッション・プレゼンチーム
第8回	10月4日(土)	岡山学芸館高等学校	ディスカッション・プレゼンチーム、運営
第9回	10月19日(日)	岡山市立中央公民館	ファシリテーター、ディスカッション・プレゼンチーム
第10回	10月19日(日)	大阪府立大学I-siteなんば	ファシリテーター（一部の生徒のみ）
第11回	10月26日(日)	岡山市立中央公民館	ファシリテーター、ディスカッション・プレゼンチーム、運営
第12回	11月2日(日)～3日(月)	岡山学芸館高等学校	ファシリテーター(3日のみ)、ディスカッション・プレゼンチーム
第13回	11月2日(日)～3日(月)	大阪府立大学I-siteなんば	ファシリテーター（一部の生徒のみ）

ユネスコスクール世界大会岡山運営協議会
第６回委員会（5/16）の様子

第３回教員連絡会（5/13）の様子

ユネスコスクール世界大会Student（高校生）フォーラム
生徒研修会（第０回準備セミナー in岡山）

平成２６年４月１３日（日）９：００～１２：００
岡山市勤労者福祉センター
～２年目への想いと自覚、新たなページのスタート～

9:00　開館、入場、準備
・１月のプレフォーラム係で協力して準備にあたろう
・ＰＣ、プロジェクター、スクリーン、コードリール
・写真を撮ってスクリーンに映せるように
・マイク　・机の配置　・装飾
・物品…模造紙、色マジック、ワークシート（A3）

9:05　受付稼働（～9:２０終了）
・係の準備を進めながら（係ごとに）個人受付（生徒、先生とも）
・オツキーズが最初→大阪迎え態勢

9:25　着席完了
・学校ごとに着席（位置はスクリーンに表示）
・受付係は各学校の欠席者をその学校の先生と確認

9:30　０．久々の「ザ・プリントワーク」

9:35　１．担当教員紹介、大学生紹介

9:50　２．岡山＆大阪の歴史と未来
①堺フォーラム、岡山プレフォーラムの振り返り
②2014年のスケジュール
③第１回、第２回準備セミナー

10:20　３．「最高点にタッチ」のレベルを上げていこう［伊井先生］
①ある先輩の実話
②堺フォーラムでのある海外生徒の話

10:30　休憩
・休憩後は係ごとに着席（位置はスクリーンに表示）

10:40　４．2014年、新しい仲間を迎えるに当たって
①係別ワーク（係の先生も入ってください）
「先輩から後輩へ　これが○○係の本質だ！」
11:20　発表、共有
11:40　②学校別ワーク（各校の先生も入ってください）
「学校でどのように新しい仲間に参加してもらうか」
11:50　発表、共有

12:00　５．閉会

岡山の生徒が役割分担をして係活動始動！経験がいきています。

岡山と大阪の先生・大学生・事務局の紹介。ともに高校生スタッフを陰で支える心強いサポートメンバー。

真剣な眼差し。拍手も自然に。ハートが確かに根付いています。

堺フォーラム・岡山プレフォーラムの振り返り。成功体験がよみがえります。

「最高点にタッチ！」みんなの合い言葉に。

「先輩から後輩へ、これが〇〇係の本質だ！」学校という枠にとらわれない。これが当たり前の姿に。ハートで繋がる心強さと安心感。

係別のワークをみんなで共有。互いを知ることの大切さを学ぶ。

学校別ワークは新しい仲間の勧誘の仕方。魅力は？やりがいは？各学校で趣向を凝らして取り組むことを確認しました。

ユネスコスクール世界大会Student（高校生）フォーラム　第１回準備セミナー

平成２６年5月１１日（日）１０：００～１５：５０　岡山大学
「2年目生徒から１年目生徒へ伝えるスキルとハート」
～５００余名の生徒が笑顔で協働するために～

9:00　岡山集合・準備

9:10　受付稼働
・学校ごとに受付→資料を受け取る

9:40　大阪バス到着
・学校ごとに受付→資料を受け取る

10:00　全体会①（体育館）～これまでの歩みと２０１４年の世界大会にむけて～
・開会の挨拶
・学校ごとに生徒と先生の紹介＆大学生の紹介
・インタビュータイム（目的、希望、夢、決意を聞く）
・堺フォーラムのスライドショー
・世界大会の規模、目的、性格を共有
・世界大会とそれまでの流れ
・各係の魅力と仕事内容を経験者が語る
・約束ごと…時間厳守、NGワード、NG態度、大切な言葉、大切な態度

10:50　係決めワーク

12:10　「第２回準備セミナー＝リハーサル！」についての全体説明
・「学校紹介」とともに、世界大会本番の「プレゼン４会場」の動きを確認

12:40　昼食
・各学校がリハーサルのタイムテーブルのクジを引く（岡山・大阪別々に）
・おもてなし係は体育館で、おもてなし係以外は係ごとに講義室に移動する（裏参照）
・それぞれの係で食事をしながら打ち合わせ、とりわけ、おもてなし係はアクティビティーをしながら昼食を
・全係で２年目生徒が経験を語る

13:15　係別会（会場は裏面）
・チーフとサブチーフを決定（おもてなし係はチーフ４＋サブチーフ４＋全体２）
・連絡の取り方を確認
・リハーサルの流れと詳細な打ち合わせ
・練習、動きを確認
・工房班はリハーサルのレイアウトを決定
・係ごとに休憩、体育館への移動の時間も配慮

★14:00　サブチーフ会議（Ｄ１１）

★14:50　各学校紹介発表チーム代表27名とアテンドチーム代表27名の顔合わせと「約束」…体育館で

15:10　全体会②（体育館）
・係別会から全員へのメッセージ

15:35　次回連絡
ゴミ拾い

15:50　大阪バス出発

岡山の高校生は、今年度はお迎えする立場。立場が変われば気が付くことも多いはず。半年ぶりの再会に笑顔満開。

総勢６００人。運営スタッフ全員集合。

第１回の準備セミナーの最大の山場「係決めワーク」。必ずしも第一希望ではない係になった生徒も。全ての係が成功の鍵を握ります。

係毎に打ち合わせ。これから始まる活動に胸躍る。おもてなし係は、昼食と平行して打ち合わせ。２年目生徒の「語り」を聞く。

講義室に分かれて各係でチーフ・サブチーフなどの役割分担を決定。第２回の準備セミナーで予定されているリハーサルに向けて動きや準備物の確認。

サブチーフ会の様子。連携の大切さを再認識。

各係から全員へのメッセージ。互いの情報を共有することが重要。全員で創り上げるフォーラムであることを確認。

いつもポケットにごみ袋。ハートとスキルを学ぶ私たち。ゴミは持ち帰るのが当たり前。大切なことは何だろう？それを考えるのも学び。

ユネスコスクール世界大会Student（高校生）フォーラム　第２回準備セミナー

平成２６年６月１５日（日）１０：００～１５：５０　岡山大学
「リハーサルを通して最高点を仰ぎ見よう」
～５００余名の高校生ヤルネ！～

9:00　岡山準備…到着した学校から準備開始
・体育館A…イス並べ、体育館B…基準位置のイス
・ＰＣ等機材の設営

9:10　受付稼働
・各校代表生徒が受付へ出欠を報告し、資料を受け取る

9:40　大阪バス到着
・着席後、各校代表生徒が受付へ出欠を報告し、資料を受け取る

10:00　全体会①（体育館Ａ）
・前回何を学びましたか？～第１回振り返り交換とインタビュー
・今日の目標と展開の確認（UNESCO、ASPnet、ESDとして）
・やっぱりやります！『あいこじゃんけん』
・ESD劇団もあります！
・私たちは私たちでありたい…でも世界の中の私たちで

11:00　会場づくり・移動
・おもてなし係以外イス移動→体育館Ｂに会場３と４をつくる（指揮…工房班）

11:15　係別会①
・リハーサルのための最終準備とミーティング
・おもてなし係は最後に体育館Aに会場１と２をつくる／イスを会場４へ移動
・ＰＣ班は体育館Ａのスクリーン等を移動
★12:00に

無線機練習（体育館Ａ…１０台使用予定） サブチーフ会議 プレゼンデータをＰＣ班へ提出（各会場）

★昼食は係ごとに

12:35　係ごとの昼食ほか準備終了

おもてなし係は第１回の「約束」で発表チームと合流
生徒配置、教員配置、大学生配置確認

12:40　リハーサルの状況設定を共有し、おもてなし係の①は会場へ案内
リハーサルのための全移動完了

12:50　４会場同時に「プレゼンテーションリハーサル」開始
1）運営と司会
2）進行を調整して必要に応じてアナウンス（状況確認・伝令工房協力）
3）おもてなし、PC班、受付フル稼働
4）ファシリテーター、ディスカッションチームはそれぞれ４会場に分かれて発表を聞く（取材練習、キーワード抽出練習）

14:10　全終了→直ちに係別会②
・振り返り…問題の抽出と解決策の模索
・同時にサブチーフ会議…「連携」に関する振り返り

15:00　全体会②（体育館Ａに全員集合）
・係別会②から戻るときに、午前の会場づくりの逆でイスを体育館Ａに戻す
・各係からの報告と共有

15:30　総撤収（指揮：工房班）

15:50　大阪バス出発

今回は、岡山の高校生が会場準備を行いました。飾りも昨年度のものを再利用。無駄を省くことも当たり前に。

やっぱりやります『あいこじゃんけん』。何を学ぶのかに気が付くことが大切なのです。

各学校の振り返りを交換。仲間の思いを知ることも大切な学び。

毎度おなじみの大学生によるＥＳＤ劇団。説明ではなく、動きで示すことで伝わりやすいこともたくさんあります。

講義室に分かれて各係でリハーサルのための最終準備とミーティング。

４会場同時に「プレゼンテーションリハーサル」開始。初めてのことばかりで、動くことで精いっぱい。各係最善を尽くすのみ。

学校紹介を兼ねたリハーサル。短時間でいかに印象づけるか。趣向を凝らした発表がたくさんありました。

おもてなし係は感想や課題、気が付いたことを「緑の葉っぱ」に書き込み、貼り付けていきました。みんなの思いで大木ができあがりました。

高校生フォーラム第３回準備セミナー（2014年７月20日）
テーマ：ハートとスキルの足腰を鍛え、丁寧に階段を登る体力をつける（一瞬一瞬を大切にして）
コンセプト　一所懸命！

10:00 **歓迎のことば**：大阪ユネスコスクールネットワーク代表　野口勝久代表
コンセプトメッセージ：大阪府立大学手話コーラスチーム　亜飛夢

10:15 **今年もやります「ザ・プリントワーク」**　さあ、立ち上がれ！
- ➢ 自分のことのみに専念しない隣の人のためも　あなたの力が必要
- ➢ 考える、迷ったら動く、思いめぐらす。　（誰かが×　先生が×）

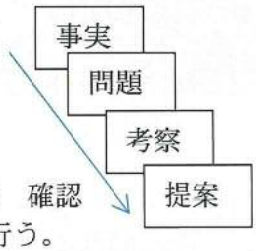
10:30 **今、できていること。そして、「チーム600」・一人ひとりの最高点へ**
- ➢ 再度　高校生フォーラムの「ビジョン」共有と目標の確認
  - ◆ 今できていることの確認
  - ◆ それを支える係りのスキルとハート＋係りのつながり
  - ◆ 共創的ディスカッションはみんなが行う。

11:00 **海外生徒が私たちに残した言葉：これが宝物**
- ◆「日韓中高校生フォーラム」から
- ◆「8か国高校生フォーラム」から
- ◆ 世界からどんな高校生が来るの？（データを用いて）

11:30 **第４回での「練習リハーサル」に向けて「修正」と「前進」**
- ➢ 簡単に「各国の来日からの足どり～11月８日まで」概略と「11月６日・７日」流れ
- ➢ ８月10日・11日で行うこと。
  - [10日の予定]　①係り別で準備、②ハートの深化、③共創的ディスカッション練習。
  - [11日の予定]　①4つの会場でのプレゼンリハ（短縮版）
    ②ディスカッション「A・B」と「C」　の練習リハ
    ③修正と克服

11:50 昼 休 み（教員間共有の時間：昼食をとりながら（持参）
教員・B３棟（119教室）
生徒・Uホール内は飲食できません。生徒はUホールロビー＆ B3棟の各教室。

12:30 **係り別修正作業および練習・・・・・おもてなしはUホール、他の係りは「B３棟」（別紙参照）**
- ➢ 係りごとの「課題」の確認と「修正」そして「向上」の時間
  - ◆ 修正箇所の確認とスキル＆ハートの改善個所の確認
  - ◆ 他の係りへの要望事項があればまとめる。
  - ◆ [連携担当サブチーフ会議]
    - ・改善点および向上させていることを交換
    - ・自分の係りの修正事項にともなって他の係へ要望があれば交換　確認
  - ◆ （どこかで）無線担当サブチーフ練習　各会場をつないで実況風に行う。
  - ◆ 連携担当サブチーフ会議の結果報告：
    - ・要望事項をどのように出したか。また要望されたか。それをどのように取り入れるか。



14:20 終　了

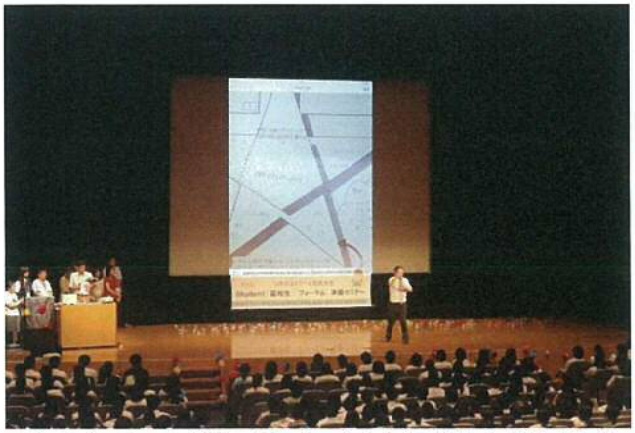
14:40 **ディスカッション練習・・・・・・・Uホール、B３棟**
- ※ 共創的ディスカッションや組み合わせについて説明
- ➢ テーマ：今、あなたはどんな時代を生きていますか。また、その理由を教えてください。
- ➢ どんな時代観が出てきましたか？

15:20 終了　各部屋撤収
15:35 まとめ　ホールゴミ拾い・・・・・・・Uホール
16:00 終了　岡山の生徒の皆さん出発

大阪府立大学手話コーラスチーム「亜飛夢（あとむ）」によるコンセプトメッセージ。このフォーラムではおなじみです。

今できていること。「チーム 600」一人ひとりの頂点へ。再度フォーラムのビジョンの共有と確認を行いました。

有志による「ＥＳＤ劇団」。演じることができるということはハートが育っている証拠。コンセプトを伝えるには一番です。

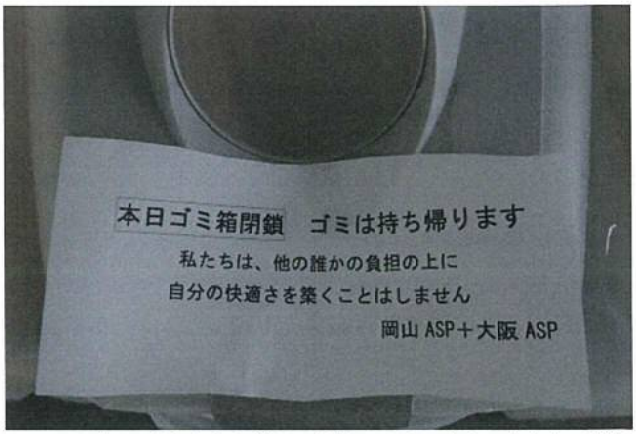


ディスカッション練習のまとめ。今あなたはどんな時代を生きていますか？

「誰かが…、先生が…」ではできません。
さあ、立ち上がれ！「ザ・プリントワーク」

「日中韓フォーラム」「8か国フォーラム」で海外ゲストが残した言葉は…。一言も聞き逃さまいと真剣に耳を傾けます。

講義棟での係別会。第４回準備セミナーに向けての「修正」と「前進」



このメッセージから何を学ぶ？自分のことでなく、まわりや世界を見る「目や心」を養うことが大切なのです。

ユネスコスクール世界大会Student（高校生）フォーラム　第４回準備セミナー

平成２６年8月１１日（月）８：３０～１６：００　ホテルグランヴィア岡山

到着した生徒から順次受付［３階ホワイエ］
- ３階サファイヤに荷物をおいて→各自で資料を受け取る
- 学校代表生徒が出欠を報告→共創的ディスカッション練習の会場・班番号の一覧表を受け取る
- 第３回振り返り（３４セット持参）を事務局に提出
- 先生…昼食代を学校ごとにまとめて事務局に提出

8:30 全体会［３階ホワイエ］
- 開会あいさつ
- 全国７地域の紹介
- 資料の確認
- 日程の確認
- 今日の目標の確認
- 共創的ディスカッションの意義

★おもてなし係が最初に移動→係ごとに移動

9:00 係別会
- 各係の動きと会場の確認
- 役割分担、配置の確認とシミュレーション
- おもてなし係は動きを徹底！

10:00 全係配置確認・スタンバイ

10:15 プレゼンテーションリハーサル　スタート！
- 第２回の教訓を活かすぞ！
- ７地域＋岡山＋大阪＝９チームを４会場で展開し、さらに、おもてなし係が海外チームの発表者と係を交代しながら動き、連携の最終確認［別紙タイムテーブル参照］
- 『ハート』を忘れない！
-

会場１…３階クリスタル[ウエスト]	会場３…４階フェニックス[サウス]
会場２…４階フェニックス[イースト]	会場４…４階フェニックス[ウエスト]

11:15 共創的ディスカッション練習

12:00 全体会［３階ホワイエ］

12:30 昼食＆係別会／フェニックス場面転換
- 係内の振り返りと課題の抽出・修正
- 係間の連携の振り返り
- 業者の指示で、工房、PC、装飾は途中から入室準備可

13:30 全係配置確認・スタンバイ

13:45 ディスカッションリハーサル　２会場「A・B」で開始［30分］
A…４階フェニックス[1/2]
B…４階フェニックス[1/2]

14:15 終了→退室→係別会

14:35 全係配置確認・スタンバイ

14:50 ディスカッションリハーサル Cを会場「A」で開始［30分］
14:50～15:05　前半
〈５分休憩〉
15:10～15:25　後半

15:25 終了→係別会

15:50 全体会［フェニックス］
- 係から伝えたいこと
- 一日のまとめ

16:00 撤収、解散
- 大阪、全国7地域出発

総勢 600 人。すべてのスタッフがホワイエに集合。本番さながらに熱気が充満。「おもてなし係」は国ごとに分かれて役割分担を確認。32 か国の招致が現実味を帯びてきました。

係ごとに集合して動きの最終確認。台風により中止になった前日の係会の分を短時間で理解。ベストを尽くすのみ。

全国 7 地域のうち 6 地域の生徒・教員も参加。高校生フォーラムの趣旨や共創的ディスカッションの手法などを共有。

6 地域・岡山・大阪の各チームが会場ごとにプレゼンテーション。本番さながらの発表に緊張感が広がる。

共創的ディスカッション練習。資料を見ながらグループ討議。「何が問題なのか？」「共通するテーマは何か？」

各係ごとに打ち合わせをしながらの昼食。「食」を共にすることで連帯感がわいてくる。

ディスカッション A・B のリハーサル。ゲスト役（ビブス着用）も真剣。短時間ながら本番同様にディスカッションを行いました。

ディスカッション C のリハーサル。会場の広さや雰囲気を感じる最初で最後のチャンス。各係の配置や動きの確認も。

ユネスコスクール世界大会Student（高校生）フォーラム　第５回準備セミナー

日　時：平成２６年１０月５日（日）９：５０～１６：００
会　場：岡山市立後楽館高等学校
テーマ：世界大会に向けてUNESCO、ESD、ASPnetの総仕上げ～総力結集～

9:50～10:30 全体会
1）開会
2）第５回セミナーの概要と日程説明
3）第４回セミナーのまとめと振り返り交換
4）「あいさつ」について、練習
5）岡山・大阪プレゼン披露
6）11/5、11/6の概要と9:00開始プランについて（ESD劇団）

＜係別会の会場（別紙会場図）へ移動＞

10:40～12:10 係別会［係ごとに適宜休憩＆昼食］
1）第４回のリハーサルに基づく修正点確認＆修正作業
2）準備作業
3）11:15からの★連携サブチーフ会の内容を持ち帰り係内で共有
4）午後の最終リハーサルのためにどう動くか

★連携サブチーフ会［11:15～11:45］
1）係間で共有すべきこと（係連携クロス表）
2）本部・事務局から伝えること
3）この場で解決・決定すること

12:10～12:20 ４会場の司会が12:20に「開始」を発するように全係スタンバイ

12:20～13:30 ４会場でのプレゼンリハーサル［70分：１１周］
・メインアリーナ、武道場、サブアリーナ、ミーティングルーム
・本部…多目的室２
・関係する係の動き最終確認
・装飾係は別途作業

＜修正・準備＞

13:55～14:15 ディスカッションA・Bリハーサル［20分］
・メインアリーナ
・挙手→指名→起立→マイクワーク→着席

＜修正＞

14:30～14:50 ディスカッションCリハーサル［20分］
・メインアリーナ
・挙手→指名→起立→マイクワーク→着席

14:50～15:00 全体修正［C終了後直ちにその場で］

15:00～15:50 係別会
・メインアリーナ内で係ごとに分散
・途中で連携サブチーフ会をステージで

15:50～16:00 全体会
1）総まとめ
2）本番についての連絡

16:00～　片付け、大阪バス出発

全体会の初めに文部科学省加藤国際統括官がご挨拶に来てくださいました。フォーラムにかける期待の大きさを知ることができました。

各教室に分かれて係別会開催。午後のリハーサルのためにどのように動くのか、必要な作業などの確認。

受付から一連の流れをリハーサル。おもてなし係がゲスト役の生徒を発表会場までアテンドします。

おもてなし係同士で交代をしながらゲスト役を務めます。ゲスト役をすることで、ゲスト側から見たハートが培われます。

運営係の指示で司会係・おもてなし係などが連動して動きます。移動に必要な時間も考慮してスムーズな運営に努めます。

ディスカッションCの最終リハーサル。マイクワークも含め、確認をしました。

最終係別会でリハーサルの振り返りをしました。本番までにすべきことを確認。

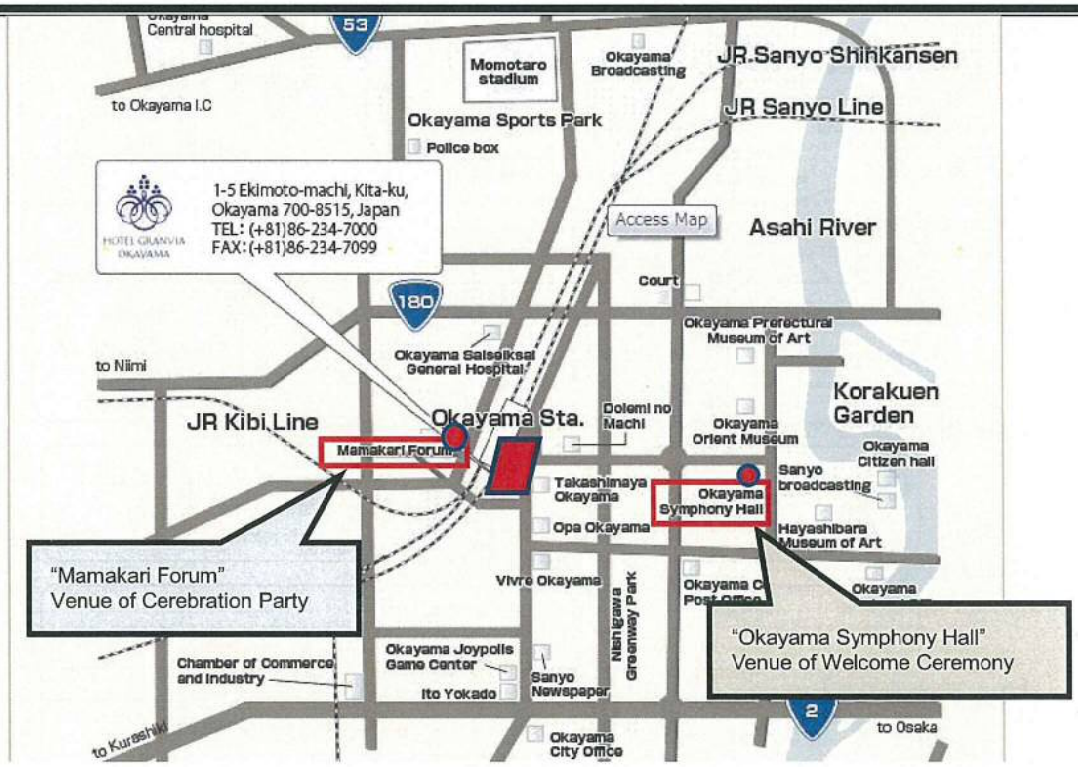
「気持ちを一つに、頑張ろう！」係で最後に気合を入れました。

UNESCO ASPnet International ESD Events for Students and Teachers
Platform for Students

1. Schedule and Venues

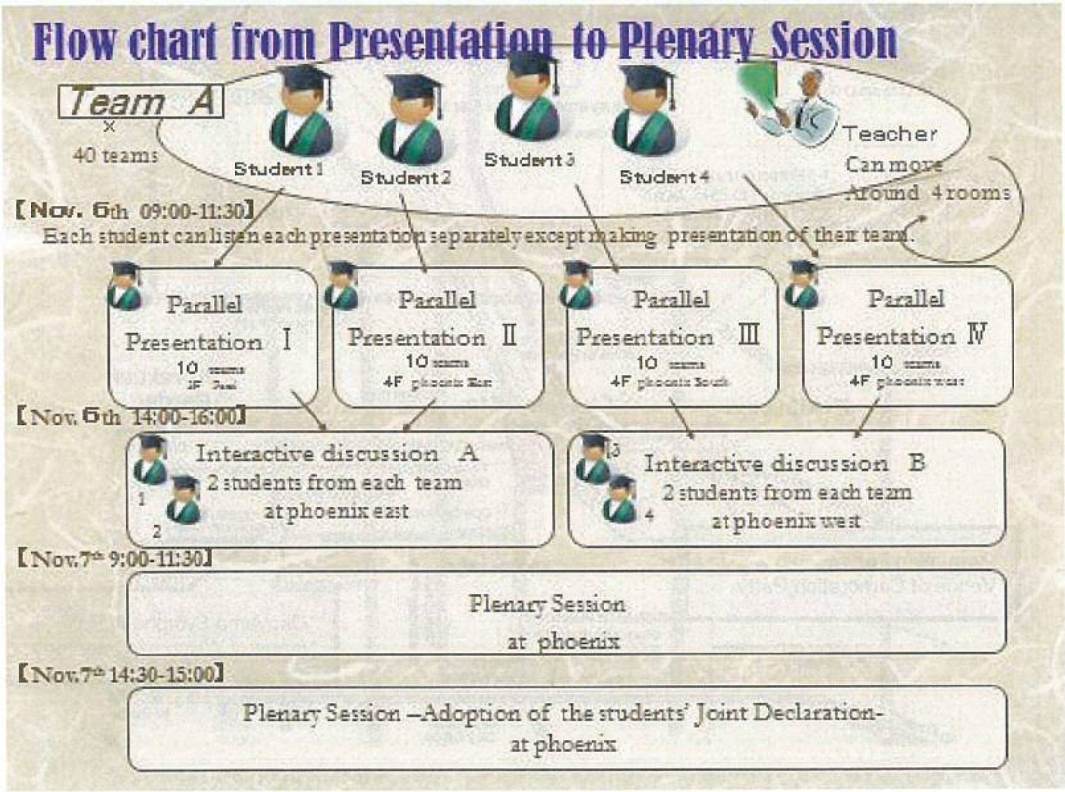
Date	Agenda	Venue
5 November	Travel to Okayama city Check in at hotel	
	16:00-17:00 **Registration**	Hotel Granvia Okayama Phoenix(4F)
	17:00-19:00 **Opening ceremony and outline of the Students' Platform**	Hotel Granvia Okayama Phoenix(4F)
	20:00-21:00 **Welcome buffet**	Purity Makibi
6 November	**09:00-16:00** **Platform for Students**	Hotel Granvia Okayama Phoenix(4F) and Pearl(3F)
	08:55-09:00 Introduction 09:00-11:30 Parallel presentation sessions on the challenges that students have noticed in their region, country or school to create a sustainable society	Phoenix(4F) and Pearl(3F)
	11:30-13:30 Lunch break (Lunch Box)	Crystal(3F)
	13:30-13:50 Introduction to the Interactive Sessions 14:00-15:45 Interactive Sessions Thinking about the issue of sustainability based on one's own experience Theme A: What factors do you believe obstruct sustainability in everyday life and society? Theme B: What is important when promoting sustainability? 15:45-16:00 Wrap-up 16:00-16:30 Light meal 16:30-17:30 Move to the Okayama Symphony Hall (by bus)	Phoenix(4F)
	18:00-20:00 **Welcome ceremony hosted by Okayama City**	Okayama Symphony Hall
	20:15-20:30 Back to Hotel Granvia Okayama (by bus) Receive Night Snack	Hotel Granvia Okayama 1F lobby

7 November	**09:00-15:00** **Platform for Students**	Hotel Granvia Okayama
	09:00-11:30 Plenary discussion session As ASPnet students, what should we aim for together to achieve a sustainable society and a sustainable future? Summaries of interactive sessions and plenary discussions	Phoenix(4F)
	11:30-12:30 Lunch break (Lunch box) (Lunch meeting of the drafting group)	Crystal(3F) Pearl(3F)
	12:30-14:00 Exchanges at ESD Plaza	Okayama Convention Center (West Side of Okayama Station)
	14:30-15:00 Plenary session Adoption of the students' Joint Declaration and Closing	Hotel Granvia Okayama Phoenix(4F)
	15:30-18:30 **Platform for Teachers**	Hotel Granvia Okayama Crystal(3F)
	17:00-19:00 Students: Celebration Party for UNESCO ASPnet International ESD Events for Students	Okayama Convention Center (Mamakari Forum)
	18:00-20:00 Buffet Dinner	Purity Makibi
9 November	Departure from Japan	



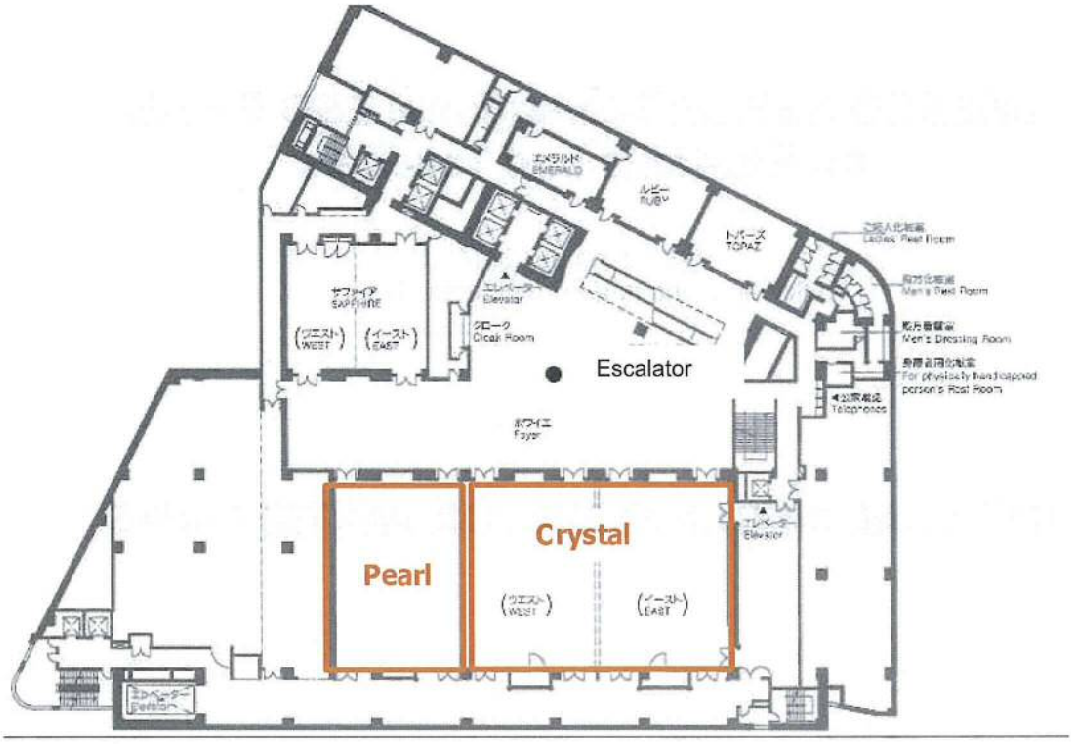
2. Presentation Timetable

	Time	Presentation Ⅰ プレゼンテーションⅠ 3F Pearl / パール	Presentation Ⅱ プレゼンテーションⅡ 4F Phoenix/フェニックスイースト	Presentation Ⅲ プレゼンテーションⅢ 4F Phoenix /フェニックスサウス	PresentationⅣ プレゼンテーションⅣ 4F Phoenix/フェニックスウエスト
1	9:00～9:07	07 Fiji〔FJ〕 フィジー共和国	18 Kenya〔KE〕 ケニア共和国	11 Ghana〔GH〕 ガーナ共和国	39 Uganda〔UG〕 ウガンダ共和国
	9:08～9:15	Room Change	Room Change	Room Change	Room Change
2	9:15～9:22	09 Germany〔DE〕 ドイツ連邦共和国	04 Canada〔CA〕 カナダ	06 Denmark〔DK〕 デンマーク王国	22 New Zealand〔NZ〕 ニュージーランド
	9:23～9:30	Room Change	Room Change	Room Change	Room Change
3	9:30～9:37	17 Kazakhstan〔KZ〕 カザフスタン共和国	32 Senegal〔SN〕 セネガル共和国	24 Pakistan〔PK〕 パキスタン･イスラム共和国	02 Bangladesh〔BD〕 バングラデシュ人民共和国
	9:38～9:45	Room Change	Room Change	Room Change	Room Change
4	9:45～9:52	26 Peru〔PE〕 ペルー共和国	40 Uruguay〔UY〕 ウルグアイ東方共和国	13 Haiti〔HT〕 ハイチ共和国	21 Mexico〔MX〕 メキシコ合衆国
	9:53～10:00	Room Change	Room Change	Room Change	Room Change
5	10:00～10:07	15 Japan Chiba〔J3〕 日本 千葉	20 Japan Aichi〔J4〕 日本 愛知	05 Japan Hokkaido〔J1〕 日本 北海道	10Japan Fukushima〔J2〕 日本 福島
	10:08～10:20	Recess	Recess	Recess	Recess
6	10:20～10:27	33 South Africa〔ZA〕 南アフリカ共和国	37 Tunisia〔TN〕 チュニジア共和国	23 Oman〔OM〕 オマーン国	19 Lebanon〔LB〕 レバノン共和国
	10:28～10:35	Room Change	Room Change	Room Change	Room Change
7	10:35～10:42	29 Romania〔RO〕 ルーマニア	35 Spain〔ES〕 スペイン王国	03 Brazil〔BR〕 ブラジル連邦共和国	31Russian Federation 〔RU〕 ロシア連邦
	10:43～10:50	Room Change	Room Change	Room Change	Room Change
8	10:50～10:57	16 Indonesia〔ID〕 インドネシア共和国	27 Philippines〔PH〕 フィリピン共和国	12 Greece〔GR〕 ギリシャ共和国	08 France〔FR〕 フランス共和国
	10:58～11:05	Room Change	Room Change	Room Change	Room Change
9	11:05～11:12	28 Republic of Korea 〔KR〕 大韓民国	34 Japan Fukuoka 〔J7〕 日本 福岡	41 Viet Nam〔VN〕 ベトナム社会主義共和国	36 Thailand〔TH〕 タイ王国
	11:13～11:20	Room Change	Room Change	Room Change	Room Change
10	11:20～11:27	38 Japan Osaka〔J8〕 日本 大阪	42 Japan Okayama 〔J9〕 日本 岡山	25 Japan Kyoto〔J5〕 日本 京都	30 Japan Yamaguchi 〔J6〕 日本 山口
	11:27～11:30	Information	Information	Information	Information

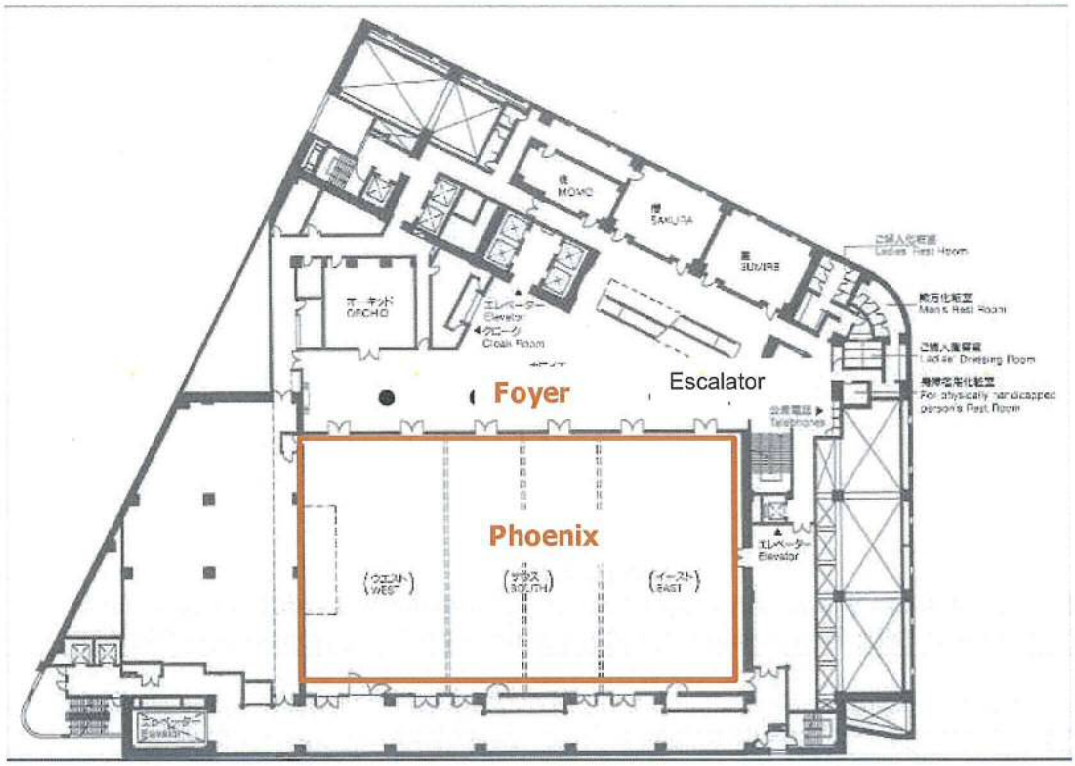


3. Location of the Conference Rooms

Hotel Granvia Okayama 3rd Floor



Hotel Granvia Okayama 4th Floor



UNESCO ASPnet International ESD Events for Students and Teachers

4-8 November 2014
Okayama and other Prefectures, Japan

GENERAL INFORMATION FOR PARTICIPANTS

Prepared by
UNESCO ASPnet International ESD Events for Students and Teachers Secretariat
@Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology Japan (MEXT)

This document contains practical information you might need when attending the UNESCO ASPnet International ESD Events for Students and Teachers in Okayama and other prefectures.

Table of Contents

1. Schedule and Venues

Date	Agenda	Venue
3 November	Arrival in Japan. Move to eight individual local communities. ** Participants will be met by the Logistics Support Team at the airport.(Details to be provided later.)* *Dinner at restaurant, dinner box or airline meal (Depending on each team's arrival time in Japan)*	Local communities
4 November	**Exchange day: "Get-together" in local school communities** *Please see "2, Draft schedule for Exchange Day in local school communities" for the schedule.	Local communities
5 November	Travel to Okayama city Check in at hotel	
	16:00-17:00 **Registration** ***USB memory stick with the Power Point presentations will be collected at the reception desk.**	Hotel Granvia Okayama Phoenix
	17:00-19:00 **Opening ceremony and outline of the Students' Platform**	Hotel Granvia Okayama Phoenix
	20:00-21:00 **Welcome buffet**	Purity Makibi
6 November	**08:55-16:00** **Platform for Students**	Hotel Granvia Okayama
	08:55-09:00 Introduction	Phoenix and Pearl
	09:00-11:30 Parallel presentation sessions on the challenges that students have noticed in their region, country or school to create a sustainable society	Phoenix and Pearl
	11:30-13:30 Lunch break (Lunch Box)	Crystal
	13:30-13:50 Move to Interactive Sessions' rooms	Phoenix
	13:50-14:00 Introduction to the Interactive Sessions	
	14:00-15:45 Interactive Sessions Thinking about the issue of sustainability based on one's own experience Theme A: What factors do you believe obstruct sustainability in everyday life and society?	

	Theme B: What is important when promoting sustainability? 15:45-16:00 Wrap-up	
	18:00-20:00 **Welcome ceremony hosted by Okayama City**	Okayama Symphony Hall
7 November	**09:00-15:00** **Platform for Students**	Hotel Granvia Okayama
	09:00-11:30 Plenary discussion session As ASPnet students, what should we aim for together to achieve a sustainable society and a sustainable future? Summaries of interactive sessions and plenary discussions	Phoenix
	11:30-12:30 Lunch break (Lunch box)	Crystal
	12:30-14:30 Exchanges at ESD Plaza 14:00-14:30 Back to Hotel Granvia Okayama	Okayama Convention Center
	11:30-14:30 Lunch meeting of the drafting group	Pearl
	14:30-15:00 Plenary session Adoption of the students' Joint Declaration and Closing	Phoenix
	15:30-18:30 **Platform for Teachers**	Hotel Granvia Okayama
	15:00-15:30 Registration 15:30-15:45 Opening 15:45-16:10 Introduction to the Platform and Group Work 16:10-17:30 Group Work by five respective small groups to discuss both themes: Theme A: Reviewing ESD achievements Theme B: Role and actions of teachers and the ASPnet to promote ESD beyond 2014	Crystal

	17:30-18:15 Plenary Session -Summaries of group working sessions presented by five groups (five minutes each) -plenary discussion on the way forward 18:15-18:30 Comments and closing remarks	
	17:00-19:00 Students: Celebration Party for UNESCO ASPnet International ESD Events for Students	Okayama Convention Center (Mamakari Forum)
	19:00- Teachers: Free night	
8 November	**All Day** **Students: Excursion including lunch and dinner hosted by Okayama City** Students will join one of five excursion courses. -Course A: Conservation of Biodiversity:--Research on Living Creatures in Asahi-gawa River -Course B: The Town that Protects the Living Fossils -Course C: From the Past to the Future, Yakage-cho is a Town Filled with the Unending Genealogy, History, and Culture -Course D: A Journey to Meet "Traditional Techniques" in which Local Resources are Utilized -Course E: Home of Learning, Shizutani School: ESD Starts from Here!	5 options
	09:00-17:30 **Teachers: Japan's National Conference on UNESCO ASPnet** 09:00-09:30 Registration 09:30-09:50 Opening Ceremony 09:50-10:00 Explanation of drafting of Japan's National Conference on UNESCO ASPnet Declaration 10:00-10:40 Award ceremony and presentation on ESD activities by school receiving Minister of Education, Culture, Sports, Science and Technology Prize 10:40-11:40 Presentation of online interaction between Japanese and overseas ASPnet schools	Okayama University

	11:40-12:00 Presentation on ESD Rice Project 12:00-13:00 Lunch break 13:00-14:30 Thematic workshops 14:40-16:40 ESD exhibition Poster session and seminars by ASPnet schools, experts, companies, NGOs/NPOs 16:55-17:15 Adoption of Declaration 17:15-17:30 Closing Ceremony 18:00-20:00 Buffet Dinner	Purity Makibi
9 November	Departure from Japan	

2. Draft schedule for "Exchange Day" in local school communities

School	Programme
Aichi prefecture Aichi Prefectural Toyota Higashi High School	4/11/14 -Welcome Ceremony -Study tour (Toyota Ecoful Town, Viewing and experiencing of "Bonote" which is a Japanese dance based on the forms of Japanese martial arts, Demonstration and tasting of local dishes "Kyodo-syoku" for lunch, Experiencing the lifestyle of Japanese traditional village forest at "Suge No Sato")
Chiba prefecture ·Chiba Prefectural Sakura-Minami High School ·Chiba Prefectural Chiba Higashi High School ·Ichikawa Gakuen Ichikawa Senior High School ·Shibuya Kyouiku Gakuen Makuhari Senior High School	4/11/14 -Classroom visits of host schools -Courtesy visit to the prefectural governor and tour of Chiba prefectural office -Welcome party hosted by the schools

Fukuoka prefecture Fukuoka Prefectural Jonan High School Fukuoka Prefectural Musashidai Senior High School		4/11/14 -Welcome ceremony -Classroom visits of host schools -Japanese Culture experience programme (calligraphy etc.) -Study tour (Japanese historical site "Dazaifu" etc.)
Fukushima prefecture Fukushima Prefectural Adachi High School		4/11/14 -Get to know each other -Exchange meeting with host school students and classroom visit -Study tour (Viewing of Nihonmatsu chrysanthemum figures, experience traditional Japanese paper press work) -Welcome party hosted by the school
Hokkaido Sapporo Odori Municipal High School		4/11/14 -Get to know each other (Discussion and presentation) -Dialogue with the student council -Study tour (Prefectural governor's garden, Sapporo TV Tower and Botanic Garden Hokkaido University, Japanese drum concert) -Welcome party hosted by the school
Kyoto prefecture Kyoto Gaidai Nishi High School		4/11/14 -Icebreaker activities -Experiential learning of Japanese culture (Calligraphy and tea ceremony) -Lunch at cafeteria -Study tours to UNESCO world heritage sites in Kyoto (Kiyomizu-dera temple, Japanese traditional stone pavement Ninen-zaka and Sannei-zaka, Yasaka Shrine, Kamigamo Shrine)
Okayama prefecture	Mexico Okayama prefectural Okayama Ichinomiya High school	4/11/14 -Welcome ceremony -Cooking Japanese food for lunch with host school students -Japanese Culture experience programme (Japanese martial arts, calligraphy and Tea ceremony) -Observation of club activities 5/11/14 -Study tour (JFE Steel factory, Lunch at "Yoshima Plaza" with the view of Seto-ohashi Bridge)
	Romania Okayama Gakugeikan High School	4/11/14 -Experience Zazen (Zen sitting meditation) and meet with foreign monks at Sogenji-temple -Cross-cultural exchange meeting with English-learning students -Bento box lunch gathering

		-Classroom visits at Saidaiji Elementary School with the host school students -Experiential learning of tea ceremony, Japanese drum, Ryukyuan shamisen and others 5/11/14 -Hands-on experience activity of indigo dyeing at Kojima Jeans Museum -Lunch gathering -Classroom visits of host school
	Philippines Seishin Junior High School, High School	4/11/14 -Welcome ceremony hosted by the school -Classroom visits -Lunch gathering -Cultural exchange event, Welcome party 5/11/14 -Visit to Notre Dame Seishin University Attached Elementary School (Classroom visits, Cross-cultural exchange meeting) -Study tour (Kurashiki Bikan Chiku(historical site), Ohara Museum of Art)
	Uganda Okayama Prefectural Kurashiki Commercial Senior High School	4/11/14 -Welcome ceremony -Classroom visits -Bento box lunch gathering -Dialogue with the host school students -Tea ceremony hosted by the Tea ceremony club -Observations of club activities 5/11/14 - Strolling at Kurashiki Bikan Chiku, Ohara Museum of Art and Lunch
Yamaguchi prefecture Takamizu Gakuen Takamizu High School,		4/11/14 -Welcome ceremony by host school -Cross-cultural exchange event (calligraphy, Tea ceremony and traditional Japanese music instrument) -Intercultural Exchange Meeting (exchange of questions and games etc.) 5/11/14 -Courtesy visits to the Mayor of Iwakuni City -Study tour (Kintaikyo Bridge)

3. Hotel Accommodation

Date	Venue	Hotel
3-4 November	Aichi	3 November Hotel Toyota Castle COMO square West, 2-160 Kitamachi,Toyota-shi, Aichi TEL +81-(0)565-31-2211 HP: http://www.t-castle.co.jp/english/index.html 4 November Asuke Satoyama Youth Hostel 27-2 Tsubakidachicho Saka, Toyota-shi, Aichi TEL: +81-(0)565-62-2462 HP: http://www.ne.jp/asahi/asuke/satoyamayh/ (Japanese Only)
	Chiba	APA Hotel & Resort Tokyo Bay Makuhari 2-3 Hibino, Mihama-ku, Chiba-shi, Chiba TEL: +81-(0)43-296-1111 HP: http://www.apahotel.com/makuhari/
	Fukuoka	Hotel Centraza Hakata 4-23 Chuo-gai, Hakataeki, Hakata-ku, Fukuoka-shi, Fukuoka TEL: +81-(0)92-461-0111 HP: www.centraza.com/english/
	Fukushima	Yui no Sato Azumakan 1-5 Dake Onsen, Nihonmatsu-shi, Fukushima TEL: +81-(0)243-24-2211 HP: www.azumakan.com/ (Japanese Only)
	Hokkaido	Hotel Lifort Sapporo 1-1-30 Minami10-Jonishi, Chuo-Ku, Sapporo-Shi, Hokkaido TEL: +81-(0)11-521-5211 HP: http://hotel-lifort-sapporo.jp/ (Japanese Only)
	Kyoto	Karasuma Kyoto Hotel Karasuma Shijo, Shimogyo-ku, Kyoto TEL: +81-(0)75- 371-0111 HP: http://karasuma.kyotohotel.co.jp/english/
	Okayama	Hotel Granvia Okayama 1-5 Ekimoto-machi, Kita-ku, Okayama TEL: +81-(0)86-234-7000 HP: http://granvia-oka.co.jp/english/
	Yamaguchi	Green Rich Hotel Iwakuni Ekimae 2-5-21 Marifumachi, Iwakuni-shi, Yamaguchi TEL: +81-(0)827-29-5555 HP: www.gr-iwakuni.com/ (Japanese Only)
5-8 November	Okayama	Hotel Granvia Okayama 1-5 Ekimoto-machi, Kita-ku, Okayama TEL : +81-(0)86-234-7000 HP: http://granvia-oka.co.jp/english/

4. On-site Registration

5 November 16:00-17:00
Registration desk is open at the Hotel Granvia Okayama 4th floor "Phoenix".
All participants will receive a conference badge there. This badge is valid for all the Events in Okayama. For security reasons, the conference badge is mandatory at all times to gain access to the venues of the Events.
***USB memory stick with the Power Point presentations will be collected at the reception desk.**

5. Meals

All meals during your stay in Japan (from dinner on 3 November to your last meal before your departure on 9 November) will be provided by the organizers. For the teachers' dinner on 7 November which is not provided, an allowance will be provided instead.

Please note that participants' special dietary requirements are being considered to the extent possible. Please inquire if you have questions and be responsible for what you eat.

6. Working Languages

Welcome Programme in local communities: In general, interpretation service will not be provided.
ASPnet Platform for Students and Teachers: Interpretation service will be provided as follows:

- Plenary sessions: English, French and Japanese
- Parallel presentation sessions: English and Japanese
- Interactive sessions: English, French and Japanese

7. Working Documents

Working documents will be provided in English and Japanese.

8. General Information about Japan

Time Zone
All of Japan is in the same time zone, GMT/UTC + 9 hours, which is usually referred to as Japan Standard Time (JST). There is no daylight savings time system.

Weather
Average temperatures in Okayama in November range between 7.5°C (45°F) and 17°C (63°F).
Other regions average temperatures in November are as follows;

Aichi	between 8°C (46°F) and 17°C (63°F)
Chiba	between 9°C (48°F) and 17°C (63°F)
Fukuoka	between 10°C (50 °F) and 18°C(64°F)
Fukushima	between 5°C (41 °F) and 15°C (59 °F)
Hokkaido	between 2°C (36 °F) and 12°C(54°F)
Kyoto	between 8°C (46°F) and 12°C (54°F)
Yamaguchi	between 7°C (45°F) and 18°C (64°F)

A jacket, sweater, or similar items are appropriate for all the regions. A coat may be needed on some days especially in Hokkaido. We recommend that you also bring an umbrella.

Official Language
The official language in Japan is Japanese. English is spoken and understood in some hotels and restaurants.

Currency, Traveler's Checks, Credit Cards and Exchange Rates
The Japanese currency is called the yen (JPY: Japanese Yen). The current exchange rate (as of October 2014) is approximately 1 Euro = 140 JPY and 1 USD = 110 JPY.

Cash is the most widely accepted method of payment (you can pay for a 99 yen product with a 10,000 yen note). You can exchange money at the airport, foreign exchange banks, larger post offices, a limited number of hotels, and other authorized exchanges upon presentation of your passport. Bank counters are open 9 am to 3 pm, post office financial services from 9 am to 4 pm. We encourage you to exchange your money at the airport upon arrival. There is not much difference in exchange rates and commissions between banks in the city and at the airport. Please note that many banks, post offices, and hotels in local area only accept US dollar or euro.
At hotel Granvia Okayama
The hotel accepts only US dollar and euro. You can exchange up to JPY 20,000 (about USD186) at one time.

You can draw cash on your credit card or debit card at ATM cash machines at all post offices (found in every neighborhood; not 24 hrs) and in all 7-Eleven stores (usually open 24 hrs). These ATMs accept most overseas debit cards and credit cards with PINs. Other bank ATMs in Japan generally do not accept overseas cards.

Major credit cards such as Visa, Master Card, American Express, Diners Club and JCB are widely accepted at hotels, department stores, shops and restaurants. Many smaller businesses accept only cash. Bank cards or debit cards cannot be used for payment in Japan.

Traveler's checks are only accepted for exchange in banks and post offices, and, in general, cannot be used to purchase goods and services.

Consumption/Sales Tax
There is a flat rate 8% consumption tax (sales tax) on all purchases. For visitors with temporary stay status, some products including food, medicines and cosmetics are tax-exempt at participating stores.
*See the Japan Tax-free Shopping Guide at http://tax-freeshop.jnto.go.jp/eng/index.php for further details.

Tipping
Tipping is not practiced in Japan for any services.

Electricity
The voltage used throughout Japan is uniformly 100 volts, AC, with a frequency of 60Hz in Okayama and Nagoya. All outlets accept only Type A plug (2-flat-pin plugs). It is therefore advised to purchase a plug adapter beforehand if needed.

Type A plug 

Water
Tap water is safe for drinking in Japan. Mineral water and other beverages can be purchased at supermarkets, convenience stores, vending machines, etc. A 500 ml bottle of mineral water costs about JPY150.

Mobile Phones and Telephones

Mobile phones:

While most newer mobile phone models can be used in Japan, many older phones may not work due to different technologies. Most importantly, there is no GSM network in Japan, so GSM-only phones do not work. The following are needed for a handset to work in Japan:

The handset must be compatible with a Japanese mobile phone network (typically 3G UMTS 2100 MHz, 3G CDMA2000 800 MHz, or LTE band 1). Most modern 3G and 4G phones are compatible with one or more of these networks.

We recommend to bring a recharger.

Public telephones:

Public telephones can be found in hotels, the conference venue, and throughout the city. International calls can be made from NTT grey public telephones and others that are marked as such. Telephone cards are sold at convenience stores, kiosks and vending machines.

In-room telephones at hotels:

Both international and domestic calls can be made from in-room telephones, although the telephone charges are rather high. The charges can be settled at the time of check out. Optionally, prepaid cards for international calls can be purchased upon arrival at the airport to use in the hotel rooms.

Internet Access

Hotel Granvia Okayama

WiFi and LAN cable access are available at all floors. Sometimes you will get a bad line for the Internet connection when many people use internet at the same time.

Prayer Rooms

Please pray at your hotel room. Japanese public facilities usually do not have prayer rooms.

At Okayama

A Prayer Room will be opened on the 3rd floor of Okayama Convention Center during the Events.

Smoking

Smoking is not permitted inside the conference venues, except for designated smoking areas. Most of the public spaces in Japan are smoke-free.

Please note that smoking is strictly prohibited under the age of 20 years by Japanese law.

9. Tourist Information

Useful websites for visitors:

All Japan	Japan National Tourist Organization http://www.jnto.go.jp/eng/ Japan-guide.com http://www.japan-guide.com/
Aichi	The Road Through Aichi and Nagoya's Heartland http://www.aichi-kanko.jp/j-heartland/
Chiba	Chiba, Japan Travel Guide "Where the Fun Begins!" http://japan-chiba-guide.com/
Fukuoka	Fukuoka/Hakata Tourist Information Site Yokanavi http://yokanavi.com/eg
Fukushima	Tourism Information of Fukushima Prefecture http://www.tif.ne.jp/lang/en/
Hokkaido	Visit Hokkaido! Visit Japan! http://en.visit-hokkaido.jp/
Kyoto	Kyoto Travel Guide http://www.kyoto.travel/

Okayama	Okayama Visitors & Convention Association http://okayama-kanko.net/sightseeing/index.php?lg=en
Yamaguchi	Yamaguchi City Travel Information http://yamaguchi-city.jp/w/en/

10. Emergency Contacts

The Japan National Tourism Organization gives detailed emergency information
http://www.jnto.go.jp/eng/arrange/essential/emergency/index.html

A nurse will be stationed at the conference venue in Okayama.

11. Disclaimer

The Secretariat of the UNESCO ASPnet International ESD Events for Students and Teachers disclaims all responsibility for medical, accident and travel insurance, for compensation for death or disability, for loss of or damage to personal property and for any other loss that may be incurred during travel time or the period of participation. In this context, it is strongly recommended that participants secure prior to departure international medical insurance and travel insurance for the period of participation.

12. Embassies in Japan

AFRICA	
Embassy of the Republic of Ghana Tel. +81-(0)3-5410-8631／8633	Embassy of the Republic of Senegal Tel. +81-(0)3-3464-8451
Embassy of the Republic of Kenya Tel. +81-(0) 3-3723-4006／4007	Embassy of the Republic of Uganda Tel. +81-(0)3- 3462-7107
Embassy of the Republic of South Africa Tel. +81-(0)3- 3265-3366／3369	
ARAB STATES	
Embassy of the Republic of Lebanon Tel. +81-(0)3- 5114-9950	Embassy of the Republic of Tunisia Tel. +81-(0)3- 3511-6622／6625
Embassy of the Sultanate of Oman Tel. +81-(0)3- 5468-1088	
ASIA AND THE PACIFIC	
Embassy of the People's Republic of Bangladesh Tel. +81-(0)3- 5704-0216／0218	Embassy of Philippines Tel. +81-(0)3-5421-7741
Embassy of the Islamic Republic of Pakistan Tel. +81-(0)3- 5421-7741／7742	Embassy of the Republic of Korea Tel. +81-(0)3- 3452-7611～9
Embassy of the Republic of the Fiji Islands Tel. +81-(0)3-3587-2038	Royal Thai Embassy Tel. +81-(0)3- 3222-4101
Embassy of the Republic of Indonesia Tel. +81-(0)3- 3441-4201	Embassy of the Socialist Republic of Viet Nam Tel. +81-(0)3-3466-3311／3313／3314
New Zealand Embassy Tel. +81-(0)3- 3467-2271	

EUROPE AND NORTH AMERICA	
Embassy of Canada Tel. +81-(0)3-5412-6200	Embassy of Greece Tel. +81-(0)3-3403-0871／0872
Royal Danish Embassy Tel. +81-(0)3-3496-3001	Embassy of Romania Tel. +81-(0)3-3479-0311／0313
Embassy of France Tel. +81-(0) 3-5798-6000	Embassy of the Russian Federation Tel. +81-(0)3-3583-4224／5982
Embassy of the Federal Republic of Germany Tel. +81-(0)3--5791-7700	Embassy of Spain Tel. +81-(0)3-3583-8531／8532
LATIN AMERICA AND THE CARIBBEAN	
Embassy of the Federative Republic of Brazil Tel. +81-(0)3-3404-5211	Embassy of the Republic of Peru Tel. +81-(0)3-3406-4243／4249
Embassy of the Republic of Haiti Tel. +81-(0)3-3486-7096	Embassy of the Oriental Republic of Uruguay Tel. +81-(0)3-3486-1888／1750
Embassy of the United Mexican States Tel. +81-(0)3-3581-1131／1135	

13. Focal Point for urgent matters

Mr. Masato Shoji
Ms.Yumi Namatame
Mr. Sohei Mizutani

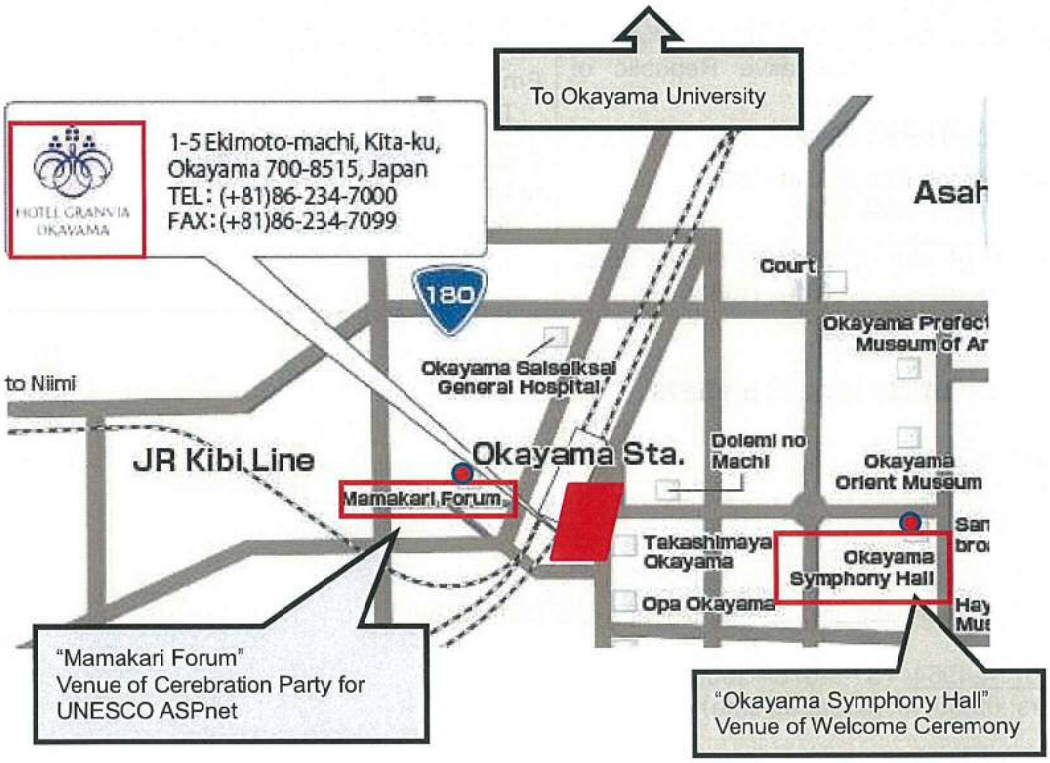
Office for 2014 UNESCO World Conference on ESD
Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology, Japan
Tel:+81-3-6734-4964/ +81-3-6734-2603
Office hours: 09:30-18:15 (Japan time)

From 4-7 November
Hotel Granvia Okayama Room Sumire: MEXT Secretariat
Tel: +81-86-234-7000
Office hours: 08:00-20:00 (Japan time)

14. Access to the Events Venues

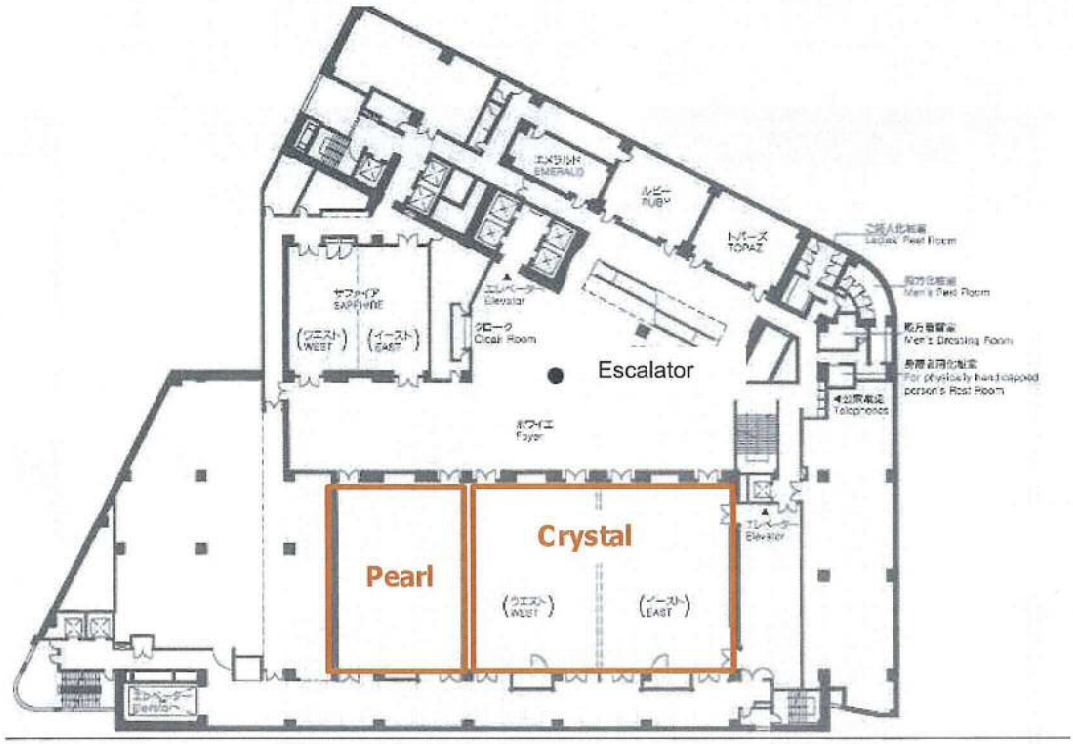
UNESCO ASPnet International ESD Events for Students and Teachers (Hotel Granvia Okayama)

The Hotel Granvia Okayama is directly connected to JR Okayama Station. It is very convenient to access.

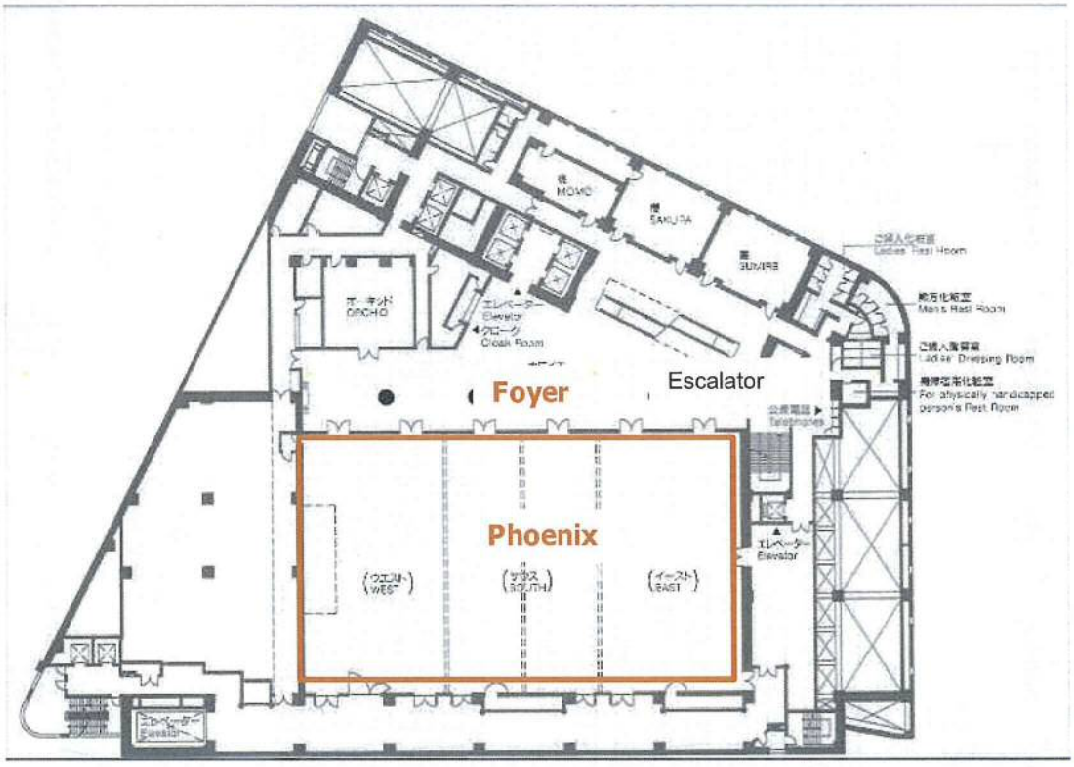


16. Location of the Conference Rooms

Hotel Granvia Okayama 3rd Floor

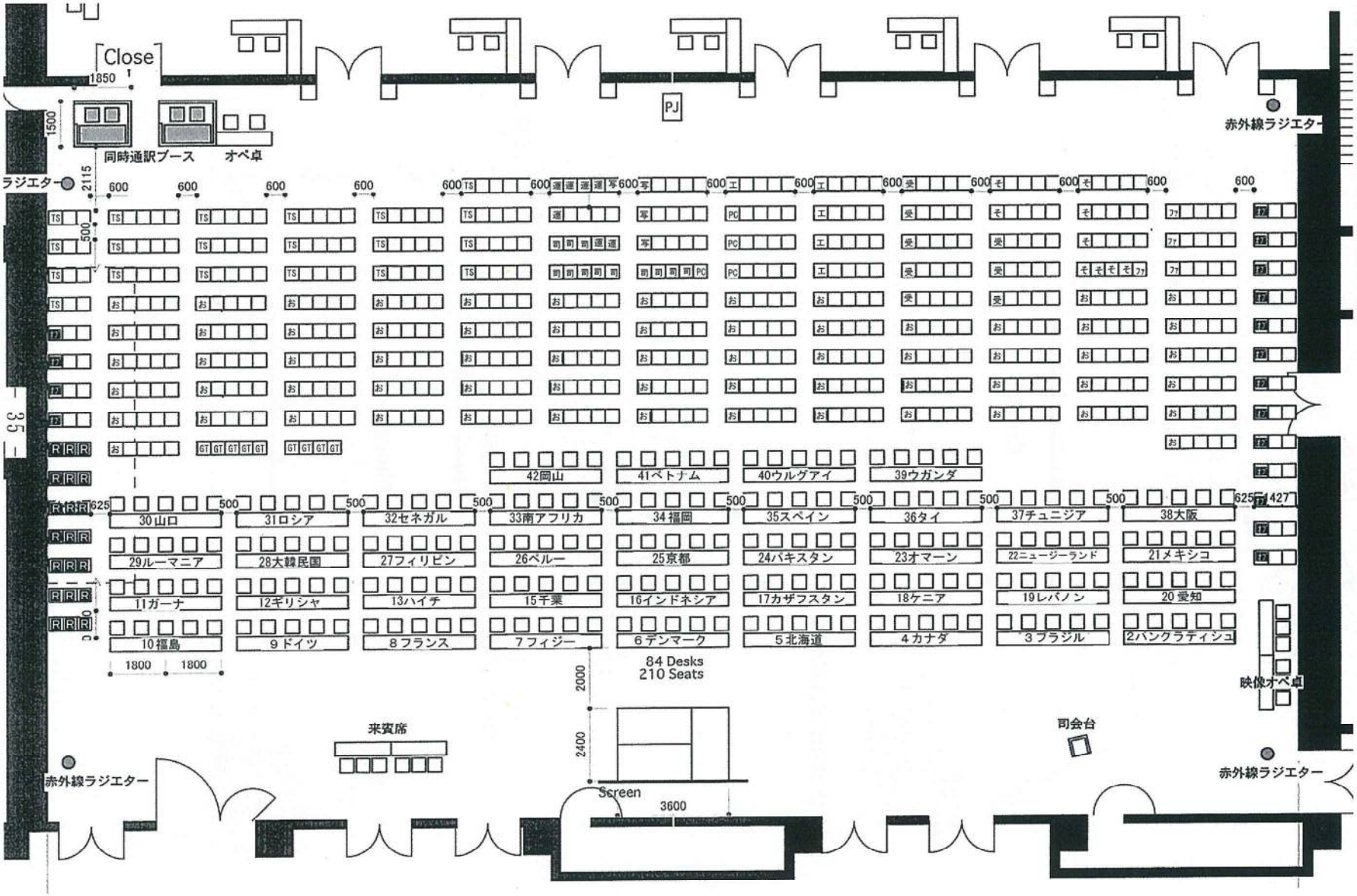


Hotel Granvia Okayama 4th Floor



Opening ceremony and outline of the Platform(Wednesday,5th November)

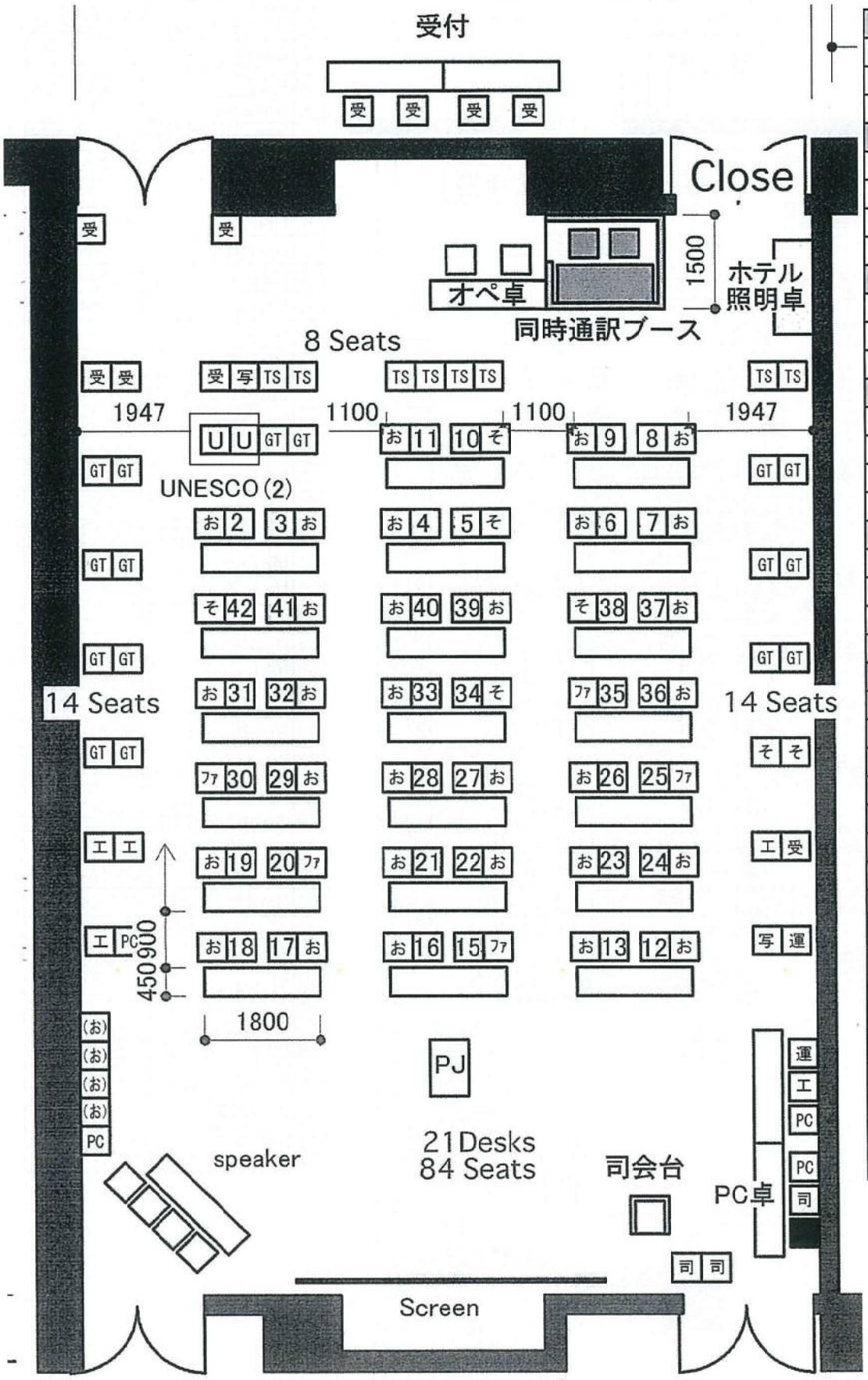
【オープニングセレモニー】



	Alphabetical Order	日本語名称
2	Bangladesh	バングラデシュ人民共和国
3	Brazil	ブラジル連邦共和国
4	Canada	カナダ
5	Japan-Hokkaido	日本一北海道
6	Denmark	デンマーク王国
7	Fiji	フィジー共和国
8	France	フランス共和国
9	Germany	ドイツ連邦共和国
10	Japan-Fukusima	日本一福島
11	Ghana	ガーナ共和国
12	Greece	ギリシャ共和国
13	Haiti	ハイチ共和国
15	Japan-Chiba	日本一千葉
16	Indonesia	インドネシア共和国
17	Kazakhstan	カザフスタン共和国
18	Kenya	ケニア共和国
19	Lebanon	レバノン共和国
20	Japan-Aichi	日本一愛知
21	Mexico	メキシコ合衆国
22	New Zealand	ニュージーランド
23	Oman	オマーン国
24	Pakistan	パキスタン・イスラム共和国
25	Japan-Kyoto	日本一京都
26	Peru	ペルー共和国
27	Philippines	フィリピン共和国
28	Republic of Korea	大韓民国
29	Romania	ルーマニア
30	Japan-Yamaguchi	日本一山口
31	Russian Federation	ロシア連邦
32	Senegal	セネガル共和国
33	South Africa	南アフリカ共和国
34	Japan-Fukuoka	日本一福岡
35	Spain	スペイン王国
36	Thailand	タイ王国
37	Tunisia	チュニジア共和国
38	Japan-Osaka	日本一大阪
39	Uganda	ウガンダ共和国
40	Uruguay	ウルグアイ東方共和国
41	Viet Nam	ベトナム社会主義共和国
42	Japan-Okayama	日本一岡山

Parallel presentation sessions Ⅰ(Thursday,6th November)

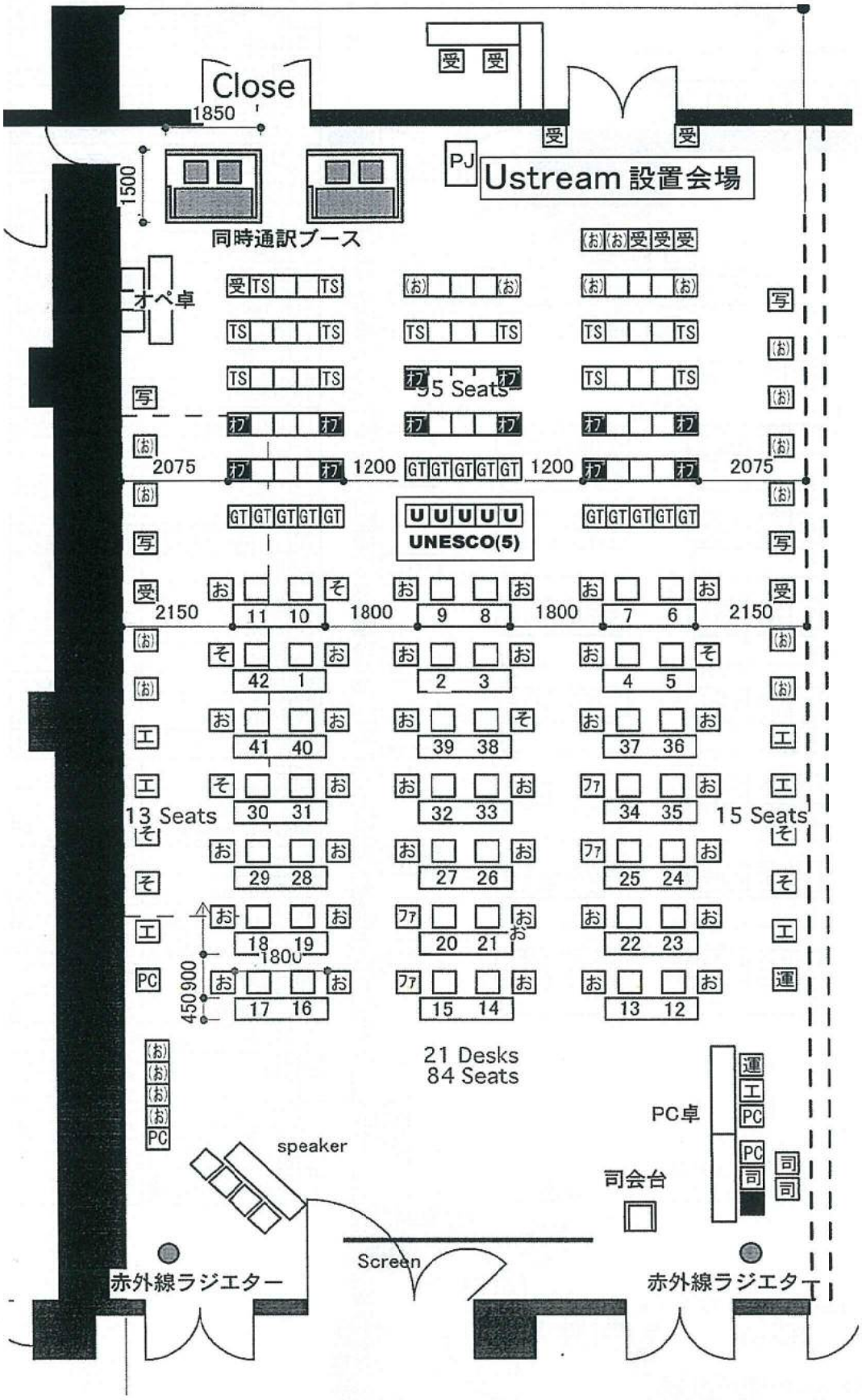
【プレゼンテーション　会場Ⅰ（3Fパール）】



	Alphabetical Order	日本語名称
2	Bangladesh	バングラデシュ人民共和国
3	Brazil	ブラジル連邦共和国
4	Canada	カナダ
5	Japan-Hokkaido	日本一北海道
6	Denmark	デンマーク王国
7	Fiji	フィジー共和国
8	France	フランス共和国
9	Germany	ドイツ連邦共和国
10	Japan-Fukusima	日本一福島
11	Ghana	ガーナ共和国
12	Greece	ギリシャ共和国
13	Haiti	ハイチ共和国
15	Japan-Chiba	日本一千葉
16	Indonesia	インドネシア共和国
17	Kazakhstan	カザフスタン共和国
18	Kenya	ケニア共和国
19	Lebanon	レバノン共和国
20	Japan-Aichi	日本一愛知
21	Mexico	メキシコ合衆国
22	New Zealand	ニュージーランド
23	Oman	オマーン国
24	Pakistan	パキスタン・イスラム共和国
25	Japan-Kyoto	日本一京都
26	Peru	ペルー共和国
27	Philippines	フィリピン共和国
28	Republic of Korea	大韓民国
29	Romania	ルーマニア
30	Japan-Yamaguchi	日本一山口
31	Russian Federation	ロシア連邦
32	Senegal	セネガル共和国
33	South Africa	南アフリカ共和国
34	Japan-Fukuoka	日本一福岡
35	Spain	スペイン王国
36	Thailand	タイ王国
37	Tunisia	チュニジア共和国
38	Japan-Osaka	日本一大阪
39	Uganda	ウガンダ共和国
40	Uruguay	ウルグアイ東方共和国
41	Viet Nam	ベトナム社会主義共和国
42	Japan-Okayama	日本一岡山

Parallel presentation sessions Ⅱ～Ⅳ(Thursday,6th November)

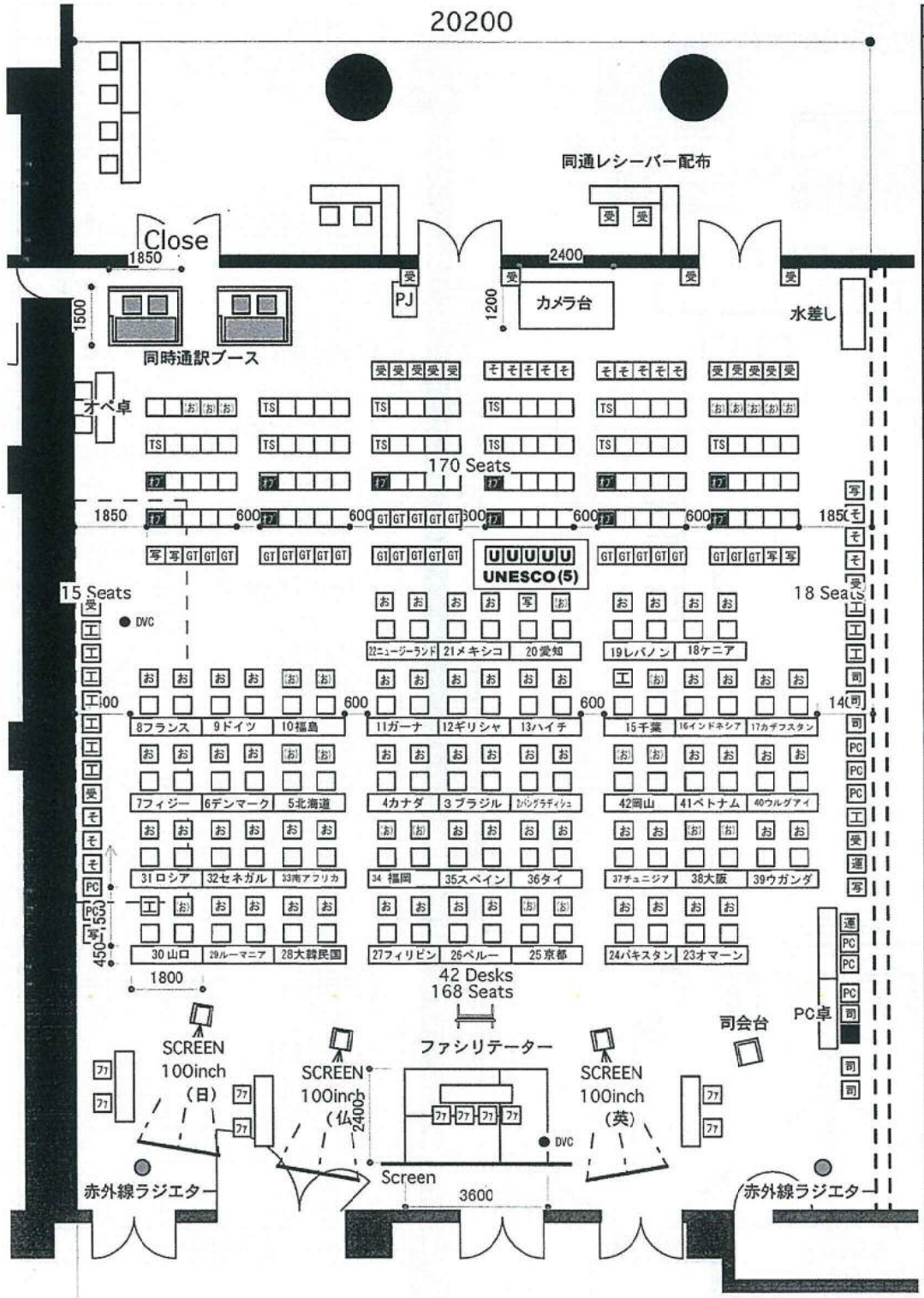
【プレゼンテーション　会場Ⅱ～Ⅳ(フェニックス1／3】



	Alphabetical Order	日本語名称
2	Bangladesh	バングラデシュ人民共和国
3	Brazil	ブラジル連邦共和国
4	Canada	カナダ
5	Japan-Hokkaido	日本一北海道
6	Denmark	デンマーク王国
7	Fiji	フィジー共和国
8	France	フランス共和国
9	Germany	ドイツ連邦共和国
10	Japan-Fukusima	日本一福島
11	Ghana	ガーナ共和国
12	Greece	ギリシャ共和国
13	Haiti	ハイチ共和国
15	Japan-Chiba	日本一千葉
16	Indonesia	インドネシア共和国
17	Kazakhstan	カザフスタン共和国
18	Kenya	ケニア共和国
19	Lebanon	レバノン共和国
20	Japan-Aichi	日本一愛知
21	Mexico	メキシコ合衆国
22	New Zealand	ニュージーランド
23	Oman	オマーン国
24	Pakistan	パキスタン・イスラム共和国
25	Japan-Kyoto	日本一京都
26	Peru	ペルー共和国
27	Philippines	フィリピン共和国
28	Republic of Korea	大韓民国
29	Romania	ルーマニア
30	Japan-Yamaguchi	日本一山口
31	Russian Federation	ロシア連邦
32	Senegal	セネガル共和国
33	South Africa	南アフリカ共和国
34	Japan-Fukuoka	日本一福岡
35	Spain	スペイン王国
36	Thailand	タイ王国
37	Tunisia	チュニジア共和国
38	Japan-Osaka	日本一大阪
39	Uganda	ウガンダ共和国
40	Uruguay	ウルグアイ東方共和国
41	Viet Nam	ベトナム社会主義共和国
42	Japan-Okayama	日本一岡山

Interactive Sessions (Thursday,6th November)

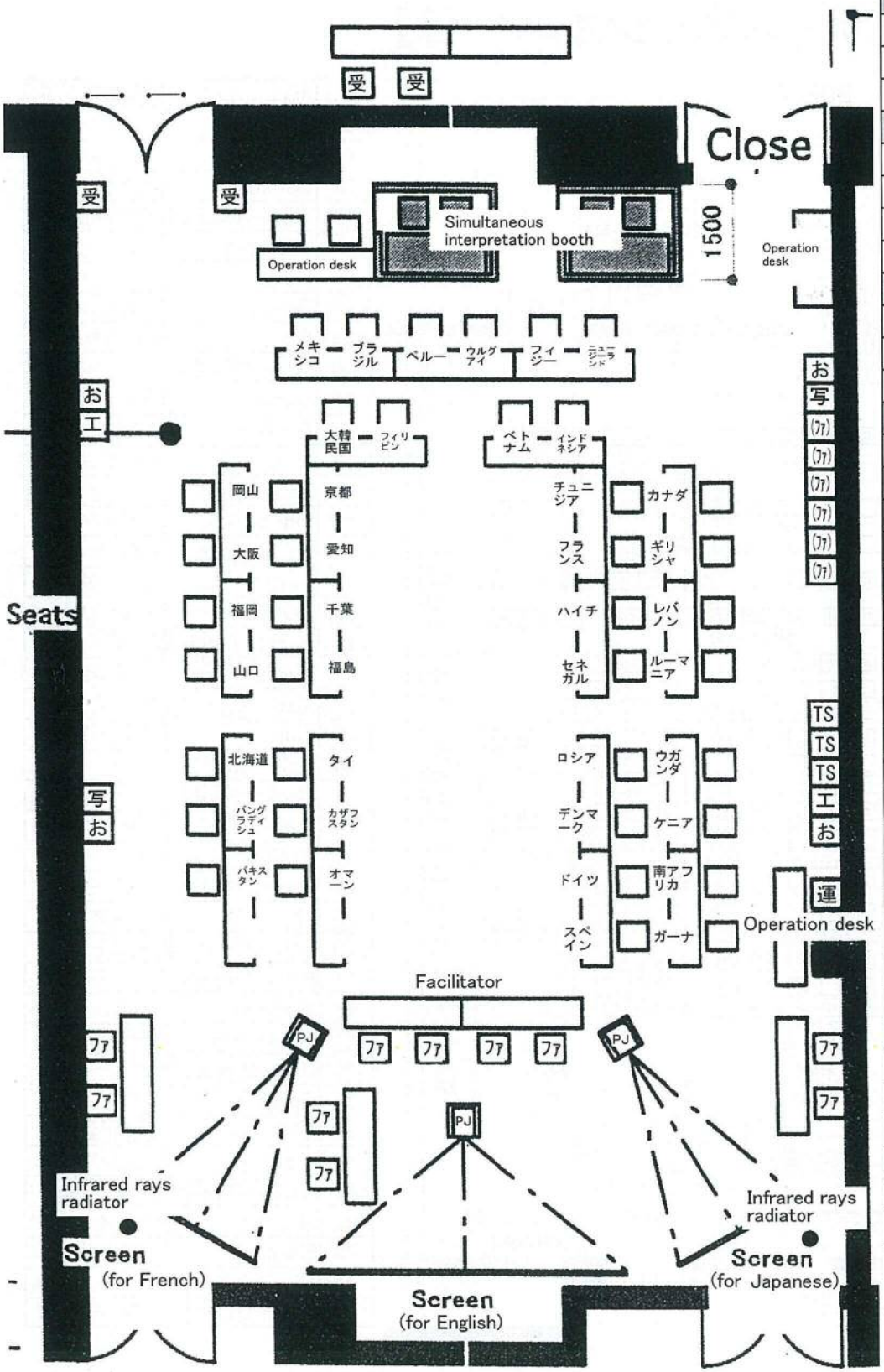
【ディスカッションA・B】



	Alphabetical Order	日本語名称
02	Bangladesh	バングラデシュ人民共和国
03	Brazil	ブラジル連邦共和国
04	Canada	カナダ
05	Japan-Hokkaido	日本一北海道
06	Denmark	デンマーク王国
07	Fiji	フィジー共和国
08	France	フランス共和国
09	Germany	ドイツ連邦共和国
10	Japan-Fukusima	日本一福島
11	Ghana	ガーナ共和国
12	Greece	ギリシャ共和国
13	Haiti	ハイチ共和国
15	Japan-Chiba	日本一千葉
16	Indonesia	インドネシア共和国
17	Kazakhstan	カザフスタン共和国
18	Kenya	ケニア共和国
19	Lebanon	レバノン共和国
20	Japan-Aichi	日本一愛知
21	Mexico	メキシコ合衆国
22	New Zealand	ニュージーランド
23	Oman	オマーン国
24	Pakistan	パキスタン・イスラム共和国
25	Japan-Kyoto	日本-京都
26	Peru	ペルー共和国
27	Philippines	フィリピン共和国
28	Republic of Korea	大韓民国
29	Romania	ルーマニア
30	Japan-Yamaguchi	日本一山口
31	Russian Federation	ロシア連邦
32	Senegal	セネガル共和国
33	South Africa	南アフリカ共和国
34	Japan-Fukuoka	日本一福岡
35	Spain	スペイン王国
36	Thailand	タイ王国
37	Tunisia	チュニジア共和国
38	Japan-Osaka	日本一大阪
39	Uganda	ウガンダ共和国
40	Uruguay	ウルグアイ東方共和国
41	Viet Nam	ベトナム社会主義共和国
42	Japan-Okayama	日本一岡山

Lunch meeting of the drafting group(Friday,7th November)

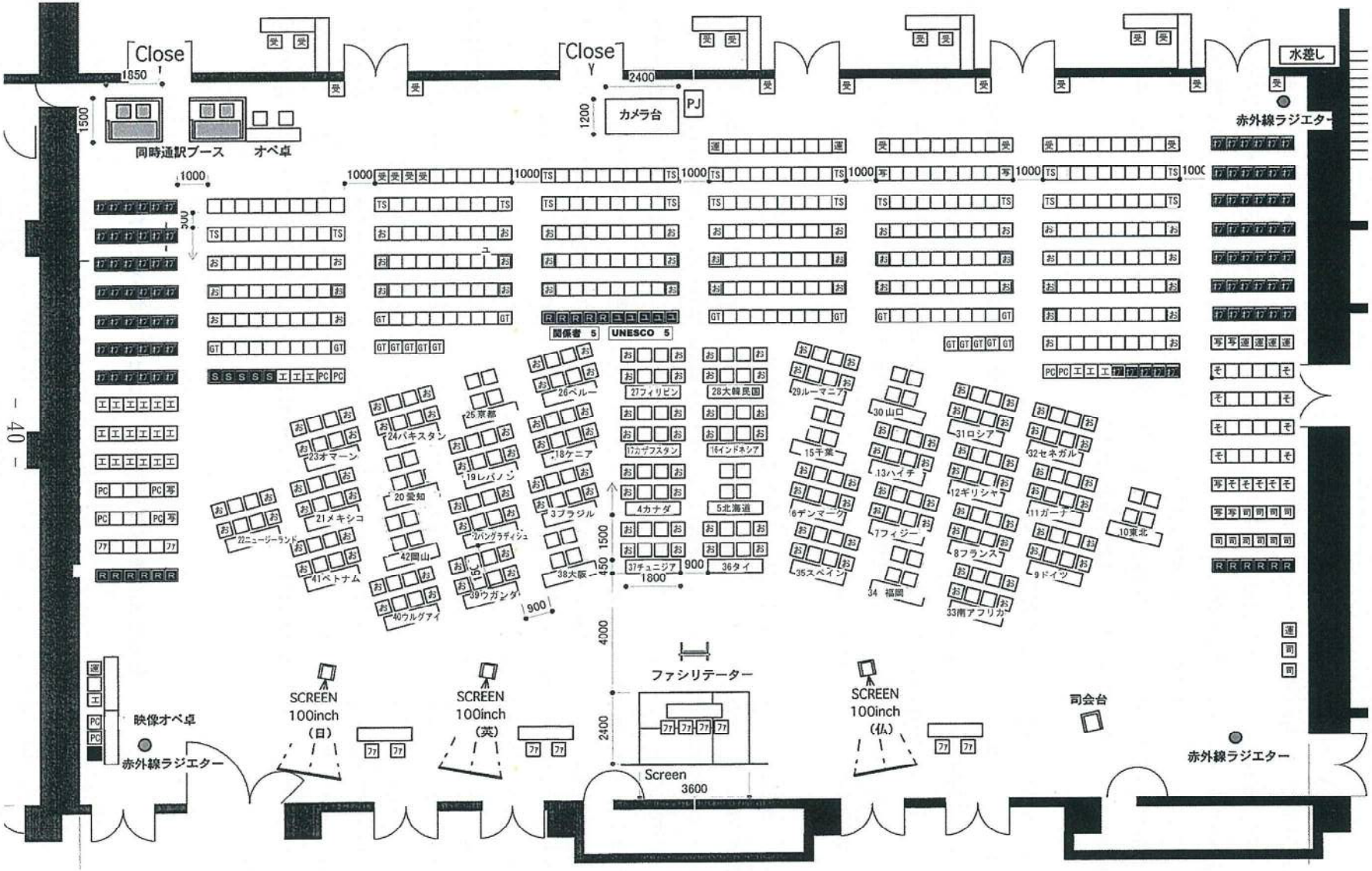
【宣言文起草委員会　3Fパール】



	Alphabetical Order	日本語名称
2	Bangladesh	バングラデシュ人民共和国
3	Brazil	ブラジル連邦共和国
4	Canada	カナダ
5	Japan-Hokkaido	日本一北海道
6	Denmark	デンマーク王国
7	Fiji	フィジー共和国
8	France	フランス共和国
9	Germany	ドイツ連邦共和国
10	Japan-Fukusima	日本一福島
11	Ghana	ガーナ共和国
12	Greece	ギリシャ共和国
13	Haiti	ハイチ共和国
15	Japan-Chiba	日本一千葉
16	Indonesia	インドネシア共和国
17	Kazakhstan	カザフスタン共和国
18	Kenya	ケニア共和国
19	Lebanon	レバノン共和国
20	Japan-Aichi	日本一愛知
21	Mexico	メキシコ合衆国
22	New Zealand	ニュージーランド
23	Oman	オマーン国
24	Pakistan	パキスタン・イスラム共和国
25	Japan-Kyoto	日本一京都
26	Peru	ペルー共和国
27	Philippines	フィリピン共和国
28	Republic of Korea	大韓民国
29	Romania	ルーマニア
30	Japan-Yamaguchi	日本一山口
31	Russian Federation	ロシア連邦
32	Senegal	セネガル共和国
33	South Africa	南アフリカ共和国
34	Japan-Fukuoka	日本一福岡
35	Spain	スペイン王国
36	Thailand	タイ王国
37	Tunisia	チュニジア共和国
38	Japan-Osaka	日本一大阪
39	Uganda	ウガンダ共和国
40	Uruguay	ウルグアイ東方共和国
41	Viet Nam	ベトナム社会主義共和国
42	Japan-Okayama	日本一岡山

Plenary discussion session&Plenary session (Friday,7th November)

【全体ディスカッション　宣言文採択】



	Alphabetical Order	日本語名称
2	Bangladesh	バングラデシュ人民共和国
3	Brazil	ブラジル連邦共和国
4	Canada	カナダ
5	Japan-Hokkaido	日本一北海道
6	Denmark	デンマーク王国
7	Fiji	フィジー共和国
8	France	フランス共和国
9	Germany	ドイツ連邦共和国
10	Japan-Fukusima	日本一福島
11	Ghana	ガーナ共和国
12	Greece	ギリシャ共和国
13	Haiti	ハイチ共和国
15	Japan-Chiba	日本一千葉
16	Indonesia	インドネシア共和国
17	Kazakhstan	カザフスタン共和国
18	Kenya	ケニア共和国
19	Lebanon	レバノン共和国
20	Japan-Aichi	日本一愛知
21	Mexico	メキシコ合衆国
22	New Zealand	ニュージーランド
23	Oman	オマーン国
24	Pakistan	パキスタン・イスラム共和国
25	Japan-Kyoto	日本一京都
26	Peru	ペルー共和国
27	Philippines	フィリピン共和国
28	Republic of Korea	大韓民国
29	Romania	ルーマニア
30	Japan-Yamaguchi	日本一山口
31	Russian Federation	ロシア連邦
32	Senegal	セネガル共和国
33	South Africa	南アフリカ共和国
34	Japan-Fukuoka	日本一福岡
35	Spain	スペイン王国
36	Thailand	タイ王国
37	Tunisia	チュニジア共和国
38	Japan-Osaka	日本一大阪
39	Uganda	ウガンダ共和国
40	Uruguay	ウルグアイ東方共和国
41	Viet Nam	ベトナム社会主義共和国
42	Japan-Okayama	日本一岡山

ユネスコスクール世界大会 2014

～ファシリテーターからのささやかな贈り物～

この２日間たくさんの意見を出していただき、とても素敵なディスカッションができました。
お土産として皆さんの意見を集めましたので思い出にどうぞ。

ディスカッション A　～持続可能性を阻害しているもの～

・古いものにとらわれている・若者の意識が低い・地域でのコミュニケーションが少ない・無駄遣い・コミュニティの連携が足りない・物質的、短期的な考え・教育とその現場が不十分・過剰な消費・ゴミが多い・余っている木々が有効活用されていない・ESD を知る機会が少ない・貧困による教育など様々な格差・経済発展と持続的発展を比べてしまう事・幼少期からの教育が足りていない・問題に対する優先順位がきちんとされていない・周りが見えていない・ルールを守らない・日常的にグローバルな学びが足りない・環境への問題意識の無さ・価値観を理解し合えない・自然災害への意識の低さ・活動に参加しづらい・問題解決への姿勢の低さ・具体的に行動に移せていない・自己中心的な考え、行動・環境と調和できていない・現状への理解が足りない・物事に対する真剣さが欠けていること

ディスカッション B　～持続可能性を促進しているもの～

・琵琶湖を大切にしている・ボランティアなどの活動・学校での様々な教育・家族のように仲がよいこと・意見の共有・思いやりの心・周りとの助け合い・異文化などの多様性・自然と向き合っていること・おもてなしの精神・リサイクル・地域のお祭り・国を越えた人々の繋がり・伝統文化・挨拶・チャレンジ精神・ゴミ拾い・協力性・私たちは一つだという意識・動物への愛・様々なアイデンティティ・文化を継承する努力・団結力や周りへの愛・相手を受け入れようとする心・自信を持っていること・偏見を減らそうとする姿勢・グローバルな活動・自然を大切にしていくという考えや姿勢・ユニバーサルな考え・将来へ目を向けていること・物事に対する責任感・世界の一員だという意識

全体ディスカッション　～私達が叶えていける社会・そのためには～

若者たちが責任感をもつこと・治安が良くバランスがある社会・皆で環境問題を解決していける社会・皆が自由に意見交換をしていく社会・全ての人が教育を受けられる社会・子どもたちへ ESD を伝えていくこと・キャンペーンなどを行っていくこと・自分たちが見本になっていくこと・互いの文化を知り、理解していくこと・人を大切に尊重していくこと・自分たちの力を活かしていくこと・様々な年代が意見を共有していくこと・自分が変わり心をひらいていくこと・どんな背景をもつ人も共生していける社会・祖先の考え、知識を知っていくこと・みんなが平等なチャンスを得られること・伝統を尊重していくこと・協力して持続性を保っていけること・木を植えたり友達と助け合ったりすること・地球と向き合う・各地域やその周りとコミュニケーションをとっていくこと・自分たちがコミュニティをつくっていく・異文化や価値観に寛容になる・文化に参画し活用していくこと・自分たちの教育を大切にしてその重要さを伝えていくこと・小さなことから行動していくこと・自分たちが実際に身をもって体験していくこと・一人ひとりが自分たちの力に気づくこと・自分たちから求めていき発信していくこと・自分たちの意識を変え言葉にして伝えていくこと・希望を伝えていくこと・様々な事に関心、興味をもつこと・実現できる目標をはっきりと持っていくこと・みんなに共通できる大事なことを考えていくこと・持続可能性や ESD ということを十分に理解すること・グローバルに活動していくこと・目標に向かって一生懸命に誠意を持つこと・長期的な視野を持ち行動していくこと・自分たちが中心になって啓発していくこと・若者にしかない創造力、想像力を活用すること・みんなが楽しみ興味を持てるような ESD 活動を創っていくこと・節約など若者ができるところからしていくこと・ここで話し合われた内容を学校や地域に知らせていくこと・3R の理念を大切にしていくこと・将来の夢を持ちどのように貢献できるか考えること・分かりやすいメッセージを伝えていくこと

たくさんの素敵な意見をありがとうございました。

ASPnet Platform for Students

～A heartful present from Facilitator team～

Discussion A

Constrained by the stereo type ・The motivation among young people is low ・There is little communication between regions ・waste money, resources, and so on ・Lack of combination between communities ・Materialism, and thinking shortly ・lack of education in local area ・Too much consumption ・Lots of garbage ・Not using surplus trees effectively ・Few opportunities to learn about ESD・Tend to compare the gap of many things such as education and economy・Lack of education from preschool・ Disorganized priority about those problems・Don't look around・Breaking rules・Lack of learning globally at the daily life・No consciousness for the environmental problems・Cannot understand other different point of view or values・Low consciousness about nature disaster・ Difficult to participate in the activities・Low attitude for resolving problems ・Not moving to the actual action・ Selfish thoughts, action・Not harmonized with the environment・Little understanding about present situation・ Not taking things seriously

Discussion B

Cherish Biwa lake・Activities such as volunteers, education at schools・Good terms with family・Sharing opinions, consideration for other people, helping each other・The diversity of cultures・Think about nature・The spirit of OMOTENASHI・Recycle・Festivals at the local area・People's bond beyond boundaries of nations・Traditional culture, Greeting, Challenging spirit, Picking up the wastes, Cooperation, Mind that "We are the global citizen" ・ Love toward animals・Various identities・Efforts to remain the culture・The power of the unit and love for other people・Confidence・Attitude for trying to reduce the discrimination・Global activities・Thoughts and attitude that "nature is important"・Universal idea ・Looking towards the future・Responsibility about things and what we are doing ・Idea of being "The member of the world"

Plenary Discussion

Young people need to have responsibility・ Safe and well balanced society・Society which can solve environmental problems together・ Society which we can exchange opinions freely・ Society which everyone can get education・ Teach children about ESD・Conduct campaign about ESD・ Be a model ・Know and understand each culture・ Respect others・ Make good use of our ability・ Many generation can share opinions・ Open one's heart through changing oneself・Society which any people can live together・ Know our ancestor's thoughts and knowledge・ Everyone can get chances equally・ Respect traditions・ Keep sustainability through cooperating・ Cooperate with each other・ Face to the earth・Communicate with people around you・ Make communities by ourselves・Be hospitable to other's culture and values・ Take part in and succeed to culture・ Convey the importance of education・ Start acting by small things・ Experience many things・ Realize one's ability・ Collect and send information・ Change one's attitude and convey in one's word・ Have hopes in common・ Get interested in many things・ Have clear goals that one can achieve・ Consider important things in common・ Understand deeply about sustainability and ESD・ Try one's best to achieve goal・ Take action in a long span・ Be the leader to educate others・ Make good use of our generation's creativity and imagination・ Create ESD activities everyone can enjoy and get interested in・ Starting with small things we can do・ Share information we discussed to schools and communities・ Cherish the idea of 3R(Reuse, Reduce and Recycle)・ Having dreams and think how we can contribute・ Convey messages we can understand easily

Thank you for giving us so many wonderful opinions!!

【ユネスコスクール世界大会 Student (高校生) フォーラム　参加者からの声】

(1) Thank you very much for the wonderful Conference and the perfect organization.
すばらしい会議と完璧な準備をありがとうございました。(ドイツチーム教員)

(2) Hello, I thank Japan for organizing ESD conference and for their extreme hospitality and kindness. Wishing them more success in their projects.
会議の準備運営に感謝します。すばらしいおもてなしと優しさをありがとう。

(3) I feel lucky and happy for participating in such a great event. Moreover, I feel more mature than before, because I gain an experience. On the other hand besides my happiness I feel an obligation and the need of acting in order to promote sustainability.
こんなすばらしいイベントに参加できてうれしい。この会議を経験してとても充実感を感じています。一方、持続可能な社会を推進していくために、行動を起こしていく義務があるとも感じています。
Even though the word is big, even though their language and skin differences we all have common problems, we find common solutions, we have common ideal. So all we have a common goal to make our world better.
言葉や肌はちがっていても、私たちには共通の課題があり、世界をより良いものにするための解決策や理想を持っています。
First, I look forward to describe what I have lived here. Also I will raise their awareness about thing which they don't know and I heard for first time here.
岡山での経験を自国に帰って伝え、会議に参加して初めて聞いたことについてみんなと共有したいと思います。
To Japanese students I want to say thank you by my heart, it is amazing how they organized something like this. May message is keep trying Merci beaucoup.
日本の高校生に心から感謝したいと思います。こんなにすばらしい運営や準備にびっくりしました。本当にありがとうと言いたいです。

(4) Thank you so much for being such a great host and thank you for trying so hard to communicate with us. You guys are very friendly and you created a lot of memories with us in just a few days. I was glad to meet you.
すばらしいおもてなしと私たちとコミュニケーションを図ろうと一生懸命に努力してくれていたことに感謝します。とても親しみを感じ、たった数日間ではあったけれどみんなに会えて良かったです。

(5) Thank you very much! You teach me diligence, self confidence, trust in the collective.
ありがとう！あなたがたは私に「勤勉、自信、信頼」というものを教えてくれました。

(6) Thank you so much for all your help and love these past ten days. We love you and miss you.
いろいろと助けてくれてありがとう。みんなと別れるのが寂しいです。

(7) I highly appreciate your genuine welcome to us and it was great to be able to be introduced to your culture and your own system of thinking. It was a great honor.
本当の「おもてなし」の気持ちに心から感謝します。日本の文化や考え方を教えてくれてありがとう。光栄です。

(8) Even though we had a hard time to communicate with each other, they still tried their best to communicate with us.
コミュニケーションをとるのがむずかしかったけど、いっしょうけんめいに話しかけてくれた。

(9) Being able to share the challenges in sustainable development present in the Philippines was indeed fulfilling knowing that in one way or another I became part of the big change that is about to happen in the future, if not yet soon.
今回、フィリピンでの持続可能な開発の課題を共有できる機会をもらい、それを知ろうと課題を果たそうとしたことで、自分自身が、すぐにではないにしても、将来起こそうとしている「変革」の一部になったような気がしました。

(10) One very notable observation was the heated argument among some delegates which was toned down in time. Opposing views are truly present in an affair like this one but it was amazing to see how these teenagers got so involved and concerned about the activity. Respect and acceptance were evident that in a diverse culture mentality is also diverse.
特記すべきは、何か国かの代表者による熱心な討論が行われた後、時間通りにディスカッションが終わったこと。本当にいろんな考え方があって、ティーンエイジャーもその当事者なんだということを経験してびっくりしました。文化も多様なら考え方も多様な中では尊敬と受容が必要とされました。

(11) Japanese are well-disciplined citizens. I am really amazed of how the leaders of Japan made its citizens disciplined, polite, and very honest. Truly amazing and impressive!
These Japanese were indeed admirable when I asked them about their dreams in the future, their answers were like: To Develop my country. I am impressed on how supportive they are to their country. How I wish most Filipinos have this kind of mindset. It is never too late if we start from ourselves. This trip was an eye-opener for a teenager like me.
日本人はとても規律正しく、どうやったら国の指導者は市民をこんなに礼儀正しく正直にできるのかびっくりしました。尊敬に値します。聞くと「国の発展のため」と答える人が多く、どれだけ国に協力的なのだろうと思いました。今からでも遅くないからこういった考え方がフィリピンにも必要だと思いました。ティーンエイジャーの私には目が覚めるような経験でした。

(12) Japan is so clean despite having few trash bins anywhere. They bring their trash with them and if they see rubbish on the street, they would pick it up and bring it with them and throw it where the bins can be found.
日本はそんなにゴミ箱がないのに本当にきれい。ゴミは持ち帰るし、落ちているゴミは拾ってゴミ箱まで持って行って捨てている。

(13) Frankly, I do know that not all of my classmates know of ESD, maybe only 2 or 3 people know of it due to their electives. The ESD projects that they have pushed me to tell other people about it.
クラスで２～３人ぐらいしかＥＳＤのことを知らなかったけど、帰ってみんなに伝える勇気をくれた。

(14) Their dedication made me think of more programs that I can propose to my school and possibly implement in the near future.
ＥＳＤに熱心に取り組むのを見て、学校に提案してみようという気になった。

【ユネスコスクール世界大会Student（高校生）フォーラム　運営スタッフ（高校生）の声】

●（おもてなし）（略)いよいよゲストとの顔合わせ会です。私の担当するゲストはウルグアイの方だったのですがスペイン語しか話せなくて、それがその場で発覚したこともあってすごく焦りました。全く会話ができなかったのでゲストもすごく緊張していましたが、事前に少しだけ調べておいた簡単なスペイン語で完全なカタカナ読みでも自己紹介をすると、笑顔になってくれて「やっぱり自分の国の言葉が聞けると安心するんだな」と思いました。その日はとりあえず調べたスペイン語を連発して、帰りもスペイン語で「さよなら」って言って笑顔で一日目を終えてもらうことができました。その夜は２時までかかっておもてなしをするのに必要なフレーズを調べて用意しました。
２日目です。朝エレベーターホールで会って私を見つけた時にすごく安心した顔で笑ってくれて、今日も一日この人たちのために頑張ろうって思いました。前の晩に調べたフレーズを駆使して仲良くなる努力をしました。全く触れたことのない言語しか話せない相手でも気持ちさえあれば伝えあえることを学びました。ゲストも私に一生懸命伝えてくれて、その気持ちがすごく嬉しかったです。フレーズを書いた紙を私が見ているとゲストも書いてある日本語を分からないだろうに一緒に見てくれて、海外の人ってすることが可愛いなって感じました。でもその後お別れ前の最後のお話できる時には、前日に苦労して書いたスペイン語のお手紙を笑顔で渡せて笑顔で読んでくれて、本当に頑張って良かったなと実感しました。その時のゲストの笑顔がこの３日間で一番の笑顔だったので、ずっと忘れられません。この２年間高めてきたハートとスキル、たくさんの人が関わって１つのことができるということ、私たち高校生でも今回のような世界大会を運営できること、世界中の人の地球にたいする考え、世界中の人の笑顔はきっと、私の人生の一番大事な宝物としていつまでも心の真ん中で輝き、いつか地球の未来を明るく照らす光となることでしょう。

●（おもてなし）この大会を通して私は「世界」というものが実は隣り合っていて、どの国の人も自分の国が大好きで、他の国も大好きということが分かった。今回は３日間という短い期間だったが、たくさんの笑顔をみることができた。これと同じ経験はこれから簡単にはできないが、将来に生かしていきたいと思う。最後に支えてくださった先生方を初めとする、大会に参加してくださったゲストの方に、このすばらしい経験をさせてくださったことに心から感謝します。

●（ファシリテーター）ESD の活動を通して経験したことは私が今まで経験したどんなことよりも素晴らしいものだった。思い返せば去年の６月、私にとって初めての準備セミナーのことは今でも鮮明に覚えている。少し恥ずかしくなるくらいの温かい拍手や気持ちのよい挨拶など全てに圧倒され、ただただ感心するばかりだった。けれど何回か準備セミナーに参加するうちに自分も ESD の考え方というものを吸収し、拍手や挨拶、他への気配りというものを恥ずかしがることなく自然と身につけることができた。最初は意味も良くわからなかったあいこじゃんけんの考えがどんなに素敵なものか、会場をきれいに装飾することがどんなに大切なことかが理解できるようになり、その素晴らしさに気付いた。私にとって準備セミナーは毎回、必ず一つはこれから先、生きていくうえで一生大切にしていきたいと思うものが学べる場であった。あたりまえのように思えることでもこの活動に参加しなかったら身につけることができなかったことがたくさんあった。学校や部活と両立させて準備セミナー全てに参加するのは簡単なことではなかったけれどきちんと参加して本当によかった。(略)ディスカッションに参加してくれた全員が満足に発言できたわけではないだろう。けれど他のチームの意見にしっかりと耳を傾け、話し合いがスムーズにいくように協力してくれた。私はその姿勢や温かさに感動し、嬉しく思った。今回、参加してくれた皆は驚くほどたくさんの意見を持っていて、持続可能な社会について考えていたし、高校生でも自分の国で起こっている問題や世界が抱える課題にしっかりと目を向けていた。また、世界の高校生はそれぞれが理想の未来や社会というビジョンをしっかりと持っていたのだ。そしてそれを実現するために様々なことを学び、自分たちが率先して世界をよいものにしていくという強い気持ちで様々なことに挑戦していた。その姿をみて私は様々なことを学び、まだまだ努力しなければならないと痛感した。私は今回のフォーラムに参加できたこと、ESD の活動に関わらせてもらえたこと、全てを奇跡のようなことだと感じている。この１年半は私が今まで生きてきた中で一番、出会いの多い時間であった。今まで知らなかった事実、考え、たくさんの仲間、数えきれないほどたくさんの出会いを経験した。このような機会がなければ決してこんなにもたくさんの出会いを経験することはなかったはずだ。全ての出会いに心から感謝したい。このフォーラムは高校生の私たちが持続可能な未来について考える第一歩になったと思う。これで終わりではない。このフォーラムに参加した私たちがこの経験を生かして誰かのために、社会のために、環境のために貢献していくことが重要なのである。これから素敵な世界を作っていくのは私たち高校生だ。どんなに小さなことでもいい。いつも ESD の考え方を心に留めておいて、行動する。それだけできっと自分たちの行動は変わる。その小さな心がけが合わさって、世界を持続可能なものにすることにつながるのだ。理想の未来を創っていくのはけっして一人ではない。仲間の力を信じて、自分ができることをしていきたい。

●普通に学校生活を送っていたら知ることがなかったし、学ぶことのないことも学びました。私はこの大会やセミナーで培った経験をこの先の人生に生かして行こうと思いました。

●グランヴィアからコンベンションセンターまでウガンダの方を探しに全力疾走したのはいい思い出になったと思います。起草委員会の方々が入場したときの会場の盛り上がりがすごかったです！本当にここは岡山なのだろうかとさえ思いました。運営スタッフの生徒がみんな地下に集まったとき、自然と涙がこみ上げてきました。これで、もうＥＳＤの会議が終わってしまったのだと思うと、とてもさみしかったです。ＥＳＤの活動を通してできた仲間に会えなくなるのがとても辛かったです。みんなで３分だけ集合！というときを作ってくれた先生方ありがとうございます。別れる時も涙が流れてしまいましたが、いつかまた、世界のどこかで、絶対に会える。そう約束しました。今までのＥＳＤ活動を通して学んだことは、みんなで一つのものをつくること、率先して取り組むこと、勝ち負けのない平和な世界を志すこと、分かち合うこと、などたくさんありました。この活動を通して、自分はおそらく人として階段をいくつか登れたのではないかと思います。ＥＳＤで

学んだことは今後でも必ず役に立つので、忘れずにいたいです。

●ここからは私が学んだこと生かすことが私に課された使命だと思ってます。

●(写録)1年以上かけて準備してきた世界大会を迎えることができました。準備セミナーでは、本当に本番で上手くいくのか、係内で上手く連携ができるのか、など不安なことが多かったです。1年目の時の感想を振り返ってみると「記録をする」ことにとらわれていた自分がいました。準備セミナーに参加して、実際に自分の役割を感じたときに、「未来に残すための記録をする」ことの大切さや、「自分が撮りたい写真を撮る」ということを学ぶことができました。また、議長団や運営、司会、オツキーズなどの1人1人が頑張っている姿が、自然に自分の中に入ってきて、いつのまにかどんどん撮ることができていました。準備セミナーでの世界大会のリハーサルが終わり、自分の撮った写真を見てみると、1人1人の様々な表情や会場の雰囲気など、自分が撮りたかった写真がたくさんありました。その時、これが自分の仕事、役割なのかと自分自身で感じ、とても嬉しかったことを思い出します。ESDの精神である「スキルとハート」が表現でき、世界大会の成功に繋がるのではないかと考えました。また、準備セミナーの時に「心を尽くして運営をする」と伊井先生はおっしゃっていました。写録は、フォーラムの運営に直接かかわることは少ないですが、写録の仕事の重要さは、フォーラムの運営を未来に教えること、伝えることではないかと思いました。

●（おもてなし）まずは、この世界会議が実現し、成功に終わったことを、嬉しく思います。半年間だけしか参加していないものの、胸いっぱいの達成感に包まれています。このつながりが新しい何かを生むかもしれない事に、ワクワクしています。世界中からあんなに大勢の同年代の若者たちが集まって、一つの結論を作り上げる瞬間に立ち会えたことが誇らしいです。岡山や大阪から来た高校生スタッフ、運営に携わった大人の方々、遠路はるばる来てくれたゲスト、そしてこのフォーラムで採択された宣言文を知った人皆が、一パーセント増しの努力をするだけでも案外周りの環境が変わるかもしれません。他人のする200パーセントの努力を期待する怠惰さは、いずれ破滅を呼ぶものになるでしょう。積もった塵は崩れ落ちて地球を破壊する災厄になるのか、大きな山となって地球を守るものになるのか、ディスカッションに参加しなかった私たちおもてなし係りでも始められる小さな努力を守りたいです。

●（おもてなし）もっと英語を勉強しなきゃと思いました。いちばん驚いたのは通訳の人です。生で通訳を聞けていい経験ができました。ゲストの対応もとてもいい経験ができました。あまり言葉でのコミュニケーションはとれませんでしたが、頑張って伝えようとすれば理解してくれて、とても嬉しかったです。この貴重な経験をこれからの人生に活かしていきたいです。

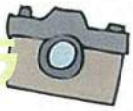
●各国のプレゼンテーションの内容を見るのはとても良い機会だったなと思います。他の国の私たちと同世代の人たちが、ＥＳＤという共通のテーマから、どういう風にアクションを起こして活動しているのか、とても興味深いものでした。特に私が驚いたのは、ディスカッションです。自分たちの意見を発言するために、挙手の多さに本当に驚きました。質問のときに発言を繰り越されるチームが続出するのを見て、日本のみで行ったディスカッションを思い出し、日本はやはり消極的なのだと感じました。最後の宣言文採択の際も質問が多かったのが印象的でした。ＥＳＤの活動は実質的に今年がまとめだったけど、この活動はこれからも私たちが広めていかなければならない。ここで終わらせてはいけないと強く思いました。

●ディスカッションでは、自分と同じ世代の人達が発言をしているとは思えないほどの意見ばかりがでてきて、もっと自国の事について考えなければいけないと思いました。しかし、他の国でどんな事が起きていて、それを解決するための方法を知る機会になったので、とってもいいディスカッションでした。

●４月はまったく意味も知らなかったESDという言葉は、今では身近なものになりました。世界中から集まった同世代のみんなが同じ時間、同じ場所で同じことを考えていたという事実が改めてなんてすごいことなんだろうって思います。そこに居られたことが誇りです。もっとゲストに一緒にいたかったと思っているなんて、４月のわたしはきっと驚くだろうな。そう思うとやっぱり参加してよかったと実感します。高校生の今、こんなにも特別な経験をさせて頂いたことに感謝でいっぱいです。わたしの通う学校がユネスコスクールで、国際会議がわたしの住む岡山で行われて、それがわたしの在学中で。なんて奇跡なんだろうと思います。頑張りきることができて良かったです。中途半端に参加してたらこんな気分になれなかったと思います。だからこそ充実したユネスコ高校生フォーラムでした。

●(受付案内) 沢山の海外ゲストの方を目の前にして今自分がこの場所にいれることが本当にすごいことなんだなと実感しました。どの国もその国その国の環境問題、貧困問題をしっかりとあの短時間のなかで伝えていてすごいと思いました。みんな同年代なのに自分のしていること、考えていることがすごく小さいことのように思えて他の人たちがすごく大きく見えました。ディスカッションでは、日本の高校生だけでは絶対にできないような積極性で沢山の国の名前がかかれた札があがりそしてなにもよりも発表している意見がしっかりしていて、海外の同年代の人の率直な意見が聞けました。国の環境、治安なども違うので日本ではでないような意見などもたくさん出ていて私が知っている他の国の認識が変わりました。そして、もっと日本も含め他の国がもっと豊かに平和になっていけるようにするためにはなにをすればいいのか考えていく必要があります。高校生ということで大人は私たちの意見を真剣に聞いてくれないかもしれませんが、高校生でもしっかりとした自分の意見を持っているからそのことをこの世界大会を通して大人の方に少しでも知ってもらえたらいいなと思いました。本当にこのフォーラムに参加できてよかったです。ありがとうございました。

ユネスコスクール世界大会　with カメラ



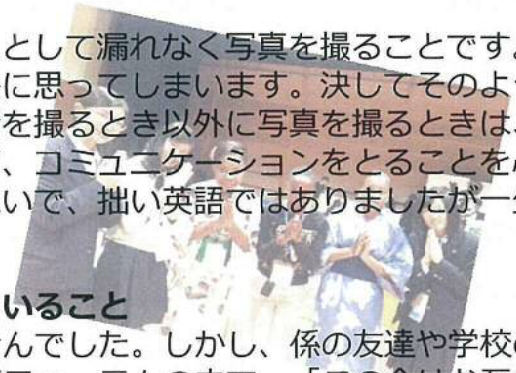
2年　写録係

1.写録係の仕事について

写録係とは、ゲストや裏方などの写真を撮る係です。また、会議の様子を撮影したりもします。みんなの真剣な表情はもちろん、休憩時間の明るい表情や楽しそうな表情を写真に収め、記録に残していく重要な係でした。また、いろいろな係と連携したり、ゲストの方々へのプレゼントとしてスライドショーを作るなどの仕事もしていきました。

2.写録係として自分がしたことや気をつけたこと

写録係で気をつけなければいけなかったことは、誰一人として漏れなく写真を撮ることです。どこかの国だけの写真がなかったら、その国の方々は不快に思ってしまいます。決してそのようなことがないようにしました。また、みんなの真剣な表情を撮るとき以外に写真を撮るときは、ゲストの方々に一言声をかけ、日本のポーズを教えるなど、コミュニケーションをとることを心がけました。少しでも楽しくすごしてもらいたいという思いで、拙い英語ではありましたが一生懸命頑張りました。



3．高校生フォーラム（及び準備セミナー）で心に残っていること

私は１年目だったので、最初は何がなんだか分かりませんでした。しかし、係の友達や学校の友達などが優しく教えてくれました。本番に向けての準備フォーラムの中で、「この会はお互いの協力や支え合い、一人ひとりのやる気と頑張りで成り立っているんだな。」と感じました。高校生だけで会を運営すると聞いたときは、多少の不安もあったけど、準備フォーラムを行うたびに、この会は成功するという確信が強くなっていきました。

緊張しながら迎えた本番は、自分の責任を全うしながら、会議の内容も聞いていました。高校生とは思えないほどの話し合いで、正直びっくりしました。どこの国も自分たちの意見を積極的に発表し、意見が途切れることなく会が進んでいく光景に感動しました。持続可能な平和な世界を作るという同じ志を持った高校生がこんなにもいることを目の当たりにして、未来は明るいなと思いました。

4．学んだこと・気づいたこと

ユネスコスクール世界大会を通して、世界には持続可能な平和な世界を作るために高い志を持ちながら生きている高校生がたくさんいることを知りました。私たちにできることは限られているかもしれないけど、あきらめずに問題を解決しようとすることが大切なんだと分かりました。また、言葉が通じなかったとしても、コミュニケーションをとろうとしたり笑顔で接することで心が通じ合うんだと分かりました。お互いが思いやり、協力し、支え合うことが持続可能な平和な世界をつくっていく大切な鍵なんだと気づきました。

5．持続可能な社会を実現するために必要だと思うこと

何事も何かを成そうとすれば、それについて知らなければなりません。持続可能な社会を作るためには、まず、世界に溢れている問題を知らなければいけないと思います。そして、決してあきらめずに努力し続けることが必要だと思います。

6．今回の経験を将来どう生かすか

普通の高校生ではなかなか経験できないような貴重な経験させていただきました。私は、将来、海外にでて仕事をしたいと思っています。貧困や紛争などの問題で苦しんでいる人たちを救うことが私の夢です。その夢を成すために、今回の経験をもとに、より詳しく世界の問題を知り、自分ができることが何かということを考えながら、困難が立ちはだかったとしてもあきらめずに頑張っていきたいです。

海外ゲストとふれあうことで学んだ世界のこと、日本のこと、自分のこと。

1年（おもてなし係）

おもてなし係の仕事は、名前の通り、海外ゲストのおもてなしをすることです。

慣れない地へ各国の代表としてやって来たゲストの緊張を和らげたり、会の進行がスムーズにいくようにサポートしたりするのが我々の仕事です。

各国ゲストを担当するおもてなし係はそれぞれ10人前後いて、全員がチームとして連携を取る必要があります。1人のゲストには2〜3人のおもてなし係が付き、この2〜3人には一層のチームワークが要されます。担当国は7月に大坂で行われた準備セミナーで決定しました。急きょ来られなくなったゲストやおもてなし係の生徒が出たことで、本番直前にメンバーや担当の国が変わってしまうということもありましたが、そういったさまざまな問題にも**全員が協力して対処する**というのも、おもてなし係の重要な役割のひとつです。

私は、セネガルという国を担当しました。しかし、私ははじめセネガルについて何も知りませんでした。どこにあるのか、何語を話すのか、文化、宗教…。

調べるにつれて、様々なことがわかりました。アフリカの西端に位置し、イスラム教徒が多いこと。ポイ捨ての文化によるごみ問題が深刻な国であること。一番役に立った情報は、公用語がフランス語であるということでした。

ゲストの母国語を話すことで、ゲストに安心感を与え、距離を縮めることができるのではないか？安易ではありますがそんな考えが浮かんだのです。1から覚えるということは叶わなかったですが、あいさつ、自己紹介、そして「私はフランス語が話せません」の3つを言えるようにして本番に臨みました。

また、セミナーの中で、“ゲストへのお土産”という話が上がっており、私も何か渡したいと考えていました。あまり高価なものでなく、日本について知ってもらえるものということで、「日本についての雑誌」というものを思いつきました。食文化、四季、流行など、簡単なガイドブックは、日本について知ってもらうのにピッタリではないかと思ったのです。私と同じゲストをおもてなしする2人は大阪の生徒で、3人一緒に作業できる時間は本番と同じ3日間のみ。そんな中、それぞれの得意分野やできることを探して役割分担をすることで、完成させることはできなかったものの、ゲストにとても喜んでもらえるお土産を渡すことができました。また、日本のおしゃれで実用的な文化を伝えるという意味で、ちりめんでできた巾着袋もお土産として渡しました。

これらの仕事をするにあたって、5月から準備セミナーがありましたが、当初から何度も言われてきたことがいくつかあります。**●スケジュールを把握しておくこと●常に周りを見ること●臨機応変に対処すること●メモを取ること●時計を見ること●笑顔を絶やさないこと**…など様々です。すべてが、日常をよりよく送るためにも欠かせないものであると学びました。

また、私はこのフォーラムで**異国の文化に触れあうことによって、考えもしなかった日本の文化について学ばされました。**

私は、本番中に出されたすべての食事をゲストたちととりました。そこで、日々私たちが当たり前に使っている箸も、使っていないゲストたちにはそもそも使い方が分からないのです。教えると、真似てくれる人、あきらめてフォークで食べる人、左右に一本ずつの箸を持って器用に食事をしている人もいました。また薄い味付けの日本料理には好き嫌いがあったり、外見だけでは何かわからない椎茸を怪しがって結局食べなかったり。その全てが私にとって刺激となったし、今まで持っていた認識も、いい意味でガラッと変わってしまいました。

そして、最も学ばされたのは、**言葉の壁があっても、お互いに伝えたい、話したいという気持ちがあれば会話だってできるし、友達にもなれるということです。**

それが身をもって実感できたのは自分の中で非常に大きな財産だと思うし、これから糧にもなっていくと思います。

私はこの世界大会に参加して、いろんな国の人に出会い、会話をし、写真を撮り、そして友達になりました。別れ際に、私の担当したゲストは涙を浮かべてハグをしに来てくれました。

例えば、その中の誰かの母国と我々日本との間でトラブルが起こったり、戦争になったりしたらと考えると、とても苦しい気持ちになります。他の誰かと誰かの母国間でもそうです。逆に誰かが困っていたら率先して手を差し伸べたいと思います。もちろん今までも戦争は嫌だったし、困ったときに助け合える関係は理想であると考えていましたが、実際に世界のたくさんの人と会うことでそれらの気持ちを一層強く受け止め、深刻に考えるようになりました。そして、持続可能な社会を実現するために必要なのはこれだ、と思ったのです。

つまり、皆がお互いのことを思いやれば戦争なんて起こらないはずなのです。環境問題においても、問題を抱える国のことを周りの豊かな国が思いやって改善していけたらいいと思うのです。

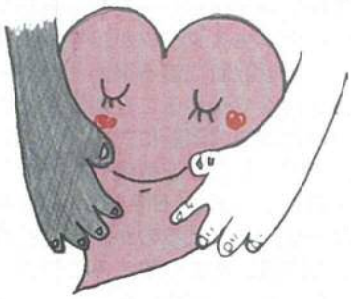
それは、一人が声を上げるだけでは何も変わりません。**より多くの人が、少しずつでも、遠くの国に住む友達、これから友達になる人について思いを馳せ、その人の役に立つに自分は何ができるのかを考え、少しの勇気を持って行動することが、持続可能な社会を実現していくのだと考えます。**

セミナーに参加する前、私はとても人見知りで、人と話をするのもあまり得意ではありませんでした。正直、みんなの足を引っ張らないかばかりを考えてしまって、何をするにもなかなか積極的になれませんでした。

しかし、運営スタッフとして活動するという責任感が徐々に芽生え、**“自分にしかできない仕事”や、“自分なりのおもてなし”について考えるようになりました。**

そして段々と周りの人とのコミュニケーションも増えていき、国内にもたくさんの友達を作ることができました。自分にとってのこの仕事は、自分をひと周りもふた周りも成長させてくれたと思います。

また、**普段経験することのない環境の中で自分にどれだけのことができるのか？**それを改めて知ることのできる良い機会でもありました。その中でたくさんの課題が見つかりました。たとえば、体調管理ができてなくて本番中ゲストに心配をかけてしまったり、積極的にゲストに話しかけるということができず、伝えたかった日本の魅力などが話せなかったりしたことを後悔しています。他にも細かいことを挙げ始めれば止まりません。しかし同時にいくつかの成果も出すことができました。本番前から練習していたフランス語。慣れないながら入手した情報をゲストに英語で伝えスムーズに移動して会を進めるサポートをすることも出来ました。**それら両方を、今後の自分に生かせるようにしていけるといいなと思っています。**



【ユネスコスクール世界大会 Student (高校生) フォーラム　運営スタッフ (大学生) の声】

●高校生が主体でやるということだったが、やはり、ユネスコや岡山市の決まり事もあり、その調整が難しいと思った。高校生のサポートをしないといけないというのは、分かっていたが、ここは高校生ではできないこと。というのをどう伝えるかというのは、すごく難しいと思った。海外ゲストの誘導などは頑張って行ったとは思っているので、そこはよかったのではないかとおもう。

●私自身、高校生や同じ学生スタッフ、そして先生方に毎回助けられてばかりでしたので、生徒の良きフォロワーであったかという点については、正直自信がありません。けれども、このチームで、そしてフォーラムの活動全体を通して、長年興味を持ち続けていた「ひらかれた学びのあり方」を考え直すきっかけと、実際に新たな視点 を獲得することができたように思います。

●こちらが、サポートする立場なのに、高校生に気を利かせてもらったり、困っていると手を貸してくれたり、自分たちで考え行動している高校生の姿を見て頑張ろうと思えたり、本当にこちらが助けてもらうことが多くありました。きっとその優しさや気配り、自ら動く姿勢も、このフォーラムに向けて努力してきた賜物だと思います。外国人ゲストを迎え、一緒にＥＳＤについて考え、笑い合う姿は本当にキラキラしていて、未来は明るいと感じました。私自身、相手のことを考えて動くことや、先回りして動くことの大切さを学び、少しでも成長できたと思います。本当に感謝です。出会った方々とのつながりを大切に、私自身もこれからもＥＳＤについて考えて、伝えていけたらと思います。

●3日間を通して、高校生とゲストの楽しそうな顔がたくさんみられてこっちまで楽しくなりました。リハーサルの時点では、本当にうまくいくのか不安な点が多々ありましたが、終わって振り返ってみると大成功に終わったと思います。3日目の最後には、高校生とゲストのお別れの際には泣いている子もいて、それほど濃い時間を過ごせたのだなと感慨深かったです。高校生でこのようなかたちで大勢の海外の人と関わる機会があるのはとても貴重なことなので羨ましく、またそれをサポートできることができ本当によかったです。

●私は途中から高校生フォーラムに関わらせてもらったのですが，それでも一年近くかけて準備してきたことを今日と明日で成功させなければいけないと思うと、本番前はとても緊張していました。緊張していたのは高校生も同じで，本番前にそのことで話しをしました。ここまできたら後はもうやるしかないよね，後悔しないようにお互い頑張ろうと激励しあい，本番に臨みました。高校生フォーラムを成功させようという思いを一人ひとりが持っていることがこちらにも伝わっていたし，頼もしくも感じました。

●高校生フォーラムでは、高校生が活躍する姿や生徒の成長が見られたこと、達成感に溢れている高校生の姿を見て、改めてこのフォーラムに自分自身が関われたことに感謝をしています。至らない点が多々あったと思いますが、私なりに考えて行動できたフォーラムだったと思います。最初は高校生のためにできること、を探していましたが、フォーラムが終わった今、誰かのためにやっていた、そのことが自分の成長に繋がっていたと感じます。自分自身もこのフォーラムを通して成長できました。目標に向かって、みんなで知恵を出し合い、協力し、そして達成するということは、大人になるにつれて少なくなってくるなかで、このような経験はとても貴重な経験だったと思います。

●私がESDに関わっていた期間はたったの10ヶ月ですが、その期間の中で高校生のめざましい成長を感じました。特にフォーラムの３日間では状況に応じて臨機応変に動いて、引っ張っていく姿に感動しました。ディスカッションでは日本だけでなく、世界各国の高校生たちが世界の未来について語る真剣な眼差しに鳥肌がたつほどでした。世界から集まった高校生たちが同じ問題について考える光景は本当にすばらしかったです。自分自身も彼らからたくさんの刺激を受けました。今回こうやって同じ空間で高校生の支えるスタッフとして活動できたことに心から感謝したいです。至らないことばかりでしたが、共にがんばってきた高校生、大学生、市役所の方々、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

●プレゼンチームは、最後の1ヶ月、毎週日曜日に練習を重ね、合宿を行い、本番に臨みました。英語での発表、原稿を暗記しての発表（できるだけ前を向いて話すことを意識したため）ということで、本当に大変だったと思います。10月は学校のテストや模試、生徒会など学校の行事が忙しい中、通学時間や夜遅く等、隙間時間を見つけて練習をしたそうです。それでも不安や自分の理想に届かないもどかしさから泣いてしまっていたこともありました。そんな中、迎えた本番。最高の発表ができたと思います。英語でまた、前を向いて発表したために、海外の参加者にも自分たちの言葉で自分たちの想いを直接伝えることができました。私は、あえて会場の一番後ろの角の席で発表をみていましたが、本当に心に響く発表でした。発表が終わった直後、プレゼンチームの子が泣いているのをみて、私も泣いてしまいました。世界中のいろんな地域の人がいる会場で自分たちの想いを伝え、届ける経験をした高校生が今後どんな大人になるのか心から楽しみにしています！

●高校生と直接関わり、高校生から学び、共に活動できたこの経験は、教師を目指すわたしにとって、視野が広がり、今後の糧となる経験になりました。ありがとうございました。

●準備セミナー、高校生フォーラム本番を終え、今心に残ることは「人との出会い」です。言葉が通じないゲストの方に笑顔でジェスチャーをして自分たちで出来る精一杯をやろうとする、おもてなしの高校生の姿は本番とても輝いていました。大学生スタッフが口を挟まなくても高校生は自分たちで考え、悩み、話し合いながら解決策を導き出していました。これは複数回に渡る準備セミナーを通して仲間意識や団結力が芽生えているからだと感じました。このような高校生の成長を近くで感じることが出来たこと、高校生を支える先生や色々な大学の学生に出会たこと、そして海外のゲストとESDというひとつの課題に対して共に考えることが出来たことは教員を目指す中でとても深い経験になりました。このフォーラムで学んだことを教員になってからも考え続けていきたいです。

●エピソード。3日目に、岡山駅改札口付近を歩いていると、一般女性が尋ねてきた。「どこの高校に入ったら、あのような高校生になれるのか。詳しく教えてほしい」と言われた。私はいつも高校生と関わっていたため、そう言われるまで、この高校生たちのすごみに気づかなかった。自分自身は小学校の先生になるので、高校生と関わることができないかもしれないが、高校生フォーラムに参加した高校生のようになってもらえるようがんばっていきたい。

ユネスコスクール世界大会Student（高校生）フォーラム地域交流会（概要）
海外参加国の国内割り振り

○市立札幌大通高校（北海道）
デンマーク王国、ケニア共和国、カナダ、カザフスタン共和国　　４か国

○県立安達高校（東北：福島県）
フランス共和国、レバノン共和国、ペルー共和国、バングラデシュ人民共和国　　４か国

○県立佐倉南高校、県立千葉東高校、市川学園市川高校、渋谷教育学園幕張高校（関東：千葉県）
南アフリカ共和国、ニュージーランド、~~インド~~、ベトナム社会主義共和国　　３~~４~~か国
※インド 不参加

○県立豊田東高校（中部：愛知県）
ドイツ連邦共和国、オマーン国、ハイチ共和国、タイ王国　　４か国

○京都外大西高校（近畿：京都府）
ギリシャ共和国、セネガル共和国、フィジー共和国、インドネシア共和国　　４か国

○高水学園高水高校（中国：山口県）
ロシア、ガーナ共和国、ブラジル連邦共和国、大韓民国　　４か国

○県立城南高校、県立武蔵台高校（九州：福岡県）
スペイン、チュニジア共和国、ウルグアイ東方共和国、パキスタン・イスラム共和国　　４か国

○岡山県内ユネスコスクール加盟校等
岡山一宮高校…メキシコ合衆国、~~和気閑谷高校…バーレーン王国~~、岡山学芸館高校…ルーマニア
清心女子高校…フィリピン共和国、倉敷商業高校…ウガンダ共和国　　４~~５~~か国
※バーレーン王国 不参加

地域交流会報告書

学校名	岡山県立岡山一宮高等学校	交流国	メキシコ

1 日程

11月4日		11月5日		
8:30		8:00	一宮高発	
8:50		8:30	ホテルグランヴィア岡山発	【移動手段：中型バス】
9:45		9:00	↑ 移動	
9:50		9:15	↓	
10:30		10:00	JFEスチール（倉敷市水島）着	
11:00		10:30	↑	
11:50		11:00	工場見学	
12:00		11:30	↓	
12:30	メキシコからの飛行機がフライトキャンセルになり、11/4夜遅くに岡山への到着となったため、11/4の地域交流会は中止	11:45	JFEスチール（倉敷市水島）発	
13:00		12:15	鷲羽山展望台着　昼食・散策	【移動手段：中型バス】
13:30		13:00	鷲羽山展望台出発	
14:00		13:30	与島PA着、与島PA内散策	
14:30		14:00	与島PA発	
15:00		15:00	ホテルグランヴィア岡山着	【移動手段：中型バス】
15:30		15:30		
16:00		16:00		
16:30		16:30		
17:00		17:00	高校生フォーラム オリエンテーション	
17:30		17:30		
19:00		18:00		

2 生徒の感想

【受入校生徒】
4日のキャンセルで，メキシコチームとの交流が1日のみとなったが，本校のバディーを勤めた生徒にとって非常に貴重な経験であった。本人たちからは，「国境を越えた関わりの中で自分のものの見方や価値観が大きく変わった。また機会があれば参加したい。」や「交流会を通じて，様々な体験ができたことを嬉しく思う。また，英語で自分の気持ちを伝えられるように，今後もしっかり努力したい。」などの非常に前向きな感想が得られた。また，メキシコチームの高校生からは，「優しく接してくれ，話も盛り上がって楽しい一日を過ごすことができた。」という感想もあった。

【海外ゲスト】
移動中の海外ゲストの様子は，本校のバディーとのコミュニケーションが主であった。主に音楽や高校生活，趣味などの話をして盛り上がっていた。本校の生徒にとって英語での意思の疎通は難しいところもあったが，メキシコチームの高校生の積極的に理解しようとする態度のおかげでなんとかコミュニケーションを図ることができていたように思える。
工場見学では，熱心に質問をしたり，ノートをとるなど積極的な姿勢が見られた。また，鷲羽山や与島PAでは，瀬戸大橋の風景に感動し，本校のバディーと何枚も写真を撮っていた。展望台でのランチの際にも，箸の使い方や「いただきます」「ごちそうさま」を本校のバディーと練習する姿が見られた。

3 受入にあたって工夫・配慮した点

●校内での地域交流会（1日目）※中止
・茶道体験では，講師の先生と茶道部員が一ヶ月程前から打ち合わせを重ね，英語でお点前を言う練習やお茶体験の手順を試行錯誤していた。
・剣道体験では，剣道部生徒や担当生徒で道着を準備したり、道着の着方や技の説明を英語で説明できるよう練習していた。
・家庭科体験（和食作り）では，鯖の竜田揚げ・豚汁・大福もちの英語メニューを準備。担当する生徒は，調理後に写真を撮ってその写真を張り付けてプレゼントするための手作りカードを用意していた。
・1・2年生による歓迎会ではユネスコ部の生徒が引率・司会・記録・マイクなどの運営を仕切るよう準備していた。
書道体験は，授業でバディーを組む予定だった生徒が，色紙に文字を書いて，2日目に担当予定だったメキシコの生徒にプレゼントした。
●校外での地域交流会（2日目）
・岡山の景色の美しい場所や名物料理を楽しんでもらえるよう企画した。またSSH校（スーパーサイエンスハイスクール指定校）として、持続可能な社会を目指し産業と環境の問題について考える機会になればと考えて，JFEスチール訪問を提案した。
●全体
・スペイン語の語学研修を実施。本校のスペイン語が堪能な外国人講師にスペイン語での日常会話を学ぶ事前研修を実施。また，ウェルカムボードを作成し，バディに喜んでもらえるよう工夫した。
・担当バディは，各自で日本らしいおみやげを準備し、プレゼントした。

4 交流の様子

出発前にホテルで集合写真

移動中のバスの中でコミュニケーション

鷲羽山の展望台で瀬戸大橋を眺めながらランチ

一緒に手を合わせて「いただきます」

急に立ち止まり，ゲームを始めるヘスースくん

瀬戸大橋をバックにツーショット

鷲羽山の展望台で集合写真

青空に負けないキラッキラの笑顔

メキシコチームの先生方も瀬戸大橋に感動していました。

地域交流会報告書

学校名	岡山学芸館高等学校	交流国	ルーマニア

1 日程

11月4日			11月5日		
8:25	ホテルグランヴィア岡山発	【移動手段:学校バス】	8:00	ホテルグランヴィア岡山発	【移動手段:中型バス】
9:00			9:00		
9:30	曹源寺見学及び体験	英語科1年(17名)同行予定	9:30	児島地区内の工場見学	
10:00	外国人僧の多い曹源寺で座禅体験とともに外国人僧との交流		10:00		
10:30	住職の講話		10:30	児島「藍畑」到着	
11:00		【移動手段:学校バス】	11:00	藍染め体験	
11:30			11:30		
12:00	英語科との異文化交流		12:00		【移動手段:中型バス】
12:30	互いの文化についてのプレゼン・ディスカッションを行う。すべて英語。		12:30		
13:00	お弁当交流会(英語科)	【学食弁当】	13:00	ランチ交流会(清秀高等部)	【学食弁当】
13:30			13:30		
14:00	西大寺小学校出前授業参加		14:00	清秀高等部授業参観	
14:30	本校がESD活動として行っている小学校での国際理解教育出前授業に一緒に参加してもらう。		14:30	学芸館高等学校出発	【移動手段:JR】
15:00	内容は貿易ゲーム。6年生対象。		15:00	ホテルグランヴィア岡山着	
15:30			15:30		
16:00	体験&交流　茶道・和太鼓・琉球三味線など体験。		16:00		
16:30	学芸館高等学校発		16:30		
17:00	旧内山下小着	【移動手段:ジャンボタクシー】	17:00		
17:30	地域交流会「歓迎夕食会」		17:30	高校生フォーラム オリエンテーション	
19:00	閉会→市内電車でホテルへ		18:00		

2 生徒の感想

【受入校生徒】
○2日間帯同したが、楽しかった。また、通訳の仕事をはじめてやったが、ただ単に会話をするだけとは違って正確に内容を伝えることの難しさを痛感した。
○英語圏ではない国の学生であるにもかかわらず、みんな英語が流暢であったことにびっくりした。さらに、英語を勉強する必要性を感じた。
○ルーマニアからのお客様は初めてだったけど、楽しく交流ができた。
○私たちはルーマニアから来られた生徒の方々と曹源寺で座禅体験をしました。それまで私も、座禅を組んだことはなく、禅についてもよく知りませんでした。この体験をしたことで自分たちの国の文化についてあまり理解できていないということが分かり、ほかの国の文化を理解するためにはまず自分の国の文化を知ることが大切だと思いました。
○本校にみなさんを招いて、おりがみ、けん玉・コマ、習字のグループに分かれて伝統的な日本の遊びを体験してもらいました。わたしはおりがみ担当で、一緒に手裏剣を折りました。英語で説明するのは難しく戸惑いましたが、おりがみを通してコミュニケーションをとることができたので良かったです。「日本では忍者がつかうんだよ」といって折り紙と英文の作り方をプレゼントすると「That's cool!」ととても喜んでくれました。
○児島での藍染体験では、どちらかというと大人しかったルーマニアの男子も楽しそうにやっていたので、安心した。今回の地域交流を通して、日本人でありながら、私自身が日本の文化のことをあまり知らないことを痛感した。

【海外ゲスト】(生徒たちの様子)
○2日間を通して、楽しんでもらえた様子。ただ、初日に関しては長旅の翌日ということもあって、多少疲れは見えた。
○2日間の交流会のスナップ写真を冊子にして、生徒・引率の先生にプレゼントをしたのだが、喜んでもらえた。

3 受入にあたって工夫・配慮した点

(1)できるだけ本校生徒との交流ができるように時間配分した。初日は、英語科1年との交流。お弁当交流会、日本の遊び紹介など2時間時間をとる。また、放課後は部活動紹介で、和太鼓・茶道など、本校ならではの部活動を体験してもらった。2日目は清秀高等部との交流。ここでも英語を介してのお弁当交流会、日本の伝統紹介など、日本のことをよく知ってもらえるように工夫した。
(2)初日の「曹源寺」での体験後、学校到着時に、約50名の生徒が正門に並んでルーマニアの旗を振ってお出迎え。ルーマニアの国旗も掲揚。緊張が解けるように工夫した。土産物の贈呈(スナップ写真の冊子・けん玉、折り紙、独楽、達磨落とし、お菓子など)
(3)校外での活動。2日目には学芸館の生徒と近隣の西大寺小学校を訪問し、ESD活動の一環として「貿易ゲーム」を行う。それに参加してもらった。

4 交流の様子

『曹源寺』
本校英語科の生徒と一緒に、座禅体験をしました。アメリカ出身の修行僧の方に、お話しをしていただきました。

『歓迎会』
女の子には浴衣を着てもらい、大好評でした。

『折り紙体験』
本校英語科1年生の指導で、鶴や手裏剣を折りました。

『けん玉に挑戦』
実は本校の生徒も上手くできなかったので、1週間前から特訓をしました。

『書道体験』
Alexandruくんは、“幸”と書きました。家に帰って、飾るそうです。

『茶道体験』
正座は辛かったようですが、主菓子は美味しかったそうです。

『ランチ交流会』
寮生と同じお弁当を、英語科の生徒と一緒に食べました。全員ほぼ完食でした。

『出前授業』
本校の生徒が行っている、出前授業に参加をしてもらいました。西大寺小学校6年生のクラスで、ルーマニアの紹介をしました。

『児島・藍染体験』
児島ジーンズ・ストリートで、藍染体験をしました。自分たちでデザインを決めて染めたので、出来栄えに大満足でした。

『児島・藍染体験』
この藍染体験を一番楽しんでいたのは、Baluta先生でした。

『旧野崎家住宅』
児島の旧野崎邸を見学しましたが、建物よりも庭園に興味があったようです。

『旧野崎家住宅』
水琴窟の音に感動したようです。ルーマニアに帰って、作りたいとのことでした。

地域交流会報告書

学校名	清心女子高等学校	交流国	フィリピン

1 日程

11月4日			11月5日		
8:30			8:30	※同行生徒(5名)	
8:50	ホテルグランヴィア岡山発	【移動手段:ジャンボタクシー】	9:00	ホテルグランヴィア岡山発	【移動手段:徒歩】
9:30	清心女子高等学校		9:30	ノートルダム清心女子大学附属小学校着	
10:00	↑		10:00	↑ 授業参観、交流等	
10:30	授業参観等		10:30	↓	
11:00			11:00	ノートルダム清心女子大学附属小学校発	【移動手段:徒歩】
11:30	↓		11:30	岡山駅→倉敷駅	【移動手段:JR】
12:00	昼食(ランチ交流会)	【外注弁当】	12:00	↑ 美観地区散策(+教員・生徒)	
12:30	↑		12:30	昼食(美観地区 和食レストラン)	【昼食会場:あぶと倉敷館天領】
13:00	文化交流		13:00	大原美術館	
13:30			13:30	↓	
14:00			14:00	↕ 倉敷駅北大型商業施設等散策	
14:30	↓		14:30	倉敷駅→岡山駅	【移動手段:JR】
15:00	↑ 歓迎会(高校LHR)		15:00	ホテルグランヴィア岡山着	
15:30	↓		15:30		
16:00	学校出発	【移動手段:ジャンボタクシー】	16:00		
16:30	↕		16:30		
17:00	旧内山下小着		17:00		
17:30	地域交流会「歓迎夕食会」		17:30	高校生フォーラム オリエンテーション	
19:00	閉会→市内電車でホテルへ		18:00		

2 生徒の感想

【受入校生徒】 地域交流会(清心中学校・清心女子高等学校)

○私たちはフィリピンから来られた生徒の方々とESDに関することについて話し合いました。フィリピンの生徒の話しを聞いて、彼らは自分の国が抱えている問題などをよく知っているのだと感じました。私はそのとき、日本が抱えている問題について、自分自身は「よく知らなかった」というよりも、「考えようとしていなかった」、「知ろうとしていなかった」ということに気づきました。これからは日本が抱えている問題について、私たちが考えなければいけないと思いました。

○グループに分かれて『桃太郎』の話しをフィリピンの高校生に紹介しました。「桃から男の子が出てきた」ということは常識ではあり得ないことなので、フィリピンの高校生はとても不思議そうな顔でした。私たちが最も悪戦苦闘したのは、桃太郎が犬や猿にきびだんごをあげるシーンです。「きびだんごって何?」と聞かれ、どう答えればいいのか戸惑いました。英語で伝えるというのがこんなに大変なことだということを実感しました。

○高校生全校で歓迎会を開きました。フィリピンの高校生が民謡を踊っていて、衣装もきれいでとても美しかったです。その後は私たちがパフォーマンスをしました。箏曲部による琴と三味線の演奏があり、私たちの聖歌隊はハンドベルの演奏をしました。私は日本語とタガログ語でフィリピンの民謡である「レロン・レロン・シンタ」を歌いました。ユネスコスクールには、運営スタッフとして参加していますが、学校の部活動でこのような交流会に参加できたことも良かったと思います。

○歓迎夕食会では高校生フォーラムよりも穏やかな雰囲気で交流することができました。高校生ならではのおしゃべりを楽しんで、みんなが仲良くなれる絶好の機会でした。とても素敵な時間を過ごすことができました。ゲストの笑顔を見て、ホストも笑顔になる。そういった光景を高校生フォーラムを通してもたくさん目にすることができて嬉しい気持ちで一杯になりました。ここで体験したことや感じたことは、私にとって一生の宝物になりました。ありがとうございました。

【海外ゲスト】 地域交流会(フィリピン共和国)

○They brought me to the laboratories, which again completely amused me. It was amazing; the fact that they are exposed to lab works and very advanced experiments at such a young age. I learned more about the salamanders and how they lived in their natural habitat. I was amazed since they are actually capable of applying the lessons that they had into real life. After the laboratory, they brought me to their pond wherein small fish were seen. Seeing their areas wherein it was really applying ESD into their educational system inspired me to promote ESD to my school even more.

○This trip was an eye-opener for a teenager like me. I was indeed grateful for a wonderful chance granted to me hoping that the same chance would also be granted to more Filipino teenagers. And here's hoping for more Filipino youths to be truly concerned for the well-being of our own dear country.

○Although our time was limited, I really enjoyed myself for that day. I would never forget the short time that I got to spend with them. How I wish there would be a next time. I hope that I am given another chance to see and be with them but in a different circumstance. I would like to thank their principal, the staff and the students themselves for the kindness they have shown to us. Thank you for everything. Arigatou gozaimasu!

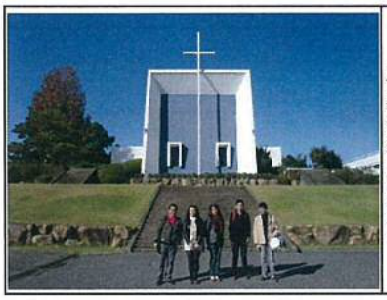
3 受入にあたって工夫・配慮した点

(1) できるだけ生徒との交流ができるように計画をした。授業は4時間を設定し、それぞれ目的のある交流会にした。①環境問題などに関するディスカッションを英語で行う。②日本の文化や岡山の伝統等を、本校生徒が英語で紹介する。③校内見学をグループに分けて、生徒が英語で紹介しながら交流を深める。④日本の高校生の学校生活をグループごとに紙芝居形式で紹介する。

(2) 全体の歓迎式典を開催した。①校長からの歓迎挨拶。②フィリピンの生徒による伝統的な踊りの披露。③箏曲部による琴、三味線の演奏。④聖歌隊によるハンドベル演奏。フィリピンの曲を日本語とタガログ語で歌う。 ⑤本校の学校名が入った、バック、マーカー、ノート、ファイルなどの文具を記念品として贈る。

(3) 校外での交流会について。本校で中学校・高等学校の生徒と交流したあと、2日目はノートルダム清心女子大学附属小学校を訪問し、小学生の授業に参加させていただいた。また、大学構内も見学した。その後は倉敷美観地区を散策し、大原美術館の見学、大型商業施設での買い物などを楽しんだ。本校から参加した生徒5名が、それぞれ準備したものを、フィリピンの生徒、先生に記念品として贈った。

4 交流の様子



ユネスコスクール世界大会の地域交流会に、フィリピンの生徒4名と先生1名が、ノートルダム清心学園を訪問しました。

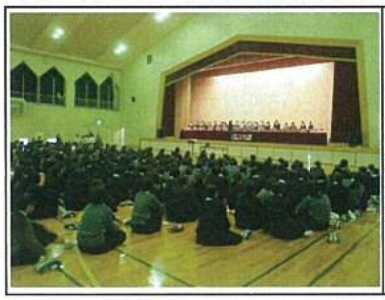
中学3年生のNELP（英語発展クラス）の授業で、環境問題などについて話し合いました。

高校1年生の生徒がグループに分かれて校内ツアーを行い、学校を紹介しました。

中学3年生の英会話の授業では、生徒が『桃太郎』の話しを英語とジェスチャーでなんとか伝えました。

高校1年生がグループごとに、日本の高校生の毎日の生活を、紙芝居風に英語で紹介しました。

フィリピンの生徒が、世界大会でのリハーサルを兼ねて、プレゼンテーションを披露してくれました。



高校生全校生徒による歓迎会を開催しました。箏曲部と、聖歌隊によるハンドベル演奏によって歓迎しました。

岡山市主催の歓迎夕食会への参加者が一緒に出発するところです

地域交流会2日目。ホテルグランヴィア岡山に集合して、これから出発します。

ノートルダム清心女子大学附属小学校を訪問しました。カリタス・ホール前です。

ノートルダム清心女子大学附属小学校での授業に参加させていただき、日本を紹介するクイズにチャレンジしました。

昼食を食べたあとは倉敷美観地区を散策しました。このあとはホテルグランヴィア岡山まで行き、交流会を終えました。ありがとうございました。

地域交流会報告書

学校名	岡山県立倉敷商業高等学校	交流国	ウガンダ

1 日程

11月4日			11月5日		
8:30			8:30		
8:50	ホテルグランビア岡山発	【移動手段:ジャンボタクシー】	9:00	ホテルグランヴィア岡山発	【移動手段:JR岡山→倉敷】
9:45	↓ 倉商着		9:30	↓	
9:50	歓迎会(体育館)		10:00	倉敷駅北大型商業施設・アウトレットモール散策	
10:30	↓		10:30		
11:00	学校説明		11:00	↓	
11:50	授業見学		11:30	美観地区へ移動	【移動手段:徒歩】
12:00	↓		12:00	昼食(美観地区・和食レストラン)	【昼食:あぶと倉敷館天領】
12:30	昼食(お弁当交流会)	【外注弁当】	12:30		
13:00	↓		13:00	↓	
13:30	交流会、意見交換会		13:30	大原美術館 見学(音声ガイドレンタル)	
14:00			14:00		
14:30			14:30	↓	
15:00	↓		15:00	岡山市へ移動	【移動手段:JR倉敷→岡山】
15:30	ティータイム 部活動見学		15:30	ホテルグランヴィア岡山着	
16:00	倉商発		16:00		
16:30	↓		16:30		
17:00	旧内山下小	【移動手段:ジャンボタクシー】	17:00		
17:30	地域交流会「歓迎夕食会」		17:30	高校生フォーラム オリエンテーション	
19:00	閉会→市内電車でホテルへ		18:00		

2 生徒の感想

【受入校生徒】

○先日、ウガンダから高校生をお迎えし、交流会が行われました。その交流会で学んだこと、感じたことを3つの項目にまとめました。1つ目は「コミュニケーション」についてです。交流していく中で僕たちの下手な英語でもウガンダの高校生に積極的に話しかけました。ウガンダの高校生も真剣に、そして積極的に答えてくれ、楽しく交流ができました。国は離れていますがコミュニケーションは世界共通だと実感しました。しかし、僕たちは英語が下手でぎこちない部分がありました。これを改善すればもっとハイレベルな交流になると思ったので、もっと勉強する必要があると感じました。2つ目は「笑顔」です。ウガンダの高校生はいつも笑顔でした。内容がつかめない劇やプレゼンテーション、みんなで踊ったももたろうサンバでも笑顔でした。その姿に好印象を持ちました。笑顔は大切だと実感しました。3つ目は、外国との交流です。他の国とはあまり交流がない僕たちですが、今回の交流で感じたことは、楽しかったし、もっといろいろな国の人と交流したいと感じたことです。日本のいいところをもっと紹介したいと感じました。

○ウガンダの高校生の皆さんが本校を訪問してくれました。私はESS同好会の友人と学校内を案内するという役割でした。私はちゃんと英語が話せるか、質問に的確に答えることができるか不安がありました。しかし、そんな不安はすぐになくなりました。私の英語がどんなにつたなくても、彼らは優しく話しかけてくれ、私も安心してコミュニケーションをとることができました。話しているうちに答えることが難しい質問もありました。「なぜ、男子と女子の席を分けているのか」「マスクをつけている人が多いのはなぜか」などです。どれも当たり前だと思っていたので、別の視点から私たちの学校を見るいい機会になりました。また、ずっと話していると相手がウガンダの人だということを忘れてしまうくらい人種や言葉の壁を感じなくなりました。こんなにも簡単に人と人は仲良くなれてしまうんだと実感することができました。授業では長く感じる50分ですが、この交流をしている時は、半分の長さにも感じませんでした。もっと長く、もっとスムーズに話がしたかったです。英語がもっとうまかったら、答えられる質問も言いたかったこともあったなと少し後悔したので、次また外国の人と交流する機会があったら、それまでに英語のスキルを上げておこうと思いました。

○11月4日、ウガンダ共和国から先生1名、生徒4名の方が倉敷商業に来られました。まず、全校生徒で歓迎会を開き、本校の応援の桃太郎サンバを一緒に踊ったり、書道部のパフォーマンス、吹奏楽部によるウガンダ国歌の演奏などでおもてなしをしました。私は、ウガンダの方との交流が楽しみな反面、英語がちゃんと話せるかどうか心配でした。6時間目の授業ではウガンダの人たちと交流し、プレゼンをしました。日本のことを知ってもらいたいという一心で一生懸命プレゼンをしたところ、笑ったりうなずいたりして、しっかり反応してくれてとてもうれしかったです。また、グループに分かれて個別にウガンダの事を質問したり、日本の言葉を教えてあげたりと、とてもよい経験になりました。放課後には、他の国の人たちや他校の人たちが集まって行われた歓迎夕食会に参加しました。ウガンダの生徒のみなさんが日本食やお米を美味しそうに食べている姿を見て、日本の良さを知ってもらえているようでなんだか幸せな気持ちでした。「いただきます」「ごちそうさま」を共にすることでよりいっそう仲が深まった気がします。また、それぞれの学校でゲストとどのような活動をしたのか報告がありました。他の学校の人は英語で発表していて、私たちだけ日本語で話したのですこし恥ずかしかったですが、歓迎するために行った活動をすべて報告しウガンダの人たちと一緒にダンスをしました。最後は他校の人やゲストの人と写真を撮りました。このような経験をこれから活かしていきたいと思いました。今回の交流を通して、よりいっそう英語が好きになりました。将来、すこしでも英語に関わっていきたいと思いました。これからもこういった交流をする機会があったらもっと積極的に質問したり話しかけたりして、その貴重な経験を自分の中で思い出や財産にしていきたいと思います。本当に楽しかったです。

【海外ゲスト】

○11月4日、体育館での歓迎セレモニーに参加してもらいました。ステージ上に着席してもらい、書道部、吹奏楽部の歓迎パフォーマンス、全校生徒による踊りを披露しました。お礼にダンスを披露してもらうなど、充実した歓迎レセプションとなりました。その後、校内の案内、授業体験、茶道部の抹茶体験と、終始笑顔で意欲的にメニューに取り組んでくれました

○11月5日、アウトレットモール、美観地区を案内しました。倉敷の街並みやショッピングモールで本校生徒と積極的に交流し楽しい中にも意義深い一日になりました。また、大原美術館で熱心に作品を鑑賞している姿がとても印象に残っています。

3 受入にあたって工夫・配慮した点

○受け入れに当たっては、管理職、地域連携活動担当者、英語科主任、国際経済科長などが連携し、学校全体での受け入れ態勢を整えました。

また、全校生徒による歓迎会を行うことで学校全体の行事として取り組みました。

○体験できるメニューを豊富に取り入れるよう心掛けました。英語の授業を始め、書道、茶道、体育など生徒とともに活動できるメニューを取り入れたため、本校生徒にとっても有意義な行事となりました。

○日本ならではのお土産を用意したかったのですが予算がなかったため、書道の授業で白地の扇子に筆で文字を書いてもらい、お土産としました。また、周年行事であまっていた備前焼の湯飲みもお土産にしました。写真を約500枚ほど撮影し、一人に1本のUSBメモリに保存し、お土産としました。

4 交流の様子

本校へ到着後、体育館へ移動していただき、全校生徒とともに歓迎会に出席してもらいました。
ステージ上から、全校生徒に向け一人ずつ簡単な自己紹介をしてもらいました。

歓迎会の行事として、書道部による書道パフォーマンスを披露しました。その後、書道部の生徒と作品の前で記念撮影をしました。

歓迎会の終わりに吹奏楽部の演奏とともに、『桃太郎サンバ』という本校の応援の踊りを一緒にステージ上で踊っている様子です。

ウガンダの生徒から、お礼にダンスを披露したいという申し出があり、ステージ上で全校生徒にダンスを披露してもらいました。

書道の授業に参加してもらい、「夢」という字にチャレンジしてもらいました。

国際経済科3年生の授業に参加してもらい、互いの国の文化や習慣などを紹介して、交流を深めました。

国際経済科2年生の授業に参加してもらい、授業の最後に全員で記念撮影を行いました。

部活動体験の一環として、茶道部による抹茶の披露を行いました。好評で、おいしいと笑顔で話していました。

アウトレットモールの途中、和装小物屋さんがあり、無料で和服を着せていただき記念撮影を行いました。和服姿に感激していました。

美観地区散策で、倉敷川にかかる橋の上での写真です。偶然、花嫁さんを載せた高瀬舟が通り、振り返ってみている生徒もいました。

昼食の和食レストランの一コマです。和風の広い座敷に大変興味を持っていただきました。和気あいあいとした昼食となりました。

おもてなしの最後、大原美術館に案内しました。熱心に絵画などの美術品を鑑賞し、最後に正面玄関で記念写真を撮影しました。

ＥＳＤに関するユネスコ世界会議 オープニングセレモニー （概要）

1　趣　　旨

「ＥＳＤウィーク」のオープニングとして、会議参加者をはじめ、ＥＳＤの実践者や地元関係者が一堂に会し、世界会議の成功と2014年以降のＥＳＤの発展に向けて、思いを一つにすることを目指す。

また、開催地岡山からは、持続可能な地域づくりを継承、発展させている取組みや、地域の魅力を発信するとともに、多様なステークホルダーの連携により、広域的なＥＳＤを推進することの重要性をアピールする。

2　日　　時　　平成26年11月６日（木）18:00～21:00

3　場　　所　　岡山シンフォニーホール（岡山市北区表町１丁目5-1）

4　主　　催　　ＥＳＤに関するユネスコ世界会議岡山支援実行委員会、岡山市

5　使用言語　　英語、日本語（同時通訳）

6　参 加 者　　「ＥＳＤに関するユネスコ世界会議」参加者
ＥＳＤに関わる国際機関、日本政府、地方自治体関係者
国内外・各地域のＥＳＤ実践者、ＥＳＤに係わる研究者　　計　約1,500名

7　プログラム（予定）

時　間	項　目	内　　容	会　場
17:00～	開　場	ウェルカム演奏（岡山フィルハーモニック管弦楽団）	３Ｆロビー
		ウェルカム演奏（ジュニアオーケストラ）	
18:00～	地元子どもたちによる文化パフォーマンス	①『今、始まる』 合　唱：桃太郎少年合唱団、ジュニア合唱教室 ② ユネスコ公式ソング　『Peace of mind』 ピアノ：城之内　ミサ（ユネスコ平和芸術家） 合　唱：桃太郎少年合唱団、ジュニア合唱教室	４Ｆ大ホール
	開会挨拶 来賓挨拶	・大森雅夫　氏（岡山市長兼支援実行委員会会長） ・ユネスコ代表 ・国連大学代表 ・日本政府代表	
	来賓紹介		
	基調講演	・松浦晃一郎氏（第８代ユネスコ事務局長）	
	地元文化パフォーマンス	『元禄花見踊』 演奏：岡山三曲協会	
	映　像	岡山地域及び備讃瀬戸の魅力を伝えるとともに、岡山の代表的なＥＳＤ活動を魅せ、ＥＳＤウィークのオープニングを彩る	
20:00	閉会挨拶	・伊原木隆太氏（岡山県知事）	

※20:00～21:00　交流会（歓迎アトラクション、乾杯、歓談）
世界会議参加者の一部等が参加

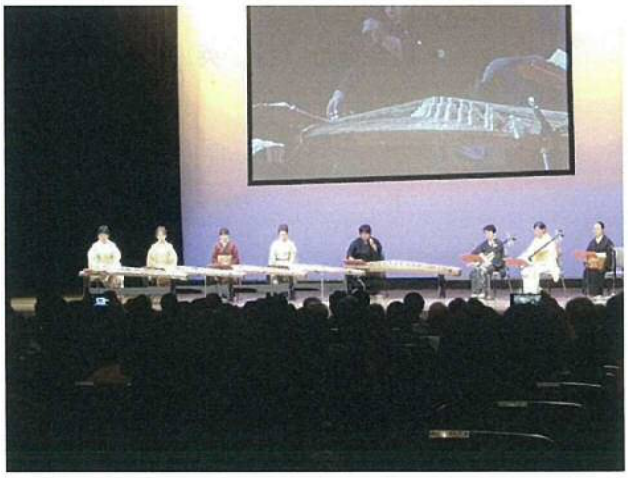
ＥＳＤウィークの始まりを祝うオープニング
セレモニーの位置づけ

ジュニアオーケストラによるウェルカム演奏

桃太郎少年合唱団とジュニア合唱教室の
地元子どもたちによる合唱

「ＥＳＤに関するユネスコ世界会議」岡山支援
実行委員会会長（＝岡山市長）による開会挨拶

第８代ユネスコ事務局長　松浦 晃一郎氏
による基調講演



岡山三曲協会による長唄「元禄花見踊」の演奏

ユネスコスクール世界大会 Student（高校生）フォーラム　交流会（概要）

1　日　　時
　平成 26 年 11 月 7 日（金）17:00～19:00

2　場　　所
　岡山コンベンションセンター　3階　コンベンションホール
　（岡山市北区駅元町 14-1）

3　主　　催
　岡山市

4　参 加 者
　・高校生フォーラム参加生徒（海外、国内参加チーム生徒）168 名
　・高校生フォーラム岡山運営参加生徒・大学生　　約 60 名
　・交流会パフォーマンス等参加生徒（岡山県内高校生）　約 210 名
　　計　約 440 名

5　内　　容
　・ビュッフェ形式による夕食会
　　岡山市長による歓迎挨拶あり

　・ステージでは県内高校生による文化パフォーマンス披露
　　（発表順）①和太鼓演奏〔岡山学芸館高校〕
　　②創作ダンス（うらじゃ等）〔鴨方高校〕
　　③書道パフォーマンス〔岡山芳泉高校〕
　　④空手道演武〔おかやま山陽高校〕
　　⑤琴の演奏〔岡山南高校〕
　　⑥チアリーディング演技〔興譲館高校〕
　　⑦吹奏楽部によるステージドリル〔岡山東商業高校〕

　・ホワイエでは県内高校生による文化体験コーナー実施
　　（順不同）　生け花〔岡山東商業高校〕
　　ゆかた着付け体験〔岡山南高校〕
　　書道体験〔岡山芳泉高校〕

6　そ の 他
　・司会進行（日・英）は岡山運営参加生徒有志による

華道作品展示

Flower arranging exhibitions

楽しく、自然で咲くより美しく生けるを目標に取り組んでいます。
今回は心を和ませ日本を感じてもらえるような大作に挑戦しました。

We enjoy arranging flowers and wish the flower to look more beautiful arranged than blooming in the nature. We will try our best to melt your heart with our flower arrangement today.

岡山県立岡山東商業高等学校　華道部

Okayama Higashi Commercial High School　Flower Arrangement club

ゆかたの着付け

Dressing of Yukata

私たち岡山南高服飾デザイン科２年生は、海外の高校生の方々とゆかたの着付けを通し、交流ができることを楽しみにしています。

We, the 2nd graders of the fashion design course in Okayama Minami High School, are helping high school students from abroad to wear "Yukata" - a Japanese summer kimono. We are looking forward to communicating with each other through wearing "Yukata".

岡山県立岡山南高等学校　服飾デザイン科

Okayama Minami High school　Fashion design course

うちわ制作体験

Japanese fan production experience

様々な紙で美しく飾られたうちわに、みなさんの好きな言葉や名前などを筆で書きます。日本のおみやげに持ち帰ってくださいね。

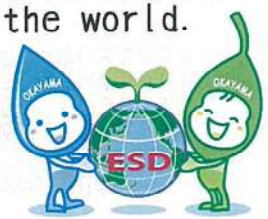
We would like to present a gift of traditional Japanese fan. Please tell us what you would like be written on the fan, and we will do our best to fulfill your request.

岡山県立岡山芳泉高等学校　書道部

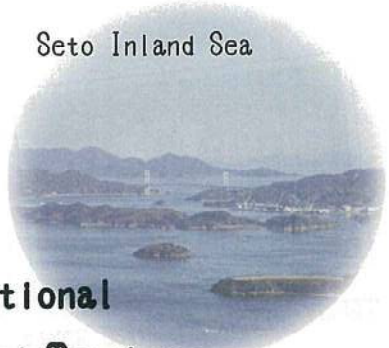
Okayama Hosen Senior High School　Japanese calligraphy club

今日の出会いを大切に・・・
世界のどこかでまたお会いしましょう。

Let's treasure today's meeting…
Let's meet again somewhere in the world.



Shizutani school



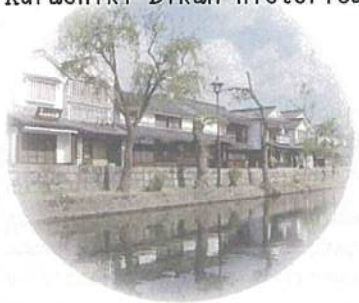
Seto Inland Sea

UNESCO ASPnet International ESD Events for Students and Teachers

-Celebration Party for ASPnet Platform for Students-

ユネスコスクール世界大会
高校生フォーラム「交流会」

Kurashiki Bikan historical quarter



Okayama Castle

Okayama Korakuen

Program
プログラム

Momotaro Statue

Seto Great bridge

Date　：November 7th, 2014

Venue　：Okayama Convention Center

歓迎のご挨拶　Welcome address

岡山市長　大森 雅夫
Mayor of Okayama　Masao Omori

ようこそ岡山へ。各国からお越しの皆様を心から歓迎いたします。今宵は、岡山の特産品をふんだんに用いた料理と、岡山の高校生による日本ならではの趣向を凝らしたパフォーマンスをお楽しみいただく中で、参加者相互の交流を深め、岡山の楽しい思い出をお持ち帰り下さい。

Welcome to Okayama City. I would like to give warm welcome to to everyone from many countries. This evening, we will eat delicious dish made from Okayama specialties. And, you are going to enjoy various performances from high school students in Okayama. The performances are specially from Japan perform with students hospitality spirit. I hope you will be able to communicate among participants and then please take home good memories of Okayama with you.

空手道演武

Karate Demonstration

私たち空手道部は創部５５年の伝統ある部活動です。礼儀・集中・気力体力の４つの授業目標を掲げ、全校生徒が空手道を学びます。

Karate club of our school is a traditional club which is 55 years old. All of the students study Karate for the purpose of politeness, consentration, mental power, physicul strength.

おかやま山陽高等学校　空手道部
Okayama Sanyo High School　Karate club

和太鼓演奏

Japanese drum performance

西大寺会陽はだか祭り、老人ホームの慰問など「岡山を元気にする」を合い言葉に地域に密着した活動を行っています。

Our activities are community based such as performing at Hadaka Matsuri(Saidaiji Eyo), nursing homes, and so on based on our motto "Make Okayama Energetic!

岡山学芸館高等学校　和太鼓部
Okayama Gakugeikan High School Japanese drum club

週に一度、外部講師による実技指導を受け、日々練習に励んでいます。礼儀とマナーを重んじながら和気あいあいと活動しています。

We practice "Koto" - a Japanese harp after school on weekdays. Once a week, we have a visiting Koto-teacher. We respect traditional Japanese manners as well as enjoy playing "Koto".

岡山県立岡山南高等学校　邦楽部
Okayama Minami High school　Japanese music club

琴演奏

Japanese harp performance

鴨方高校ダンス部は仲が良くいつも笑顔で活動しています。また作品に対しても一生懸命であり、全てにおいて真剣に取り組んでいます。

We the members of Dance Club, Kamogata High School are always getting along together and perform with big smiles. We give our best in our creation and we are serious in our activities.

岡山県立鴨方高等学校　ダンス部
Okayama Kamogata High School　Dance club

うらじゃとHipHopダンス

Uraja and HipHop Dance

チアリーディング演技　Cheerleading acting

私たちの目標は学校や地域を明るく元気に牽引するチアリーダーです。皆さんに笑顔と元気、勇気を届けられるように頑張ります！

We aim to bring and lead everyone in the school and community towards happiness through our cheerleading act. We are trying our best to bring smiles, energy and courage to everyone!

興讓館高等学校　チアリーディング部
Kojokan High School　Cheerleading Club

書道パフォーマンス

Japanese calligraphy performance

私たち芳泉書道部は筆を使って自分たちの思いを書きながら言葉の壁を超えた世界中の仲間と繋がっていくことをめざしています。

We are members of the Japanese calligraphy club from Okayama Hosen High School. We would like to perform a calligraphy exhibition using Japanese traditional writing brushes. In honor of this international event, our messages will be written in both English and Japanese. We hope you will enjoy our performance and we are looking forward to meeting those who are attending this party.

岡山県立岡山芳泉高等学校　書道部
Okayama Hosen High School　Japanese calligraphy club

【楽しく・苦しく・美しく】「岡山東商 YELLOW ANGELS」は岡山 ESD 関係各所の皆様のために精一杯の演奏・演技を致しますので、どうぞご覧下さい！

"Joyful Struggle for Elegance"
This is our motto. We, the 'YELLOW ANGELS', from Okayama Higashi Commercial High School will give our best performance to all the participants of the ESD Conference in Okayama. Please enjoy it.

岡山県立岡山東商業高等学校　吹奏楽部
Okayama Higashi Commercial High School　Wind music club

STAGE DRILL by YELLOE ANGELS

司会は岡山の運営参加生徒の有志が日本語と
英語で行いました。

オープニングパフォーマンス
岡山学芸館高校による和太鼓演奏

大森岡山市長による開会挨拶
英語でお話しくださいました。

鴨方高校による創作ダンス
ステージ前で参加者も一緒に乗り乗り！

岡山芳泉高校による書道パフォーマンス
英語と日本語でメッセージを伝えます。

おかやま山陽高校による空手道演武
一糸乱れぬ動きに息を飲みました。

岡山南高校による琴演奏
柔らかな琴の調べに心が落ち着きました。

興譲館高校によるチアリーディング演技
2段、3段と積み重なっても笑顔が素敵です。

岡山東商業高校によるドリル演奏
隊形移動しながら演奏は続きます。

岡山東商業高校華道部による作品展示
英語で作品の紹介をしています。

岡山芳泉高校による書道体験（うちわ制作）
外国人も筆を持って書道に挑戦。

岡山南高校によるゆかたの着付け体験
ゆかたを着て会場内を散策しました。

料理提供の一部として、吉備団子づくり体験
の実施。団子を丸めてきな粉をまぶして完成。

会場内には回転寿司も登場。寿司職人による
握りたての寿司も味わえました。

会議参加者もパフォーマンス参加者も一緒に
お料理をいただきながら交流しました。

交流会が終わっても乗り乗りムードは続き、
ステージに上って記念撮影！

Course A : Conservation of Biodiversity

— Research on Living Creatures in Asahi-gawa River —

参加チーム：デンマーク、フィジー、ニュージーランド、フィリピン、タイ、チュニジア、日本-福島、日本-福岡

Highlight

The Takeeda region in Takebe-cho, Kita-ku, Okayama City, is located in the northern edge of Okayama City and is the region surrounded by the Asahi-gawa River and Satoyama (community forests) where rich nature remains. In this region, local residents and an elementary school cooperate to put their efforts on creating a distinctive school for a purpose of "Conveying the Charm of Hometown to Children." In the Takeeda region, in order to answer children's question, "Did the hardening of the river bottom reduce the number of fish?" "Kaibori (draining shallow) Research" has been conducted since 2006 in which 400 m of the large river in front of the elementary school is banked up and living creatures are examined. Over 300 people who are mainly local residents and elementary school students, as well as researchers and volunteers go into the dried-up river, flip stones on the river bottom, and research the kind and number of fish. More than 20 kinds of living creatures such as "Akaza" which is a smaller version of catfish and is also an index, etc. can be found every time. In the tour, you will experience "Kaibori" to capture fish in Asahi-gawa River together with the local residents and eat dishes of freshwater crabs, Kanbae (fish/winter minnow), sweetfish, etc. Let's enjoy the Asahi-gawa River entirely!

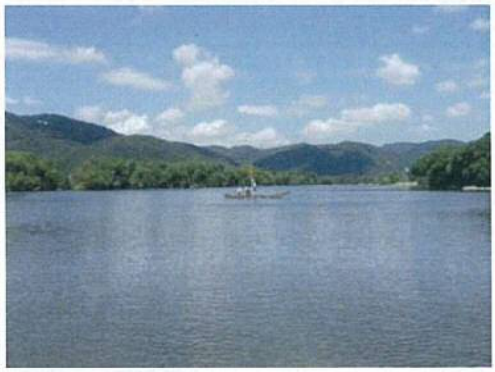
生物多様性保全　～　旭川の生き物調査　～

岡山市北区建部町竹枝地域は，岡山市の北端に位置する旭川と里山に囲まれた豊かな自然が残る地域です。

この地域では，「子ども達にふるさとの魅力を伝えたい」と，地域住民と小学校が協働し特色ある学校づくりに取り組んでいます。

竹枝地域では，「魚が減ったのは川の底が固まったからか？」こんな子どもたちの疑問に答えたいと，小学校の前の大きな川を400mせき止めて，生き物を調べる「かいぼり調査」を2006年から行っています。地元の住民，小学生を中心に研究者やボランティアなど約300人が干上がった川に入り，川底の石をひっくり返し魚の種類と数を調べます。毎回，指標としているナマズを小さくしたような「アカザ」という魚を始め20種類以上の生き物が見られます。

ツアーでは，地域のみなさんやと一緒に，旭川で魚を捕獲する「かいぼり」を体験し，旭川の川ガニ，寒バエ（魚），アユなどの料理を食べます。旭川をまるごと楽しみましょう。



Asahi-gawa River

Kaibori (draining shallow) Research

Course B : — The Town that Protects the Living Fossils —

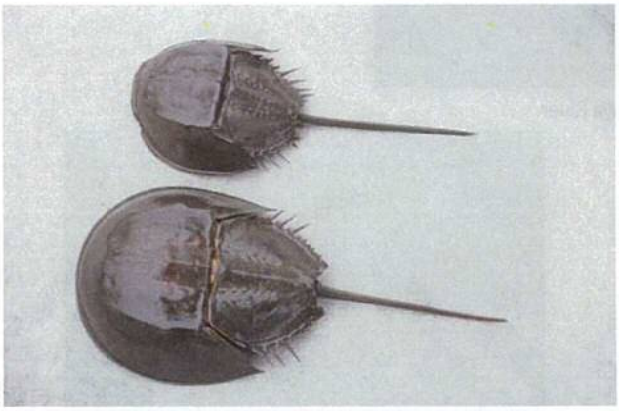
参加チーム：バングラデシュ、ガーナ、ケニア、パキスタン、ペルー、ルーマニア、南アフリカ、日本-北海道

Highlight

Kasaoka City Horseshoe Crab Museum was established in 1990 as the only horseshoe crab museum in the world.
In Kasaoka City, the habitat of horseshoe crabs was designated as a national natural treasure in 1928 and has been protected. But later, the tideland in which the horseshoe crabs inhabited became drained land due to a spate of reclamation projects, and the environmental pollution occurred in the last bit of marine area that resulted in the drastic reduction of horseshoe crabs. In order to protect and again propagate horseshoe crabs in the sea of Kasaoka, the Horseshoe Crab Museum was constructed. In the museum, various exhibitions are held in order for people to learn the value of horseshoe crabs. In order for the horseshoe crabs to be able to reproduce themselves in the natural world, breeding and researches/studies have been conducted.

～　生きている化石を守るまち　～
笠岡市立カブトガニ博物館は，1990 年に設立された世界唯一のカブトガニの博物館です。
笠岡市では，1928 年にカブトガニの生息地が国の天然記念物に指定され，保護されてきました。しかしその後，相次ぐ干拓事業により，カブトガニの生息する干潟は干陸化するとともに，わずかに残った海域も環境汚染によってカブトガニは急激に減少してしまいました。カブトガニを保護し，ふたたび笠岡の海で増殖させるためにカブトガニ博物館は建設されました。この博物館はカブトガニの貴重性を知っていただくため様々な展示がなされています。また自然界でカブトガニが繁殖できるよう飼育や調査・研究も行っています。

Kasaoka City Horseshoe Crab Museum



Horseshoe Crab

Larva of the Horseshoe Crab

Course C : — From the Past to the Future, Yakage-cho is a Town Filled with the Unending Genealogy, History, and Culture —

参加チーム：ブラジル、ドイツ、ロシア、スペイン、ウガンダ、ベトナム、日本−千葉、日本−愛知

Highlight

Yakage-cho has a long history: the town prospered as a strategic point for people, culture, industry, etc., as a post station on the Old Sanyodo Road in the Edo period, and the Honjin (an inn designed for use by a daimyo [a feudal lord]) and Waki Honjin (an inn designed for use by the daimyo's attendants), which are still in good condition, are the inns remaining only in Yakage-cho in Japan and have been designated National Important Cultural Properties.

While exploring the profound town with rich history and diverse culture where such historic properties still exist, guided by the local elementary school students, you will learn the approaches to carry on the tradition of the town into the future.

「過去から未来へ，悠久の系譜 歴史と文化が薫るまち　矢掛町」
矢掛町の歴史は古く、江戸時代には旧山陽道の宿場町として人・文化・産業などの要衝として殷賑を極め、健全な状態で旧姿を留めている本陣・脇本陣は、全国でも唯一矢掛町のみで、国の重要文化財に指定されています。
こうした歴史的資産が今なお現存し、深い歴史と多様な文化を湛えた重厚な町を地元小学生による案内で散策しながら、未来へ伝承するための取組を学びます。

Honijn (The townscape of Yakage-cho)

Daimyo procession

Elementary school student sightseeing volunteers

CourseD : — A Journey to Meet "Traditional Techniques" in which Local Resources are Utilized—

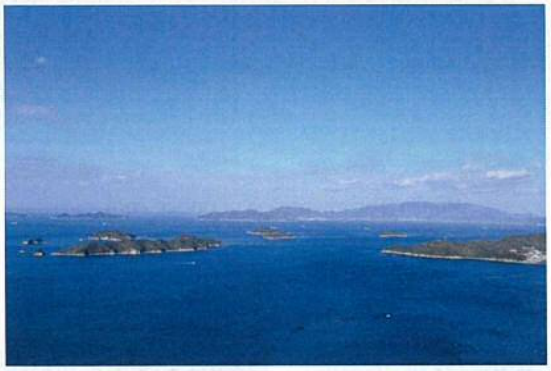
— Takamatsu City in Shikoku —

参加チーム：カナダ、フランス、ハイチ、メキシコ、韓国、ウルグアイ、日本-山口、日本-岡山

Highlight

This is a journey to get to know the specialty products of Takamatsu City in Kagawa Prefecture through the lives of people who have protected the industries in which local resources are utilized.
Aji-cho and Mure-cho located in the northeastern part of Takamatsu City are the production areas of Aji Stones, the world's most exquisite stone. In these areas where the record of quarrying during the Kamakura period remains, there are still several quarries and exquisite masons have been creating stone products. It is said that the reason why ateliers of contemporary artists, such as the world-famous Isamu Noguchi and Masayuki Nagare, scattered in this area was because of the existence of such exquisite stones and masons. Above all, the large job site that produces the Aji Stones has been protecting the production area with the missions of stable supply of the first-class stones into the future and soil and water conservation on the mountain. Why don't you take a tour of the large job site where the entry is normally prohibited and experience to create a monument using the Aji Stone?

地域の資源を生かした「伝統の技」に出会う旅　～四国・高松市～
地域の資源を生かした産業を守る続ける人々のくらしをとおして，香川県高松市の特産品にふれる旅です。
高松市の北東部にある庵治町・牟礼町は，世界の銘石「庵治石」の産地です。古くは鎌倉時代から採石の記録が残る同地域には，現在もいくつかの採石場があり，優れた石工の方々が，石製品を製作しています。
この地域に世界的に有名なイサムノグチや流政之といった石を使った現代作家のアトリエが点在するのは，こうした優れた石と石工の存在があったからといわれています。
なかでも，庵治石の中の庵治石を産する大丁場は，最高級石を将来にわたって安定的に供給することと，山の治山・治水を使命として産地を守っています。
普段，立ち入れない大丁場の見学と，庵治石を使用したモニュメントづくりを体験してみませんか。



The islands of Setouchi

Aji Granite from the Oochouba Quarry

The monument using the Aji Stone

Course E : — Home of Learning, Shizutani School: ESD Starts from Here! —

参加チーム：ギリシャ、インドネシア、カザフスタン、レバノン、オマーン、セネガル、日本-京都、日本-大阪

Highlight

The former Shizutani School began in 1670 based on the decision to build a school for common people made by Mitsumasa Ikeda, the lord of Bizen Province, who was impressed with the calmness and beauty of the area. In the Former Shizutani School, which has been designated as the national special historic site, the lecture hall is the only school building in Japan designated as a national treasure. The recitation of the Analects of Confucius still echoes throughout this lecture hall in the present time and its tradition has been protected along with the surrounding natural environment. We would like people to experience the Former Shizutani School's spirit of the creation of learning through the learning of the Analects of Confucius conducted in the national treasure of the lecture hall and inherit the environment where people can learn things and the importance of human resource development to the future generations.

～ 学びの原郷　閑谷学校　　ＥＳＤはここから始まる！　～

旧閑谷学校は，1670年に備前藩主池田光政が，この地の静かさと美しさに心をうたれ，庶民のための学校建設を決意したことに始まる。国の特別史跡に指定されている旧閑谷学校において，講堂は学校建築物としては日本唯一の国宝となっている。この講堂では現在も論語朗誦の声が響きわたっており，周囲の自然環境と共にその伝統を守り続けている。こうした旧閑谷学校の創学の精神を，国宝の講堂で行われる論語学習を通して体験し，学ぶことができる環境や，人材育成の大切さを，未来の世代へ継承していってもらいたい。

Shizutani School

Lecture hall

State of autumn leaves

● 付　録

岡山から、ESD新たなステージへ

「ESDに関するユネスコ世界会議」のために世界中のESDの実践者が岡山市に集結、世界と岡山のESDが新たな一歩を踏み出しました。

9[Thu] - 12[Sun] October 2014
ESD推進のための公民館-CLC国際会議
Kominkan-CLC
International Conference on ESD
- Community Based Human Development for Sustainable Society -

4[Tue] - 7[Fri] November 2014
The 9th Global RCE Conference
第9回 グローバルRCE会議 2014
in Okayama, Japan

6[Thu] - 8[Sat] November 2014
UNESCO ASPnet International ESD Events for Students and Teachers.

7[Fri] November 2014
UNESCO ESD Youth Conference

14[Fri] - 17[Mon] November 2014
8th Biennial Meeting of the International Network

ＥＳＤ世界会議に係る各会議等参加国・参加者一覧（H26.11.18最終）

会議名等		参加国（地域）	参加者数（人）		
			海外	国内	合計
ＥＳＤ推進のための公民館・ＣＬＣ国際会議		29	102	579	681
グローバルＲＣＥ会議		47（46ヵ国1地域）	164	108	272
ユネスコスクール世界大会	高校生フォーラム	34	164	710	874
	教員フォーラム	32	31	9	40
	全国大会	33	48	約960	約1,000
	全体（重複調整）	34	179	約1,650	約1,800
ユネスコＥＳＤユース・コンファレンス		48	47	26	73
教師教育に関する国際会議		39	59	34	93

オープニングセレモニー（プロブディフ市12人含む）	85（84ヵ国1地域）	365	881	1,246

※参加国には日本を含む

○ＥＳＤ推進のための公民館・ＣＬＣ国際会議、グローバルＲＣＥ会議、ユネスコスクール世界大会、ユネスコＥＳＤユース・コンファレンス、教師教育に関する国際会議の集計

参加国：97ヵ国・地域／参加者：約3,000人（集計上は海外540人＋国内約2,400人＝約2,940）




岡山で開催されたＥＳＤに関するユネスコ世界会議各種ステークホルダーの主たる会合について

２０１４年１０月９日から１１月１７日にわたり、以下のＡ～Ｅの５つのステークホルダー会議が開催された。

Ａ：「ESD 推進のための公民館-CLC 国際会議」	１０月	９日(木)～１２日(日)
Ｂ：第９回グローバルＲＣＥ会議	１１月	４日(火)～ ７日(金)
Ｃ：ユネスコスクール世界大会	１１月	６日(木)～ ８日(土)
Ｄ：ユネスコ ESD ユース・コンファレンス	１１月	７日(金)
Ｅ：教師教育に関する国際会議	１１月１４日(金)～１７日(月)	

Ａ：「ESD 推進のための公民館-CLC 国際会議」について

１．開催期間　2014 年 10 月 9 日（木）～10 月 12 日（日）

２．開催会場　岡山コンベンションセンター

３．主　　催　岡山市、公民館・ＣＬＣ会議実行委員会、文部科学省

４．参 加 者　公民館およびＣＬＣ関係者、行政関係者、市民団体、国連機関、大学関係者など２９カ国から約６９０名（聴講者を加えると約８５０名）の参加者。

５．検討された主な議題及び、報告

全体会参加者	５７０名（海外１０３名、国内４６７名）		
分科会参加者	第１分科会（環境保全	藤田公民館）	５５名（３０名）
	第２分科会（防災・減災	御津公民館）	４０名（３１名）
	第３分科会（収入向上	西大寺公民館）	５６名（３０名）
	第４分科会（文化の多様性	東公民館）	５１名（　８名）
	第５分科会（リテラシー	京山公民館）	７１名（４９名）
	第６分科会（エンパワーメント）		７８名（１２名）
	第７分科会（政策）		１１２名（　１名）
	小計		４６３名（１６１名）
	特別分科会（文科省公民館 GP 中間報告会）		２２６名

＊（　）内は聴講者数

６．その他行われたプログラム

（１）歓迎レセプション（11 月４日　岡山全日空ホテル）

（２）フィールドトリップ（11 月６日　後楽園・岡山城）

（３）フェアウェルパーティー（11 月７日　グランヴィア岡山
※ユネスコＥＳＤユース・コンファレンスと合同で実施）

７．会議の成果

全体会及び分科会での事例報告と討議を受けた活発な討議を経て、成果文書作成委員会を中心とし

た参加者全員の努力により、終始一貫参加型を貫いてまとめられた成果文書「岡山コミットメント（約束）2014」を採択することができた。参加者からは、参加型の会議運営、分科会会場となった地区公民館のおもてなしなど、かつてないすばらしい国際会議だったとの高い評価をいただいた。

成果文書作成委員会（国内外の専門家１２名、委員長は末本誠神戸大学教授、ホセ・ロベルト・ゲバラ　アジア太平洋成人教育協議会会長）を中心に、会議開催前から会議の全参加者に素案を提示して意見を求めたほか、会議期間中、会場内に設置したボードに原案を掲示して意見を書込むかたちを採るなど透明性を確保し、かつ参加型の議論が行われた。

さらに、最終日には、会場から意見を求め、活発な意見・提案に対して成果文書作成委員会でできるだけ提案を盛り込むかたちで修正され、最後に満場一致で採択された。

８．成果文書のポイントおよび今後の取組

持続可能な社会を築くためには、コミュニティに根ざした学びに要となる役割が与えられるべきであり、公民館・CLC 等でのコミュニティに根ざした学びは、すべての教育機会の提供者や関係者が協働することによって、ESD および持続可能な開発のより広汎な目標を達成することにつながる。

そのために、個人及び集団の構成員として、１５項目の具体的な行動をとる。また、愛知・名古屋で行われる「ＥＳＤに関するユネスコ世界会議」のワークショップをはじめ、2015 年 5 月に韓国仁川で予定されている世界教育フォーラム、2015 年 3 月に仙台で開かれる国連防災世界会議などで ESD への貢献を訴えるほか取組状況の再確認を行う。

Ｂ：第９回グローバルＲＣＥ会議の結果概要

１．開催期間　2014 年１１月４日（火）～１１月７日（金）

２．開催会場　岡山コンベンションセンター

３．主　　催　国連大学サステイナビリティ高等教育研究所、岡山ＥＳＤ推進協議会、岡山市

４．参 加 者　世界の１２９ＲＣＥのうち、６８ＲＣＥが参加（参加国数４６カ国１地域（日本を含む。））、参加者総数２７２名（うち、海外から１６４名、国内１０８名）

５．検討された主な議題及び、報告

（１）各大陸毎（アフリカ、南北アメリカ、欧州、アジア・太平洋、）の課題への対応

（２）横断的課題（能力開発、政策推進、モニタリングと評価、ガバナンスなど）

（３）個別課題（気候変動、持続可能な生産と消費、生物多様性、高等教育、若者の参加など）

（４）政策決定者による円卓討議（岡山市長参加）

（５）ＲＣＥアワード（５分科会　ＲＣＥ岡山発表）

６．その他行われたプログラム

（１）歓迎レセプション（11 月４日　岡山全日空ホテル）

（２）フィールドトリップ（11 月６日　後楽園・岡山城）

（３）フェアウェルパーティー（11 月７日　グランヴィア岡山　※ユネスコＥＳＤユース・コンフ

ァレンスと合同で実施）

7．会議の成果

（1）「岡山モデル」として岡山市のＥＳＤの取組を紹介し、海外参加者からも高い評価を得た。

（2）本会議では、「2014年以降のＲＣＥとＥＳＤに関する岡山宣言」（以下「ＲＣＥ岡山宣言」という。）を以下のとおりとりまとめた。ＲＣＥ岡山宣言は、名古屋市で開催されるＥＳＤ世界会議で報告された。

ＲＣＥ岡山宣言（要旨）

1．ＲＣＥは、「国連持続可能な開発のための教育の10年」(2005年-2014年)以降もＥＳＤ活動を推進していく。

2．ＲＣＥは、ユネスコのグローバル・アクション・プログラムにおける５つの優先事項（政策の推進、学習・研修環境の整備、教育者の能力向上、若者育成、地域活動のさらなる推進）の全てにおいて主導的役割を果たす。

3．国連における「持続可能な開発目標」の実施に貢献する。

4．ＲＣＥ活動の更なる充実、質の向上に努める。

（3）会議参加者がユネスコスクール発表会に参加し、岡山の子どもたちが、海外の参加者とふれあい、ＥＳＤについての関心を高めることができた。

Ｃ：ユネスコスクール世界大会の結果概要

高校生フォーラム

1．開催期間　2014年１１月６日（木）～１１月７日（金）

2．開催会場　ホテルグランヴィア岡山　他

3．主　　催　ユネスコ、文部科学省、ユネスコ国内委員会

4．参 加 者　世界の３１か国から３１チームと日本国内より９チーム、１チームにつき高校生４名と教員１名からなる合計４０チームが会議参加者（高校生１６０名と教員４０名）。その他、運営スタッフとして６００名の高校生・教員・大学生スタッフが参加（大阪 ASPnet２００名、岡山県内４００名）、その他オブザーバー参加を含め約９００名が参加。

5．検討された主な議題及び、報告

（1）各チームよりそれぞれのＥＳＤの実践をプレゼンテーション発表

（2）２つの議題に分かれてディスカッション

ディスカッションＡのテーマ「日常生活や社会において持続性を阻害しているものは何か」

ディスカッションＢのテーマ「持続性を促進するために重要なものは何か」

（3）全体ディスカッション

テーマ「持続可能な社会や未来を創るために、ASPnet の高校生として共に目指すべきものは何か」

（4）起草委員会による起草文を採択

6．その他行われたプログラム

（1）地域交流会（11月４日～５日　岡山県内４校で受け入れ）

ルーマニア…岡山学芸館高等学校

ウガンダ…倉敷商業高等学校

メキシコ…岡山県立岡山一宮高等学校（フライトキャンセルにより２日目のみ実施）

フィリピン…清心女子高等学校

※上記４チームと受け入れ校５校で夕食交流会を実施。

（2）オープニングセレモニーへ参加（11月６日　岡山シンフォニーホール）

（3）交流会（11月７日　岡山コンベンションホール）

（4）エクスカーション（１１月８日　建部・笠岡・矢掛・四国高松・閑谷学校の５コース）

7．会議の成果　　ユネスコスクール世界大会の高校生フォーラムとして共同宣言が採択された。

高校生フォーラム共同宣言（要旨）

1　共に助け合い持続可能性について学び合う機会を大切にし、ＥＳＤについて発信していこう。

2　一人ひとりが地球に生きる一員としての自覚を持ち、環境と周りの自然を意識し、学校でＥＳＤが教えられるようになるために責任ある行動をとろう。

3　様々な生活様式や文化と意見を共有・尊重し、学び合いや知的な刺激を促進しよう。

4　コミュニケーションを更に深め、平和と人権と教育によって個人が成し遂げられるものを知ろう。このことには男女平等、人権、平和と啓発が含まれる。これら全てにおいて、教育の果たす重要な役割を意識しよう。

5　上記の全てを全員が意識して、個人の明確な目標を明らかにするよう全力を尽くそう。

教員フォーラム

1．開催期間　2014年１１月７日(金)　１５：３０～１８：３０

2．開催会場　ホテルグランヴィア岡山

3．主　　催　ユネスコ、文部科学省、ユネスコ国内委員会

4．参 加 者　高校生フォーラムに参加したチームの教員４０名、ファシリテーター、オブザーバーなど約１００名が参加

5．検討された主な議題及び、報告

（1）　テーマごとに議論 16:10-17:30

テーマＡ：ＥＳＤにより達成できたものはなにか？

テーマＢ：2014年以後ＥＳＤの推進をするために教師やASPnetが果たすべき役割や行動とはなにか？

（2）全体会 17:30-18:15

※　このあと、日本ユネスコ国内委員宣言起草ワーキンググループを中心に起草委員会が開かれ、翌日の「全国大会」で宣言文の骨子が作成された。

全国大会

1．開催期間　2014年１１月８日（土）９：３０～１７：３０

2．開催会場　国立大学法人岡山大学津島キャンパス

3．主　　催　文部科学省、ユネスコ国内委員会

4．参 加 者　学校関係者、教育委員会、保護者、地域の人々、ＮＧＯ／ＮＰＯ、企業、大学、専門機関など関係者　約１，０００名が参加。

5．検討された主な議題及び、報告

（1） 開会式

○岡山市小学生開会宣言　岡山市立伊島小学校・岡山市立津島小学校　児童代表８名

○あいさつ　文部科学副大臣　藤井基之

日本ユネスコ国内委員会　安西祐一郎

岡山市長　大森雅夫

○ＥＳＤ推進のためのユネスコスクール宣言の作成について

○ＥＳＤメッセージソング「僕らは大きな世界の一粒の命」　白井貴子

（岡山市立三門幼稚園児による参加）

（2） 全体会Ⅰ

○第５回ＥＳＤ大賞授賞式　　岡山市立京山中学校　事例発表

○国内交流の実践発表　　多摩市立東愛宕中学校・岡山市立京山中学校

○海外交流の実践（ジャパンアートマイル）

○ＥＳＤライスプロジェクト

（3） 分科会Ⅰ　テーマ別交流研修会（２２の分科会に分かれて実施）

岡山市からは以下の２つの分科会を担当した

分科会Ⅱ　ＥＳＤ博覧会

○学校によるＥＳＤ実践事例のポスター発表

○ＥＳＤ推進企業・団体による展示ブース・プレゼンテーション

（4） 全体会Ⅱ・閉会式

○宣言最終案発表

○閉会挨拶　国立大学法人岡山大学　副学長　阿部宏史

学校によるさらなるＥＳＤ推進：ユネスコスクールからの提案

ＥＳＤの推進拠点としてのユネスコスクールの経験、成果と課題にもとづき、私たちのコミットメントをより良く実現するために、また、ＥＳＤをユネスコスクール以外の学校へ、地域へとひろげていくために、ユネスコスクールとすべての学校、その支援者に向けて、以下を提案します。

●教師や子どもたちの主体的な発意やアイデアを尊重し、創造的な授業づくり、教科横断的で探究的な教育課程づくりによって学校全体でＥＳＤをすすめる。

●ＥＳＤを通した子どもたちの学びの質や育ちを内発的に評価する方法など、ＥＳＤの成果をモニタリング・評価するための方法を検討し、共有する。

●各学校のＥＳＤを持続的に支える政策や制度づくり、ＥＳＤにふさわしい校長のリーダーシップが発揮できる基盤を整備する。

●教師や教育関係者が自らの専門性を生かしながらグローバルな視野で持続可能性についての認識を深めるための研修制度を拡充させていく。

●地域において、学校を含む多様な主体が持続可能な社会づくりに参加し連携できる仕組みをつくる。

（「ＥＳＤ推進のためのユネスコスクール宣言」より一部抜粋）

D：ユネスコ ESD ユース・コンファレンスの結果概要

1．開催期間　2014 年１１月７日（金）

2．開催会場　岡山国際交流センター

3．主　　催　ユネスコ、文部科学省、公益財団法人五井平和財団、岡山市

4．参 加 者　世界 48 か国から 73 名（海外から 47 名、国内 26 名）
オブザーバーボランティア 23 名（国内参加者に含む）

5．検討された主な議題及び、報告

◇メインテーマ：ESD 推進のためにユースをどのように動員していくか

・サリー・アスカー氏（インサイト・サイテナビリティ）の基調講演とマハトマ・ガンジー平和・ESD 研究所からのプレゼンテーションの後、次の８分科会に別れた討議とメインテーマについてグループ討議が行われ、その成果は全体会で報告され、ステートメントにも盛り込まれた。

①政策的支援　②機関包括的アプローチ　③教育者・トレーナー　④ユースのための革新的な学び　⑤地域コミュニティ　⑥持続可能性に関する課題　⑦ソーシャル・アントレプレナーシップ（社会起業）　⑧女性や社会的に不利な立場に置かれている人々

6．その他行われたプログラム

（1）プレ・コンファレンス（11 月 6 日　岡山国際交流センター）

（2）フェアウェルパーティー（11 月 7 日　グランヴィア岡山　※グローバル RCE 会議と合同で実施）

7．会議の成果

（1）会議の結果を受けて作成メンバーによる作業により以下のステートメントが作成され参加者によって採択された。このステートメントはＥＳＤ世界会議で配布されるとともに、参加者の代表が全体会のパネリストとして登壇しその内容を反映させた。

> ユース・ステートメント（要旨）
>
> ESD は社会に活力を生み出す方法であり、教育に欠かせない要素。ESD なしでは前進できない。ユースは ESD アジェンダに欠かせない役割を果たす。そのため、手を取り合い若者を支援し、動員していく必要がある。そのために提言する。
>
> 1.政策の立案、実行、評価にユースに積極的な関与を確実なものにすること。
>
> 2.ユースを対等なパートナーとして認め、教育機関の運営をより持続可能なものに変化させる。
>
> 3.すべての市民が ESD のファシリテーターになり行動する可能性と責任を自覚すること。
>
> 4.コミュニティ主導型の ESD の取り組みにユースの声を尊重すること。　等

（2）会議を通して、また岡山市が行ったオープニングセレモニー、フエアウエルパーティーやエクスカーション、さらには石山公園での「ワールドキッチン」へも参加し、岡山の魅力や人々とも交流できた。また、あいち名古屋での世界会議の昼休みに分科会を独自開催するなど、若者同士の絆が一層深まり、ネットワークが強まった。

（3）地元岡山からの多くのオブザーバーボランティアが参加し、海外からの参加者をサポートするとともに交流を深め、ESD 推進の担い手としての自覚を高まった。

Ｅ：教師教育に関する国際会議の結果概要

１．開催期間　2014年１１月１４日（金）～１１月１７日（月）

２．開催会場　岡山県総合福祉・ボランティア・ＮＰＯ会館（きらめきプラザ）

３．主　　催　国際教師教育ネットワーク(International Network of Teacher Education Institutions)（略称：ＩＮ）

４．共　　催　ユネスコ、ユネスコスクール支援大学間ネットワーク(略称:ASPUnivNet)、岡山市

５．参 加 者　ＩＮ会員、ASPUnivNet 加盟大学関係者、教員養成及び国際理解に係る市内大学の教員が参加（参加国数３９カ国（日本を含む。））、参加者総数９３名（うち、海外から５９名、国内３４名）

６．検討された主な議題及び、報告

（１）「国連 ＥＳＤの１０年」における各組織・各地域（アジア・太平洋、欧州・北アメリカ、アフリカ、ラテンアメリカ・カリブ地域）の活動成果と課題に関する報告

（２）各地域の特性に基づく、グローバルアクションプログラム（２０１５年以降のＥＳＤ推進の国際的な枠組み）の推進方策に関する討議

（３）個別課題（生物多様性や気候変動、防災、地域文化の継承に関するＥＳＤの役割、教育分野別・地域単位等でのＥＳＤ推進方法、行政機関等との連携によるＥＳＤ推進体制、教員の能力開発、評価方法、教員養成機関の役割　等）に関する討議

７．その他行われたプログラム

（１）歓迎レセプション（ＩＮ主催、11 月 14 日　Sports Café 12）

（２）フィールドトリップ（11 月 17 日　三勲小学校、光南台中学校、清心女子高等学校、岡山県自然保護センター、西川・桃太郎大通り・岡山城）

（３）Banquet(お別れ会)（岡山市主催、11 月 17 日　サン・ピーチ岡山）

８．会議の成果

（１）４日間における会議での様々な討議や参加者間の情報交換等を踏まえて、今後２年間で、参加者が、各国・各組織の特性に基づいて取り組む事項を、「コミットメント」としてまとめて、ＩＮ事務局に提出した。また、このコミットメントについては、次回の会合で検証することを申し合わせた。

（２）各国の教師教育分野においてＥＳＤを牽引するとともに、国際的に活躍している研究者等が集い、「国連ＥＳＤの１０年」以降の国際的なＥＳＤの枠組みであるグローバルアクションプログラムの推進に関する最初の重要な国際会議が開催されたことは、今後とも、リーダーシップを発揮しながら、ＥＳＤの推進に貢献していくことを目指す本市の立場を世界に発信することができた。

９．参加者の声等

・市内外の学校教育施設や環境学習施設への訪問や、「お別れ会」に出演した高校生との交流等を

通じて、ＥＳＤを通じた市民との交流ができた。

・学生スタッフをはじめ、会議支援を支えた関係者のおもてなしに感謝の言葉を多数いただくとともに、市内の良好な自然環境や環境美化等について、多くの賞賛を頂いた。

私たちは「ポスト 2015 年」以降も決意と気力を込めてこの約束を守り、ESD の原理に立ち、公民館・CLC におけるコミュニティに根ざした持続的な人づくりのための学習の諸実践を支えていくつもりであることを明言する。このコミットメントで示された役割や貢献は、私たちの行動を未来に導くものである。私たちは、「国連 ESD の 10 年」を越えて ESD を継続し、前進させることを固く約束する。

―公民館・ＣＬＣ国際会議で採択された「岡山コミットメント(約束)2014」より―

世界会議は終了しましたが、今後とも岡山のＥＳＤにご期待とご指導をよろしくおねがいいたします。

Okayama Commitment 2014
– Promoting ESD beyond DESD through Community-Based Learning –

We, over 650 participants representing learners, facilitators and managers of *Kominkan* (Community Learning Centres in Japan) and Community Learning Centres (CLCs) and other institutions that promote community-based learning, governments, civil society organisations, United Nations (UN) agencies, development partners, members of academia, the private sector and media from 29 countries, who have gathered in Okayama City, Japan from 9 to 12 October 2014 at the *Kominkan*-CLC International Conference on Education for Sustainable Development (ESD) – "Community-Based Human Development for Sustainable Society" – commit to continuing and expanding Education for Sustainable Development (ESD) through community-based learning.

Okayama City is a place where several exchanges have already taken place between *Kominkan* and Community Learning Centres during the United Nations Decade of Education for Sustainable Development (DESD), including the *Kominkan* Summit in Okayama in 2007; moreover, support for *Kominkan* and community-based learning has a long history in Japan.

In recognition of the principles of ESD, we have actively participated in an open and transparent process of drafting these commitments and share in the ownership of this outcome.

1. Our Commitments

Quality education and lifelong learning opportunities for all must have a central place in national education and development systems as part of the agendas of Education for All (EFA) and Sustainable Development Goals (SDGs).

Rethinking education to build inclusive and sustainable learning societies should give a key role to community-based learning. Community-based learning through *Kominkan*-CLCs and similar mechanisms needs to be carried out collaboratively with all providers and stakeholders in national learning and education systems to achieve ESD and the broader goals of sustainable development.

Therefore, in our respective individual and collective capacities, we commit to the following actions:

1. Develop greater awareness of and advocacy for the significance of ESD in *Kominkan*-CLCs and the roles of *Kominkan*-CLCs in promoting ESD;
2. Work together to improve and maintain strategic alliances between and among communities and stakeholders to develop a community of practice which addresses sustainable development challenges in local and global contexts;
3. Ensure the development of effective and functioning *Kominkan*-CLCs through ongoing professional and institutional capacity development in order to help build the confidence of communities as active participants in the development process;
4. Advance the innovative practices of ESD to ensure effective contributions to sustainable development through continuous documentation and research, acknowledging the need to be responsive to the changing needs of society;
5. Support and share good ESD practices through establishing resource centres and networks, especially with sister *Kominkan*-CLCs, in the context of lifelong learning for all (children, youth, adults, the elderly, the disadvantaged, etc.);
6. Empower communities to promote education on climate change, bio-diversity, food and nutrition security, resilience and disaster risk reduction management informed by the principles of ESD;
7. Nurture learning spaces which promote freedom of expression and develop skills in conflict resolution towards attaining a peaceful society;
8. Promote literacy by providing flexible and relevant learning opportunities for indigenous peoples, the differently abled, and other marginalised people in the community;

9. Develop the capacities of youth for employability, life skills and citizenship, and encourage youth leadership in *Kominkan*-CLC activities, providing greater sustainability and stability from generation to generation;
10. Give priority to girls and women to reduce gender gaps in literacy and build safe environments within families and the society and ensure equal participation of women and men in development processes;
11. Assist communities in securing material, financial and technical support to identify issues and develop solutions to create sustainable communities which value and respect diversity of culture and life;
12. Engage policy makers to contribute to the development of comprehensive and clear policies acknowledging bottom-up and top-down approaches which support *Kominkan*-CLC-based activities;
13. Mobilise funding and technical resources from communities, corporations and local, national and international sources;
14. Urge governments, policy makers, international agencies and private sectors to support *Kominkan* and CLC-based activities which tackle local, national, regional and global challenges through ESD; and
15. Continue to collaborate with existing and emerging networks, such as the UNESCO Global Network of Learning Cities (GNLC), the UNESCO Associated Schools Project Network (ASPnet), UNITWIN/UNESCO Chairs Programme etc., which share our commitment to ESD.

The job is not done with the adoption of the SDGs and new EFA goals and the related targets and indicators. We assert that we will continue to pursue our commitments in the post-2015 era with determination and vigour, uphold the principles and support the practices of learning for community-based sustainable human development through *Kominkan*-CLCs. The roles and contributions identified in this Commitment will guide our action.

We commit to continuing and advancing ESD beyond DESD.

2. Context

The United Nations Decade of Education for Sustainable Development (DESD) as a Response to the Crisis of Sustainability

We are facing an urgent crisis of sustainability. The DESD International Implementation Scheme has inspired people to actively participate in the creation of "a world where everyone has the opportunity to benefit from education and learn the values, behavior and lifestyles required for a sustainable future and for positive societal transformation."

The realisation of a sustainable society requires that the interlocking elements of the social, economic, environmental and cultural dimensions be recognised and addressed. The recent increase in conflicts has significantly weakened the bonds of trust necessary to establish the foundations of a sustainable society.

Education for Sustainable Development (ESD)

ESD acknowledges and celebrates all forms of education and learning: formal, non-formal, informal and incidental in the context of life-long and life-wide learning for all. Non-formal education and community-based learning provides opportunities for children, youth and adults to transform themselves and their communities through their individual and collective actions.

Multi-faceted approaches are necessary in ESD, which responds to issues with complex causes and outcomes. ESD involves a holistic approach which embraces the dynamic interaction and complementarity of traditional wisdom and modern knowledge, the changes in urban and rural environments, and skills development and learning which value ownership, citizenship, participation and empowerment.

The Focus of the *Kominkan*-CLC International Conference on ESD

Community-based learning institutions provide opportunities for individuals and communities to develop literacy, numeracy, life skills and livelihood skills necessary to establish connections and responses to global and local issues.

Institutions which facilitate community-based learning, such as *Kominkan*-CLCs, provide the space to talk about their concerns, raise people's awareness, motivate them to respond and establish ownership of their responses, and support them in sharing their hopes for a more sustainable society.

Kominkan-CLCs are unique in their role as meaningful platforms to promote and achieve the vision of ESD through multi-stakeholder, collective and inclusive approaches.

3. Roles and Contributions of Institutions which Facilitate Community-Based Learning

Roles and Contributions in General

Institutions which facilitate community-based learning, such as *Kominkan*-CLCs and other similar organisations all over the world, have made significant contributions towards attaining the vision of sustainable societies during the DESD:

1. As a "PLACE" for advancing ESD by promoting Participation, Learning, Action, Creation and Empathy, where people acknowledge and recognise each other, helping community members transition from non-participation to full commitment;
2. As a bridge between formal, non-formal and informal education by engaging community networks, schools and higher education institutions, administrative bodies and corporate sectors;
3. As a provider of inclusive and flexible education for hard-to-reach and disadvantaged children, youth and adults, providing second chance-education opportunities;
4. As a facilitator of relevant and responsive learning approaches incorporating folk and indigenous knowledge and local history as a springboard for planning and action;
5. As a catalyst of innovative and effective learning which makes use of technologies including mass media, social media, Internet and other digital technologies;
6. As a weaver of intergenerational and multidisciplinary knowledge and cultural diversity contributing to peace and social cohesion, promoting mutual recognition of different positions and views;
7. As a capacity builder of community education professionals who can inspire learners to become lifelong learners; and
8. As a hub which engages and empowers individuals by changing their mindset from thinking and acting for themselves to working for the benefits of the wider community.

Roles and Contributions in Specific Fields

During the DESD, a number of critical cross-cutting issues such as peace, human rights and equity have influenced and will continue to inform our commitments. These include ensuring peaceful and harmonious communities by promoting understanding between diverse peoples; reducing inequalities; protecting and advancing human rights; and addressing the deprivation of communities by creating learning opportunities to respond to poverty alleviation, lack of employment, health, and food and nutrition security.

We have been actively engaged in the following fields and wish to underscore the important roles and contributions which have been achieved:

1. Environmental Conservation
   We have supported citizens' learning informed by the history and wisdom of our ancestors and lessons learnt from responding to environmental destruction. Furthermore, a collaborative science-based process has empowered some communities to achieve environmental sustainability.

2. Disaster Risk Reduction (DRR)
   We have developed and maintained communities' resilience against natural and human-induced disasters through relevant learning and cultivating human relationships anchored on selflessness, empathy and mutual-help.

3. Income Generation, Entrepreneurship, Community Development
   We have played a crucial role in the economic development of communities by promoting social enterprises supportive of self-sufficiency.

We have served as a catalyst in harnessing human potential to participate in productive community enterprises, improving the well-being of families with greater ability to solve local issues and challenges.

4. Cultural Diversity and Dialogue, Intergenerational Exchange
   We have facilitated empowerment of communities through intergenerational, inter-sectoral and intercultural learning for all.
   We have supported communities in discovering, sustaining and creating culture for the public value, while respecting diversity in gender, age, ethnicity, religion and languages.
   We have gathered local and indigenous wisdom and resources and utilised them for mutual learning.

5. Literacy
   We have provided literacy learning opportunities as a human right to equip everyone with the basic knowledge and skills necessary for a productive livelihood and the improvement of community well-being.
   We have opened spaces for creativity and at the same time pushed for new learning frontiers to make ESD universal. Technology, including the use of information and communication technology (ICT) in literacy, has added significant new momentum to *Kominkan*-CLCs.

6. Empowerment
   We have realised that different communities have different needs. Therefore we have created a comprehensive network system of stakeholders to address the needs of vulnerable and marginalised groups, whose self-esteem is thus continuously built, making them active participants in the development process and ensuring their rights to decent life and gender equality.

7. Policy Making, Management and Capacity Development
   Policy support for community-based learning has been ensured in some countries to develop a platform of community dialogues, networking and resource mobilisation. We have created learning communities which promote autonomous actions and reaffirm local values and practices from the ESD perspective and developed capacities of community-based learning professionals and learners.

We acknowledge the achievements of previous regional and global events, such as the Jakarta Statement: *Nurturing a Care, Fair and Share Society through CLCs* adopted in September 2014.

We will use this Commitment as an opportunity to engage learners, managers and governments in a dialogue towards developing concrete policies and actions.

We will engage with local, national and international forums which will contribute to the formulation of the Post-2015 Development and Education Agenda, to underscore the vital importance of community-based learning for sustainable human development. More specifically, we see the forthcoming global conferences as opportunities for advocacy and re-affirmation of our commitment to ESD: the World Conference on Education for Sustainable Development in Aichi-Nagoya, Japan in November 2014, the UN Conference on Disaster Risk Reduction in Sendai, Japan in March 2015, the World Education Forum in Incheon, Republic of Korea in May 2015 and the UN-facilitated discussions in the lead-up to the adoption of the Sustainable Development Goals (SDGs) in September 2015.

We would like to thank Okayama City, the Executive Committee for *Kominkan*-CLC Conference, the Japanese Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) as organisers and UNESCO Asia-Pacific Regional Bureau for Education (UNESCO Bangkok), UNESCO Asia-Pacific Regional Bureau for Science (UNESCO Jakarta), UNESCO Institute for Lifelong Learning (UIL), National *Kominkan* Association as co-organisers and all the other institutions and people who worked to organise this Conference.

We would especially like to express our appreciation to the citizens and *Kominkan* of Okayama City for their warm hospitality.

Adopted on 11 October 2014, Okayama City, Japan
Participants of the *Kominkan*-CLC International Conference on ESD

岡山コミットメント（約束）2014

～コミュニティに根ざした学びをとおして ESD を推進するために、「国連 ESD の 10 年」を超えて～

2014 年 10 月 9 日から 12 日まで、岡山市で開催された「ESD 推進のための公民館−CLC 国際会議～地域で学び、共につくる持続可能な社会～」に 29 カ国から集まった、私たち公民館・CLC（コミュニティ学習センター）の学習者やファシリテーター、運営責任者をはじめ、国や地方の行政関係者、市民団体、国連機関や開発の関係者、大学等の研究者、企業やメディアの代表者など 650 名を超える参加者は、コミュニティに根ざした学びを通して ESD を継続、拡大していくことを、以下のように約束する。

日本では、公民館やコミュニティに根ざした学びへの支援は以前から行われてきているが、岡山市では、「国連 ESD の 10 年」への取組として、2007 年の「公民館サミット in 岡山」をはじめ、公民館と CLC の交流活動がいくつも積み重ねられてきた。

私たちは ESD の原則に沿うよう、この成果文書の草案の段階から、透明で開かれた策定のプロセスに積極的に参加してきた。私たちは、策定されたこのコミットメントを、自分たちのものとして共有するものである。

1．私たちの約束（コミットメント）

「万人のための教育（EFA）」と「持続可能な開発目標（SDGs）」の重要な部分をなす、すべての人々に質の高い教育と生涯にわたって学ぶ機会を提供することは、各国の教育および開発の制度の中で中心的な位置を占めなければならない。

誰もが排除されない持続可能な社会を築くため、教育の在りようを見直すときには、コミュニティに根ざした学びにこそ、要となる役割が与えられるべきである。公民館・CLC、そしてこれらに類似する施設・機関において営まれるコミュニティに根ざした学びは、各国の教育および学習の制度におけるすべての教育機会の提供者、および関係者と協働した取組となることによって、ESD および持続可能な開発のより広汎な目標を達成することにつながるのである。

したがって、私たちは個人および集団の構成員という立場で、次に掲げる行動をとることを約束する。

1. 公民館・CLC における ESD の重要性と、ESD における公民館・CLC の重要性の双方について、認識を広め支持を拡大する。
2. コミュニティ間および問題解決の当事者同士が「実践の共同体」を創り出し、地域および国際社会における持続可能性に関する課題に対応することができるよう、戦略的な連携を強め維持する行動に共に取り組む。
3. 各コミュニティが、地域の発展の過程に当事者として参加する自信がもてるよう、引き続き職員の専門的能力や組織の力量の育成・向上に努めることによって、効率的で機能的な公民館・CLC づくりを着実に進める。
4. 変化する社会のニーズに対処する必要性を理解しつつ、継続的な実践記録の作成や研究活動をとおして、持続可能な社会づくりに、より効果的に貢献できるよう、ESD に関わる革新的な実践をさらに前進させる。
5. すべての人（子ども、若者、成人、高齢者、障がいのある人など）にとっての生涯学習という観点から、資料センターの創設やネットワークの構築、とりわけ姉妹公民館・CLC との連携をとおして、ESD の先進事例を発掘し共有する。
6. コミュニティが、ESD において気候変動、生物多様性、レジリエンス（跳ね返す力）、防災、食料と栄養の安全保障に関する教育を推進できるよう、力の獲得を後押しする。
7. 表現の自由を拡げるための学びや、平和な社会の構築に向けて、紛争解決のスキルを身につけるための学びの場を設け、広める。
8. 先住民族や障がいのある人たちなど、コミュニティにおいて疎外されている人々に対して、柔軟で生活に即した学びの機会を提供し、識字を促進する。
9. 若者が仕事に就くための能力や生活上の技能、市民性を身につけられるよう取り組むとともに、公民館・CLC の活動における若者のリーダーシップを支え、活動の持続可能性と安定性が世代を越えて維持され発展するようにする。
10. 識字におけるジェンダー格差を解消するために少女および女性の教育を重視するとともに、少女および女性が安心できるような

家庭や社会環境を築くことによって、社会の発展の過程に女性と男性が共同して参画できる機会を確保する。

11. 各コミュニティが地域の課題を発見し、その解決に向かうために必要な物質的、財政的、技術的な援助をすることによって、文化と生活の多様性を尊重する持続可能なコミュニティが創出されるようにする。
12. 公民館・CLC における活動を支援するためには、ボトムアップとトップダウン両方の進め方が必要であることから、総合的で明確な政策が策定されるよう政策当局に働きかける。
13. 資金と技術の供給源として、コミュニティと企業だけでなく、地方、国家、国際レベルでの提供者を獲得する。
14. ESD をとおして地方や国、地域や地球規模の課題解決に取り組んでいる、公民館・CLC における活動を支援するよう、政府や政策当局、国際機関、民間企業に働きかける。
15. ESD に関するこのコミットメントを共有する、ユネスコ学習都市世界ネットワーク（GNLC）、ユネスコ・スクール・ネットワーク（ASPnet）、ユニトゥウィン（UNITWIN）／ユネスコチェア(UNESCO Chairs)など、既に存在するかこれから作られるネットワークとの協働を継続する

SDGs（持続可能な開発目標）や新たな EFA（万人のための教育）の最終目標、さらにはそれに関する目標や指標の採択をもって、私たちの仕事が終わるわけではない。私たちは「ポスト 2015 年」以降も決意と気力を込めてこの約束を守り、ESD の原理に立ち、公民館・CLC におけるコミュニティに根ざした持続的な人づくりのための学習の諸実践を支えていくつもりであることを明言する。このコミットメントで示された役割や貢献は、私たちの行動を未来に導くものである。

私たちは、「国連 ESD の 10 年」を超えて ESD を継続し、前進させることを固く約束する。

2. 背景（コンテクスト）

持続可能性の危機に対する答えとしての「国連 ESD の 10 年」

私たちは今、持続可能性の危機に直面している。「国連 ESD の 10 年国際実施計画」は、「誰もが教育から恩恵を受ける機会があり、持続可能な未来社会の構築と、現実的な社会変革のために必要な価値観や行動、ライフスタイルを学習することができる機会を得ることができる世界」の実現に、人々が積極的に参画することを勇気づけてきた。

持続可能な社会の実現には、社会、経済、環境、文化などの次元が複雑に絡み合った原則を認識して、対処していくことが必要である。近年の増加する紛争は、持続可能な社会づくりに必要な人々の信頼関係を著しく損ねている。

持続可能な開発のための教育（ESD）

ESD はフォーマル教育、ノンフォーマル教育、インフォーマル教育、偶発的な学びなど、あらゆる人のための生涯にわたる、あらゆる場面での教育や学びであることが認識され、尊重される。ノンフォーマル教育と地域に根ざした学びは、子ども、若者、成人が、個人あるいは集団の行動を通じて、自分自身やコミュニティが変容する機会を提供する。

ESD においては、原因と結果が複雑に関係し合う課題に対応するため、多面的な取組が必要である。ESD には、当事者性や市民性、参加や能力獲得を重視する、伝統知と現代知の力強い相互作用と補完、都市と農村での環境変化への対応、技術の習得と向上にいたる、包括的な取り組み方法が含まれている。

ESD 推進のための公民館 CLC 国際会議の焦点

コミュニティに根ざした学びの機関は、個人やコミュニティに読解力や数的思考力、生活に必要な技能や職業技術を提供し、自分を地域や世界の課題と結びつけて対処できるようにする。

公民館や CLC などのコミュニティに根ざした学びを促進する機関は、人々の日頃の関心を言葉にし、人々の気づきを促し、自分の問題として受け止めて取り組むよう動機づけ、より持続可能な社会を作ろうという希望を彼らが他の人と分かち合うことを支える場を提供する。

公民館・CLCは、多様な問題解決の当事者による集団的で誰も排除することのない取組を通じて、ESDの示す未来を近づけ実現するための大切な足場になるという、独特の役割を持っている。

3.コミュニティに根ざした学びを促進する機関の役割と貢献

全般的な役割と貢献

公民館・CLCなどコミュニティに根ざした学びを推進する機関や、世界中にあるこれらに類似する組織は、「国連ESDの10年」の間、以下の役割を通して、持続可能な社会の実現に大きく貢献してきた。

1. Participation (参加)、Learning (学習)、Action (行動)、Creation (創造)、Empathy (共感)を促すことによって、互いを認め合い、 無関心だったコミュニティの住民が積極的に参画するように変容する、ESD推進のための「PLACE (場)」として。
2. 学校や高等教育機関、行政、企業を結んだコミュニティのネットワークを通じた、フォーマル教育、ノンフォーマル教育、インフォーマル教育の橋渡し役として。
3. 教育の機会に恵まれない、疎外された子ども、若者、成人が、新たに教育の機会を得ることができる、柔軟で誰もが排除されない教育の提供者として。
4. 未来の計画と行動のための足がかりとして、民族や先住民の知恵、および地域の歴史を組み込んだ、生活に即し状況に応える学び方の進行役として。
5. マスメディア、ソーシャルメディア、インターネット、その他のデジタル技術などを活用した、革新的で効果的な学びの媒介者として。
6. 様々な立場や見解があることを互に尊重し合うよう努めながら、平和と社会の一体性に貢献するものとして、世代を超えて共有される知識、学際的な知識、文化の多様性を織り合わせる織り手として。
7. 学習者の生涯を通じた学びを促す、コミュニティ教育の専門職の能力向上のための機関として。
8. 自分本位の考えや行動から、広くコミュニティの利益のための行動へと考え方を転換するよう、個人が力を獲得することを後押しする拠点として。

テーマ別の役割と貢献

「国連ESDの10年」の間、私たちは平和、人権、平等など重要で横断的なたくさんの課題に取り組むことを求められてきたが、これらは今後も私たちのコミットメントの方向を示し続けるものになるだろう。そこには、多様な人々の相互理解を通して平和で調和のあるコミュニティを確かなものにすること、格差を縮めること、人権を守り発展させること、貧困の撲滅、雇用の不足、健康、食糧と栄養の確保などに応える学習の機会を作ることによって、コミュニティから奪われたものの回復に取り組むことなどが含まれる。

以下のテーマに積極的に関わり続けてきた私たちは、これまでの成果としてそこで果たした役割や貢献を次のように強調したい。

1. 環境保全
   私たちは、祖先の知恵、歴史、過去の環境破壊の例をもとにした市民の学びを、支援してきた。さらにいくつかのコミュニティでは、学際的な科学に基づいた取り組みによって、持続的な環境保全が実現してきた。
2. 防災・減災
   私たちは、適切な学びを通じ、また無私、共感、共助に基づいた人々の関係づくりを通して、自然災害や人為災害を跳ね返す力をもったコミュニティを発展させ維持してきた。
3. 収入向上・社会的起業・地域活性化
   私たちは、自立につながる社会的起業を促進することによって、コミュニティの経済的発展に寄与する、欠くことのできない役割を果たしてきた。私たちは、埋もれた人材を見つけ出し、彼らが実りのあるコミュニティの起業に参加し、地域の心配事や課題を解決するより大きな力を身につけることによって、家族の状態を改善できるようになるための触媒としての役割を果たして

きた。

4. 文化的多様性・対話・世代間交流

私たちは、あらゆる人に世代、活動領域、異文化をつなぐ学びを提供することを通して、コミュニティが力を獲得する後押しをしてきた。私たちはジェンダーや年齢、民族性、宗教、言語の多様性を尊重しつつ、コミュニティが公共の価値をもつものとして文化を発見、持続、創造することを支援してきた。私たちは、地域の土地に根ざした知恵や資源を集め、相互の学びに利用してきた。

5. リテラシー

私たちは、人権としてすべての人が基礎的な知識と技術を身に付け、豊かな暮らしを手にし、コミュニティが安定した暮らしを確立できるよう、識字を学ぶ機会を提供してきた。私たちは創造のための場を設けるとともに、ESD が広く普及するための新しい学びに挑んだ。情報通信技術（ICT）を含めた技術は、公民館・CLC に重要で新しい契機をもたらした。

6. エンパワーメント

私たちは、異なったコミュニティには異なったニーズがあることを理解した。それゆえ私たちは、社会的に弱い立場におかれ、疎外されたグループに焦点を当てて、広範囲な問題解決の当事者たちのネットワークシステムを作り上げてきた。そのことによって彼らの自己肯定感は持続的に高まり、社会発展の過程に積極的に参加するようになり、きちんとした生活とジェンダーの公平さに対する彼らの権利が確立されることになった。

7. 政策決定、管理、能力開発

いくつかの国においては、地域に根ざした学びへの政策的支援が行われたことによって、地域での対話、ネットワーク、資源を獲得するための共通の土台が作られた。さらに私たちは、自主的な行動を促し、地域に伝わる価値観と習慣を ESD の視点から改めて認め、地域に根ざした学びを支える職員と学習者の能力を向上させる、「学びのコミュニティ」を創造してきた。

私たちは、2014 年 9 月に採択された「ジャカルタ宣言～CLC を活用した Care（思いやり）, Fair（公平）, Share（分かち合い）の社会～」をはじめとする、これまでの地域的、世界的な会議の成果に敬意を払う。

私たちはこのコミットメントを、学習者や管理運営の責任者、政府などが、具体的な政策や行動を起こすための対話に取り組むきっかけとなるよう活用していきたい。

私たちは、地域に根ざした学びが持続可能な人づくりにとって極めて重要であることを強調するために、「ポスト 2015 年」の開発と教育アジェンダ策定に寄与することを目指して開かれる地域、国家、国際レベルでのフォーラムに参加することを予定している。具体的には、まもなく開催される今年 11 月の愛知県名古屋市での ESD に関するユネスコ世界会議、2015 年 5 月に韓国仁川で予定されている世界教育フォーラム、2015 年 3 月に仙台で開かれる国連防災世界会議、2015 年 9 月に採択予定の持続可能な開発目標（SDGs）の策定に向け国際連合によって進められる様々な議論の場を借りて、私たちの ESD への貢献を訴え、ESD への私たちのコミットメントを再確認していきたいと考えている。

謝辞

主催者である岡山市、公民館・CLC 実行委員会、日本の文部科学省、および共催者であるユネスコアジア太平洋地域教育事務局（ユネスコ・バンコク）、ユネスコアジア太平洋地域科学事務局（ユネスコ・ジャカルタ）、ユネスコ生涯学習研究所（UIL）、全国公民館連合会ほか、すべての機関とこの会議を組織するために働いたすべての人びとに感謝する。
特に、岡山市の市民のみなさんと公民館の温かいもてなしに、心から感謝したい。

2014 年 10 月 11 日、岡山県岡山市において採択。
ESD 推進のための公民館―CLC 国際会議　参加者一同

Okayama Declaration
on RCEs and ESD Beyond 2014

The global network of Regional Centres of Expertise (RCEs) on Education for Sustainable Development (ESD), having met in Okayama, Japan for the 9th Global RCE Conference, reaffirm the Tongyeong Declaration and hereby declare a renewed commitment to support relevant international ESD frameworks, including the Global Action Programme on ESD, beyond the UN Decade of Education for Sustainable Development.

RCEs are designed to achieve systemic transformation by contributing to the realization of socially inclusive and equitable economies within the renewable capacity of earth and planetary systems. Seeking change at the interface of education, research, policy and practice, RCEs commit to the strategies within the priority action areas of the Global Action Programme on ESD, namely actions for advancing policy, transforming learning and training environments, building capacities of educators and trainers, empowering and mobilizing youth, and accelerating sustainable solutions at the local and regional levels, to create sustainable societies.

During the ten years of the global network, RCEs have been navigating a pathway for collective action on ESD. This approach is based on the RCE vision and implementation of contextual programmes for ESD, as well as mutual respect and support within and across continents. RCEs commit to advancing ESD through recognition and respect for indigenous and traditional knowledge. In recognition of global interdependence, RCEs will share responsibility for advancing ESD beyond borders in time and space, mindful of the Sustainable Development Goals.

The global network of RCEs acknowledges the increasing role of formal and non-formal education in ESD and the transformative contributions of RCEs during the UN DESD and beyond, and commits to accelerate, mainstream and scale up actions that empower communities and diverse stakeholders for societal change in multicultural, social, political and economic environments, with compassion and care for individuals as collective members of society. The RCEs will accomplish their mission by building up multi-stakeholder networks with distinctive capacities for research and development, and having innovative and continuously evolving democratic, participatory governance systems.

In adopting this Okayama Declaration, each and every member of the global RCE community aspires to uphold the mission and ambitions of the RCE movement, and commits to contribute through operational and strategic clusters and actions to address sustainability issues at the local and continental levels, which are aimed at achieving the long-term goals of ESD, including environmental stewardship, social justice, and safeguarding the quality of all dimensions of life.

採択日: 平成 26 年 11 月 7 日

2014 年以降の RCE と ESD に関する岡山宣言

持続可能な開発のための教育に関する地域の拠点（RCE）のグローバル・ネットワークは、岡山市で開催されたグローバル RCE 会議において、トンヨン宣言のコミットメントを再確認し、「国連持続可能な開発のための教育（ESD）の 10 年」以降も ESD に関するグローバル・アクション・プログラムを含め、ESD に関連する国際的なフレームワークを支援するため、ここに新たなコミットメントを宣言します。

RCE は、社会的包摂と地球上の再生可能範囲内での公正な経済の実現の貢献を通じた組織的な変革を目指しています。RCE は教育・研究・政策・実践の接点において変革を探求し、持続可能なコミュニティー形成のため、ESD に関するグローバル・アクション・プログラムの優先事項である「政策の推進」「学習・研修環境の整備」「教育者の能力向上」「若者のエンパワーメント」「地域レベルでの持続可能なソリューション」の促進を行います。

これまでの 10 年間、RCE のグローバル・ネットワークは、ESD に関する活動間の連携を推進してきました。その道のりは、RCE のビジョンと地域性に即した ESD プログラム、また地域を越えた相互尊重と支援のもとに築かれてきました。RCE のグローバル・ネットワークは、先住民の知恵や伝統知を尊重しながら、ESD 推進に尽力します。国際的な相互依存の認識を持ち、RCE は持続可能な開発目標（SDGs）を念頭に置き、時間や場所という境界を超えて ESD を推進します。

RCE のグローバル・ネットワークは、フォーマル教育とノンフォーマル教育の ESD における更なる役割と、「国連 ESD の 10 年」とそれ以降の RCE の変革における貢献を認め、他者を社会の一員として思いやり、多文化的・社会的・政策的・経済的環境の変化を目指すコミュニティーおよび多様なステークホルダーの活性化に向けた活動の推進と主流化、拡大に尽力します。RCE は研究開発において特有の能力・資質をもつマルチステークホルダーからなるネットワークを構築し、革新的で民主的、また常に発展し続ける参加型のガバナンス・システムをもつことで RCE としての任務を果たします。

この岡山宣言の採択にあたり、グローバル RCE コミュニティーの全てのメンバーは RCE 活動の任務と志を支持するとともに、ESD の長期的目標の達成を目指し、環境管理・社会的公正・あらゆる面における生活の質の保護・向上など、地域・大陸レベルでの様々な持続可能性に関する課題への運営的・戦略的クラスターおよび取り組みを通じて貢献することを宣言します。

The Joint Declaration of
UNESCO ASPnet International ESD Events for Students and Teachers
Platform for Students

Adopted on November 7, 2014

People around world have been making huge efforts to solve both global and regional issues. It is true that societies have made good progress when it comes to wars, conflicts, the environment, culture, energy and food. However, today we still face many problems. For these reasons, we, as ASPnet high school students, are committed to learning from one another, taking into account our diverse regional backgrounds, with the aim of learning more about the world's important issues.

We are now at the end of the UN Decade of Education for Sustainable Development, which began in 2005. Throughout the past 10 years, we have learned the importance of mutual learning and of developing a shared attitude towards global issues. This has been achieved in the clear belief that Education for Sustainable Development (ESD) is essential to the success of sustainable development around the world. As a result, it seems that the world is looking to us, the younger generation, to commit ourselves to solving these problems – now more than ever.

Today, in November 2014, we have come together here in Okayama City, Japan, as high school students from thirty-two nations, representing a new generation of ESD. Our discussions began with familiar issues under the themes of 'What factors do we believe block sustainability in everyday life and society?' and 'What is important when it comes to promoting sustainability?'

Subsequently, we discussed what we mean by 'development', and here we agreed on the diversity of its applications. We shared the opinion that, as high school students, we need to take the lead in respecting the environment, our culture, our traditions, and other human beings – regardless of their age or where they live. We need to spread our ideas as widely as we can through a range of demonstrable activities and do this in a responsible way. To achieve our aims, we believe that it is important for us to start with small actions in our immediate vicinities. For example we can cooperate with our friends, promote recycling and participate in volunteer activities, all the while demonstrating to an increasing number of people the range of enjoyable opportunities that ESD provides. This will interest other people in ESD and in the younger generation as a result of our unique, creative projects. In short, we agreed there are many things

we can do together.

Based on these discussions, we then exchanged opinions and ideas to explore what we, as high school students, can and should do now and in the future. Finally, we arrived at the following five conclusions:

1. We are not helpless but our abilities may be limited. However, we are keen to cooperate with each other, to make full use of the opportunities that exist for learning about sustainability, and to disseminate information on ESD.

2. We are conscious that every single one of us, as high school students, are human beings living on Earth. As such, we need to be conscious of the environment and the natural world around us. In the longer term, we need to take responsible actions in specific ways to encourage ESD where it is not yet taught in schools.

3. Each of us has a responsibility to share and respect a variety of lifestyles, cultures and opinions by fostering connections with each other so that we can promote mutual understanding and inspiration.

4. People need to learn how to connect or communicate with each other more, to know what peace and human rights are, and what the individual can achieve through education. This should consist of topics such as gender equality, human rights, peace, and awareness raising. In all of this, we need to be conscious of the important role that education plays.

5. Every one of us needs to be conscious of all the above-mentioned and make every effort to develop clear personal objectives.

ユネスコスクール世界大会 Student(高校生)フォーラム共同宣言

2014年11月7日採択

世界は、地球的規模の諸問題と各地域における諸問題を解決しようと多大な努力を続けてきました。戦争、紛争、環境、文化、エネルギー、食について着実な進歩を遂げてきましたが、今日にいたっても私たちはまだ多くの問題に直面しています。そのため私たちASPnetの高校生は、様々な地域の背景を考慮しつつ、世界の重要な諸問題について更に知るために、学び合いの努力をしています。

2005年に始まった「国連ESDの10年」は最終年を迎えました。この10年間、私たちは、学び合いの大切さを知り、地球的諸問題に共同して立ち向かう姿勢を強めることを学びました。これは、世界の持続可能な発展の成功にはESDが必要欠くべからざるものであるという明確な信念のもとに達成されました。その結果、世界は私たち若者世代によるこれら諸問題への参画を、これまでにも増して期待しているように見えます。

2014年11月の今日、新しいESD世代の代表として世界32ヶ国から私たち高校生はここ日本の岡山市に集いました。「日常生活と社会において持続性を阻害しているものは何か」、「持続性を促進するために重要なものは何か」というテーマのもとで、私たちは身近な問題から話し合いを始めました。

その後、発展とは何かという話し合いにより、私たちはその多様性を確認しました。

私たち高校生が先頭に立って、環境、文化、伝統、そして世代や国を越えて人を尊重していくという意見が述べられました。私たちは責任あるかたちで、様々な目に見える活動により出来る限りその輪を広げていくことが必要です。またそのためには、一人ひとりが自分の生活の中で小さな行動から始めることが大切です。たとえば、友達との協力やリサイクル運動、ボランティア活動への参加をとおして、ESDに興味・関心を持てるような楽しい学びの場をより多くの人に紹介していくことができます。そしてこのことは、若者の独創的な企画によってESDや若者世代への興味を喚起することにもなるでしょう。私たちは共に行動できることがたくさんあることに気付きました。

これらのディスカッションに基づいて、高校生である私たちが現在と未来においてできることとなすべきことを模索して意見を交換しました。その結果、合意にいたったことは次の5点です。

1. 自分たちの力は無力ではないにせよ限られています。しかし共に助け合い、持続可能性について学び合う機会を大切にして、ESDについて発信していきましょう。

2. 私たち高校生は、一人ひとりが地球に生きる一員としての自覚を持ち、環境と周りの自然を意識していきましょう。長期的な視点にたって、学校でESDが教えられるようになるために責任ある行動を明確にとりましょう。

3. 私たち一人ひとりが責任をもって互いのつながりを育てることで、様々な生活様式と文化と意見を共有して尊重しましょう。そうすることで、学び合いと知的な刺激を促進しましょう。

4. つながり合いとコミュニケーションを更に学ぶことで、平和と人権と、教育によって個人が成し遂げられるものを知りましょう。このことには男女平等と人権と平和と啓発が含まれます。これら全てにおいて、私たちは教育の果たす重要な役割を意識しましょう。

5. 上記の全てを私たち全員が意識して、個人の明確な目標を明らかにするよう全力を尽くしましょう。

Okayama Declaration of the UNESCO Associated Schools in Japan

Promoting Education for Sustainable Development (ESD) beyond the United Nations Decade of ESD

What ESD means to us

I am connected to you, to everyone at school, to everyone in the community, an inclusive community, and to everyone in the world.
Therefore, even though you may be hidden from my view, recognizing the value of my role in encouraging each other and supporting each other makes me want to do something.
My world extends from the classroom to the schoolyard, from the schoolyard to the community, from the community to my country, from my country to your country, and then further to the world and to the Planet.
Therefore, recognizing that precious living treasures are present everywhere, makes me want to do something.
Connections with the past, with tomorrow and with the distant future. Now, I am connected with the past and with the future.
Therefore, recognizing that I shoulder an important responsibility amid this long passage of time, makes me want to do something.

Based on a message from teachers describing their perceptions of student transformation at a UNESCO Associated elementary School

Incorporating the ESD vision will lead to the creation of various connections within children's learning - connections between themselves and other people, as well as with the diversity of the world, the living earth, nature, science and technology, culture, the past and the future. Amid such connections, learning will deepen and survive in the hearts of children, and it will support the creation of a sustainable future. This support will be in the form of power to invoke action and collaboration, and the ability to continue inquiring and learning.

Outcomes of the UNESCO Associated Schools in Japan under the UN Decade of ESD

In 1953, UNESCO launched a programme to realize its ideals in schools around the world. Schools in Japan have participated in the programme from the outset. In Japan, the Course of Study (National Curriculum Standard) and the Basic Plan for the Promotion of Education incorporate the ideas of constructing a sustainable society and promoting ESD. UNESCO Associated Schools in Japan were positioned as bases for promoting ESD in accordance with the Proposal regarding the effective utilization of UNESCO Associated Schools for the promotion and dissemination of Education for Sustainable Development (ESD) (February 2008) by the Japanese National Commission for UNESCO. Through the ESD vision, and by virtue of teachers who empathize with the objectives of UNESCO Associated Schools Project Network

(ASPnet), and of people and organizations that support the schools, UNESCO Associated Schools in Japan increased dramatically in number, to reach a current total of 807. Thanks to the UNESCO Associated Schools across Japan, the scope of ESD in school education broadened significantly. The UN Decade of ESD has led to many positive outcomes in ESD in UNESCO Associated Schools.

By implementing ESD in UNESCO Associated Schools, topics such as peace, the environment, biodiversity, energy, human rights, international understanding, multicultural coexistence, disaster risk reduction, cultural heritage and regional studies were considered as entry points to learning. Projects and curricula were developed for identifying and resolving key issues in a hands-on, investigative manner. As well as in individual subject areas, ESD has been implemented by drawing connections between curriculum areas, effectively utilizing the Integrated Study Hours and other school activities.

Through implementing ESD that makes the most of the unique characteristics of a region, the children have gained a deeper understanding of how local communities are formed by people supporting each other. They have learned about the merits of communities and the issues they face. In addition, together with local people, they have considered what to hand down to future generations and what to reform, and they have learned about translating these ideas into action. ESD has also been leading to a shared understanding that the issues faced by local communities are linked to those at national, Asian and global levels and that joint efforts to overcome geographical distances and differences in generation and status enables us to create a sustainable future.

The children now view various local and global issues as their own. They have nurtured a "zest for living" while learning collaboratively, and they have developed an awareness that they are the future leaders of society. It is now realized that experiential learning and scientific investigation, through ESD, foster communication skills and critical thinking. They assist individuals in creating a sustainable future either individually or in collaboration with others.

A transformation occurred in the awareness of teachers guided by the ESD vision. Rather than merely communicating knowledge, teachers adopted an attitude of designing and coordinating child-centered study while learning together with their students. There were instances where this attitude changed the children, and changes in the children brought about changes in their school, which in turn brought about changes in the community. It brought out the inner strength of those children in Japan who were regarded as being indifferent to society and as having low self-esteem. It let them to gain self-confidence. Exchanges between schools led to the realization of an even deeper level of learning.

Moreover, collaboration deepened between schools and boards of education, parents/guardians, local stakeholders, NGOs and NPOs, businesses, universities and specialized institutions, the quality of ESD in practice improved. It also led to confirmation of the joy of trans-generational learning.

The Great East Japan Earthquake of 11 March 2011 wrecked tremendous damage. However, in certain areas, ESD that had been embedded in schools and communities contributed significantly to the disaster recovery, with a great deal of compassionate support being extended to the affected areas through domestic and international networks. Education aimed at creative reconstruction and based on a philosophy of ESD is being conducted for the revitalization and re-creation of local areas.

UNESCO Associated Schools in Japan: Our commitment

We will commit to continuing the promotion of ESD as a driving force for transforming education in Japan.

We will:

- Nurture the next generation who will contribute to their own community and to take actions with global viewpoint for creating a sustainable future.
- Realize education with deeper awareness of interconnectedness in cooperation with members of the community and other stakeholders, no matter what approach to learning or the subject, in order to create a broader commitment to peace and sustainability in local communities, in Japan, in Asia, and in the world. Approaches to learning and subjects include peace, the environment, climate change, biodiversity, international understanding, multicultural coexistence, energy, human rights, gender, disaster risk reduction, cultural heritage, regional studies and sustainable consumption and production.
- Illustrate transformation of students, teachers, schools and communities through ESD to spread the ESD vision, while understanding the essence of ESD.
- Engage in thematic learning and collaborative learning together with UNESCO Associated Schools in Japan and overseas, especially those in neighboring Asian countries. Through such learning we will enhance understanding of, explore solutions and take actions for cross-border global issues such as climate change, biodiversity, disaster risk reduction and sustainable consumption and production.
- Develop a national network, organized voluntarily, with fellow UNESCO Associated Schools in order to learn from each other and to raise the quality of activities. We will promote interaction and collaboration among UNESCO Associated Schools, and then enhance mechanisms for the exchange and use of information.
- Strive to be a practitioner of sustainability in the local community to contribute to the development of sustainable communities together with other schools, non-formal and lifelong learning institutions, NGOs, NPOs, local governments and various other stakeholders, recognizing children and teachers as "agents of change."
- Continue dialogue and cooperation with various stakeholders to link together the five priority action areas in the Global Action Programme (GAP) on ESD, which is a follow-up to the UN Decade of ESD.
- Encourage UNESCO Associated Schools in Japan and those in all the other countries, as

members of a network spanning 181 countries worldwide, to cooperate in building a sustainable future and, in this context, to learn from each other by creating various opportunities for exchange and collaboration.

Proposal from UNESCO Associated Schools in Japan to further promotion of ESD by schools

Based on the outcomes and challenges of UNESCO Associated Schools in their capacity as bases for promoting ESD under the UN Decade of ESD, in order to fully realize our commitment and to steadily extend ESD to schools outside the network of UNESCO Associated Schools and to the wider community, we make the following proposals to all schools, including UNESCO Associated Schools, and to the supporters of those schools.

- Respect the independent initiatives and ideas of teachers and students, and promote ESD across the whole school by developing creative lessons and by developing investigative and interdisciplinary curricula.
- Consider and share ways for monitoring and evaluating ESD outcomes including methods for voluntarily evaluating children's development and quality of learning through ESD.
- Build policies and systems that provide sustained support for ESD at each school, and arrange the foundation for the school principals to exercise their leadership while respecting the characteristics of ESD.
- Expand the in-service training programmes for teachers and others involved in education to deepen their understanding of sustainability from a local/global perspective while making the best use of their expertise.
- Create mechanisms in the community whereby various stakeholders can participate, cooperate and collaborate in the development of a sustainable society.

All children possess unlimited potential. Around the world teachers share an aspiration to provide quality education so that their potential can be realized. While sharing the same aspiration of parents/guardians and others in the community who nurture these children, we will promote ESD in order to create a peaceful and sustainable future.

8 November 2014

Adopted by participants at the 6th Japan's National UNESCO ASPnet Conference (Okayama, Japan) during the UNESCO ASPnet International ESD Events in conjunction of the UNESCO World Conference on ESD

(Provisional translation: Original Japanese)

ESD推進のためのユネスコスクール宣言
（ユネスコスクール岡山宣言）

私たちにとってのESD

私と、あなた、学校のみんな、地域のみんな、世界のみんなへとつながっていく。
だから、私は、見えないあなたと励まし合い、支え合える存在であるという尊さに気づき、
何か行動したくなる。
教室から校庭へ、校庭から地域へ、地域から私の国へ、私の国からあなたの国へ、
そして世界へ、地球へ、私の世界は広がっていく。
だから、私は、どこの場所にもかけがえのない宝が息づいていることに気づき、
何か行動したくなる。
今と、過去とのつながり、明日とのつながり、遠い未来とのつながり。
今の私は過去や未来とつながっていく。
だから、私は、この大きな時間の流れのなかで、たいせつな責任を負っていることに気づき、
何か行動したくなる。

（児童の変容を児童の視点から叙述したユネスコスクール教員による「詩」にもとづく）

ESD のビジョンを取り入れることで、子どもたちの学びのなかに、さまざまなつながりが生まれます。他者、世界の多様性、いのちある地球、自然、科学・技術、文化、過去および未来などと自己とのつながりです。こうしたつながりのなかで、学びは深まり、子どもたちの心のなかに生き続け、持続可能な未来を創造する力となります。その力は行動と協働を呼びおこす力です。そして、問い続け学び続ける力です。

日本のユネスコスクールによる「国連ESDの10年」の成果

日本におけるユネスコスクールは、1953 年に、ユネスコが世界の学校でその理念を実現する事業を開始した当初から日本の学校が参加して、今にいたります。日本では、学習指導要領や教育振興基本計画などに持続可能な社会の構築や ESD 推進の観点が盛り込まれています。日本ユネスコ国内委員会「ESD の普及促進のためのユネスコ・スクール活用について（提言）」（2008 年2月）によって、ユネスコスクールは、ESD推進の拠点として位置づけられました。ESDのビジョンと、ユネスコスクールの目的に共感した教師と学校を支援する人々や組織によって、ユネスコスクールは飛躍的に仲間を増やし、現在国内 807 校を数えます。全国のユネスコスクールによって、学校教育における ESD の裾野は大きくひろがりました。「国連 ESD の 10 年」を通して、ユネスコスクールでの ESD には、多くの成果が見られるようになりました。

各ユネスコスクールの ESD 実践では、平和、環境、生物多様性、エネルギー、人権、国際理解、多文化共生、防災、文化遺産、地域学習などを入り口として、取り組むべき課題を、体験的・探究的に発見し解決していくためのプロジェクトやカリキュラムが開発されました。各教科のなかだけでなく、総合的な学習の時間等を有効に活用しそれらを関連づけながら、ESD は実践されてきました。

地域の特徴を活かした ESD 実践を通じて、子どもたちは、地域社会が人と人とが支えあって成り立っていることを深く理解し、地域の良さと抱える課題を知り、未来に伝えるべきこと、あるいは変革すべきことを地域の人々

とともに考え、行動に移すことを学んできました。さらに、地域社会が抱える課題と、国やアジア、世界の課題とはつながっており、地理的な隔たり、世代や立場の違いを超えて協働することで持続可能な未来をつくることができるという認識が共有されつつあります。

子どもたちは、地域社会や世界のさまざまな課題を自らの問題ととらえ、協働的に学ぶなかで「生きる力」を育み、未来社会の担い手であるという意識をもつことができました。ESDによる体験を伴う理解と科学的な考察は、批判的な思考力と判断力、コミュニケーション能力を鍛え、自ら、また協働して、持続可能な未来をつくるための行動に役立つことが理解されました。

ESDのビジョンに導かれた教師の意識に変容が生まれました。知識を伝達するばかりではなく子どもとともに学びながら、子ども中心の学びをデザインし、コーディネートする教師の姿勢は子どもたちを変え、子どもたちが変われば学校が、学校が変われば地域が変わるという実例が見られるようになりました。社会に対する無関心、自己肯定感の低さが問題とされる日本の子どもたちの内なる力を発揮させ、自信の獲得につながりました。そして、学校間の交流によって、より深い学びが実現してきました。

さらに、学校と教育委員会、保護者や地域の人々、NGO/NPO、企業、大学、専門機関とのあいだに連携が深まり、ESD実践の質を高めてきました。また、世代を超えて学ぶことの喜びを確認することにつながりました。

2011年3月11日に起こった東日本大震災は甚大な被害をもたらしました。しかしESDが根づいていた学校や地域では、そのことが被災からの立ち直りに大きく貢献し、国内外のネットワークを通じて被災地に多くのあたたかい支援の手が差しのべられました。地域の再生と創造にむけてESDを基本理念とした創造的な復興にむけた教育が行われつつあります。

日本のユネスコスクール：私たちのコミットメント（誓い）

私たちは、日本の教育を変えていく原動力としてESDをこれからも進めていきます。

- 私たちは、持続可能な未来のために、身近な地域に貢献するとともに、グローバルな視点に立って行動する次世代を育みます。
- 私たちは、平和、環境、気候変動、生物多様性、国際理解、多文化共生、エネルギー、人権、ジェンダー、防災、文化遺産、地域学習、持続可能な生産と消費等、学びの入り口やテーマが何であれその先に地域、国、アジア、世界の平和と持続可能性を見据えて、地域の人々をはじめ多くの人たちと協働しながら、つながりを意識した教育を実現します。
- 私たちは、ESDの本質を理解するとともに、ESDの魅力を広く社会に伝えるため、児童生徒の変容、教師の変容、学校・地域の変容を明確に示します。
- 私たちは、気候変動、生物多様性、防災、持続可能な生産と消費など、国境を越えたグローバルな課題について理解し、解決方法をさぐり、解決に向けてともに取り組んでいく国内外のユネスコスクール、特に近隣のアジア諸国のユネスコスクールとのテーマ学習・協働学習に取り組みます。
- 私たちは、互いに学びあい、活動の質を高めていくために自発的に組織されるユネスコスクール同士の全国ネットワークをつくります。そして、ユネスコスクール間の交流や協働を推進し情報交換・活用の仕組みを充実させます。

- 私たちは「変化の担い手」として子どもと教師を捉え、地域社会における持続可能性の実践者となるように努め、他の学校、社会教育・生涯学習機関、NGO／NPO、自治体など多様な主体とともに、持続可能な地域づくりに貢献します。
- 私たちは、さまざまな主体との対話と連携を通して、「国連 ESD の 10 年」の後継プログラムである「ESD に関するグローバルアクションプログラム（GAP）」の5つの優先行動分野をつないでいきます。
- 私たちは、世界 181 の国にひろがるネットワークの一員として、ESD に取り組み、持続可能な未来をともに築いていくことを、そしてそのために、さまざまな交流と連携の機会をつくって学びあうことを、日本と世界のユネスコスクールに対して呼びかけます。

学校によるさらなる ESD 推進：ユネスコスクールからの提案

ESD の推進拠点としてのユネスコスクールの経験、成果と課題にもとづき、私たちのコミットメントをより良く実現するために、また、ESD をユネスコスクール以外の学校へ、地域へと持続的にひろげていくために、ユネスコスクールとすべての学校、その支援者に向けて、以下を提案します。

- 教師や子どもたちの主体的な発意やアイデアを尊重し、創造的な授業づくり、教科横断的で探究的な教育課程づくりによって学校全体で ESD をすすめる。
- ESD を通した子どもたちの学びの質や育ちを内発的に評価する方法など、ESD の成果をモニタリング・評価するための方法を検討し、共有する。
- 各学校のESDを持続的に支える政策や制度をつくり、また校長のリーダーシップがESDの特徴をいかした形で発揮できる基盤を整備する。
- 教師や教育関係者が自らの専門性を生かしながらローカル／グローバルな視野で持続可能性についての認識を深めるための研修制度を拡充させていく。
- 地域において、学校を含む多様な主体が持続可能な社会づくりに参加し連携・協働できる仕組みをつくる。

子どもたちはどの子も無限の可能性を秘めています。その可能性を輝かせることができるよう質の高い教育を行っていくことは、世界中すべての教師に共通する願いです。さらに子どもたちを見守る保護者や地域の人々の願いを共有し、平和で持続可能な未来をつくるために、ESD をともに推進していきましょう。

2014 年 11 月 8 日

ユネスコスクール世界大会−第6回ユネスコスクール全国大会（岡山市）−参加者により採択

United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization

Education for Sustainable Development 2014
World Conference, Aichi-Nagoya, 10-12 November
Stakeholder Meetings, Okayama, 4-8 November

UNESCO World Conference on Education for Sustainable Development
Stakeholder Meeting

UNESCO ESD YOUTH CONFERENCE

7 November 2014 • Okayama, Japan

YOUTH STATEMENT

This Youth Statement was adopted at the UNESCO ESD Youth Conference held in Okayama, Japan, on 7 November 2014, to provide a vision, commitment, and recommendations from youth for advancing ESD beyond 2014 in line with the Global Action Programme on ESD. It represents the voices of 50 ESD youth leaders in the conference, who in turn represent thousands of young people around the globe, and also includes contributions from over a hundred youth who participated in pre-conference online discussions.

Vision for a Sustainable Future

We invite you to take a moment as you read this statement to hold in your heart your loved ones: your children, their children and those that will follow. Imagine – as we have – how the decisions that we make today will impact each and every one of them. Reflect – as we have – on the importance and value of this youth statement to their lives, as well as to ours.

Our statement captures the voices and visions of thousands of youth from around the world who are strongly represented and have widely contributed to this global call – from the experiences of an environmental educator in Madagascar, to the creative approaches of a biomimic in Bahrain; from empowering indigenous youth in Thailand to innovating with gaming platforms in Moldova. Our journeys are different, yet our destination is the same. We come from different backgrounds – a rich diversity of race, colour, religion and belief – yet our vision is one. Our voices are united.

Together, we stand for a sustainable, resilient and equitable society in which every person in every corner of the world has the opportunity to thrive. We strongly believe that Education for Sustainable Development (ESD) is fundamental to achieving this vision. ESD provides the empowering mechanism through which we can transform the critical sustainability challenges that we face into opportunities. It must be the essence of education. Without ESD we cannot move forward.

Young people play a vital role in advancing the ESD agenda. The implications of our collective decisions and actions will shape our reality and our future. We are committed to lead, yet we cannot do this alone, and neither can you. **Together, we must empower and mobilize youth around the globe!** This document presents our strategic recommendations to achieve this, building on the UNESCO Global Action Programme on Education for Sustainable Development.

We urgently call for a multi-stakeholder commitment to and collaboration on these recommendations. We acknowledge and celebrate the existing efforts of the frontrunners who have led us this far. For many of us, the journey has already begun. For those just starting, we invite you to come with us.

Recommendations

1. POLICY ADVANCEMENT

a) **Ensure the active involvement of youth in policy planning, implementation and evaluation.** Youth should be recognized as a key stakeholder at all levels, domains and stages of educational governance. Through this, youth will be able to shape policies to strengthen ESD.

b) **Ensure that policies drive ESD with the urgency it requires and in a holistic, just and gender responsive way.** Policies should address the multiple dimensions of sustainable development and drive immediate action to realize sustainable development in the here and now.

c) **All relevant stakeholders should allocate resources to empower youth as change agents for ESD.** Governments, civil society organizations, youth councils, communities and businesses should allocate financial, technical and human resources to enable the implementation of ESD policies and the recommendations of this declaration.

2. *WHOLE-INSTITUTION APPROACHES*

a) **Educational institutions and governments should provide the institutional support, resources and legitimacy for youth-led change processes towards sustainability.** This requires a combination of bottom-up initiatives and top-down steering. Mechanisms should include dedicated funding, institutional integration, working space, mandates, recognition, and training for youth-led sustainability initiatives.

b) **Enhance collective action among sustainability initiatives.** Educational institutions should support the joint efforts of pupils, students, staff and the local community. This requires the development of common visions and identities, places of encounter, projects and programmes which are shared among all stakeholders.

c) **Recognize youth as equal partners to accelerate the operational transformation of educational institutions towards sustainability.** Educational institutions should practice what they teach, by generating positive environmental impacts. In collaboration with staff, youth should become change agents and decision-makers in environmental management, including issues of energy, food, water, waste, buildings and biodiversity on campus.

3. *EDUCATORS AND TRAINERS*

a) **Recognize that all citizens have the potential and responsibility to act as facilitators for ESD.** To educate billions of people on sustainability challenges and opportunities, the mobilization of educators and trainers needs to reach beyond those in traditional educational institutions. Youth, professionals, practitioners and citizens across all levels and sectors need to be mobilized as ESD educators and trainers.

b) **Build capacities of youth as trainers and peer-to-peer educators for ESD.** Youth should be empowered to educate a critical mass of peers, parents, friends and communities on ESD. This requires special support and attention from professional trainers and educational institutions.

c) **Enhance the capacity of existing educators and trainers to empower youth to engage on ESD issues.** Teachers, educators and trainers need to learn about the new methods, technologies and approaches of ESD-based education. This requires supportive mechanisms such as online trainings and forums, toolkits, funds, peer-to-peer learning and support networks.

4. *INNOVATIVE LEARNING FOR YOUTH*

a) **Educational institutions and governments should encourage and support youth and educators to experiment with innovative learning approaches.** ESD is different from traditional education. It thus requires experimentation with alternative technologies as well as creative and experiential methods to break through conventional mindsets and find the best ways to educate youth.

b) **Monitor and evaluate these learning approaches to determine their effectiveness and efficiency in promoting ESD.** Educational institutions, governments and educators need to develop indicators, frameworks and processes to evaluate the diversity of experiments with ESD in order to identify what works in different institutional and geographic settings.

c) **Scale the impact of successful learning approaches to different geographic and institutional contexts.** Successful learning approaches need to be de-contextualised and codified, in order to be then replicated across geographic locations, increased in scale and integrated into mainstream

policies. Dedicated funding, recognition, high-level backing and leadership are key to realizing all three of the above recommendations.

5. LOCAL COMMUNITIES

a) **Respect the voices of youth in community-driven ESD initiatives.** International agencies, governments and civil society organizations should respect the voices of youth when implementing ESD initiatives in communities. This requires that youth are involved in the identification, design and implementation of ESD-related community problems and solutions.

b) **Support youth-led ESD initiatives in local communities.** ESD forms a strong foundation for the economic growth of local communities and the protection of ecosystems. Realizing this potential requires training, mentoring and sponsorship of youth-led ESD initiatives, supported by educational institutions, companies, civil society organizations and governments.

c) **Encourage youth to engage with and learn through real-life situations.** Local communities should be positively impacted by ESD and provide a source of learning and inspiration. This requires promoting social service-learning, transdisciplinary education and research, living laboratories, learning centers and online education.

6. SUSTAINABILITY CHALLENGES AND OPPORTUNITIES

a) **Enable all youth to understand and critically appreciate the complexities and uncertainties of sustainability challenges and opportunities.** In order to undertake effective action on ESD, young people need to understand the interconnected socio-cultural, economic and technological systems and trends that create persistent sustainability problems.

b) **Empower youth to develop visions of more sustainable futures.** Through dialogue and facilitated interactions, young learners need to be supported in developing daring, radical and challenging visions of a more sustainable world. Those visions then provide the inspiration and rationales for youth-led sustainability efforts.

c) **Equip students with the competencies to transform their personal lives, educational institutions, communities and countries.** To realize their sustainability visions, youth need to be equipped with the necessary knowledge, skills and values for transforming themselves and the unsustainable systems in their society. Encouragement, feedback and recognition from educators, peers and educational institutions are necessary to strengthen their confidence and motivation along the journey.

7. WOMEN AND MARGINALIZED GROUPS

a) **Ensure that educational curricula and policies drive ESD in a way that enhances the equality and equity of socially marginalized groups.** Socially marginalized groups are vulnerable and difficult to reach through ESD activities, as they are discriminated against for reasons of gender, age, ability, colour, religion, income, geographic origin and sexual orientation, among others.

b) **Recognize the values, experiences and perspectives of youth from marginalized social groups for ESD.** Youth from marginalized social groups can provide unique, relevant and interesting values, experiences and perspectives to the education of mainstream and privileged students. Sharing those requires intercultural, interfaith and intergenerational dialogue to create mutual understanding and acceptance.

c) **Create safe and accessible learning spaces for youth from marginalized social groups.** Specific conditions need to be put in place for empowering youth from marginalized social groups to participate in ESD activities. This requires, among others, deconstructing stereotypes and providing financial support and facilitated encounters.

8. SOCIAL ENTREPRENEURSHIP

a) **Recognize the importance of social entrepreneurship to contribute to the goals of ESD.** Governments and educational institutions should recognize that social entrepreneurship enables young people to learn about ESD in an informal setting, to create jobs, set up their own ESD activities, and have positive impacts on their local communities.
b) **Create favourable policy and funding conditions for new social start-ups.** In order to realize the potential of social entrepreneurship to contribute to ESD, governments and financial institutions need to provide subsidies, tax allowances, scholarships, guidance and mentoring schemes to support young entrepreneurs.
c) **Develop the capacity of youth to set up and manage their social enterprises.** Educational institutions, businesses and civil society organizations should foster the entrepreneurial knowledge, awareness and skills of youth. This requires dedicated courses, peer-to-peer coaching, mentoring, start-up funding and office space, among others.

Youth Empowering and Mobilizing Youth

Across the globe, youth are increasingly mobilizing themselves and taking leadership roles to advance their communities and countries towards sustainability. In this process, young people recognize that creating a sustainable future will require a collective vision, commitment and action from youth around the world. Therefore, youth-to-youth empowerment and mobilization present a unique opportunity for harnessing the knowledge, energy and creativity of young people to advance ESD.

Young leaders on ESD can be inspirational role models for encouraging other youth who share similar concerns in their local contexts. This can be achieved through peer mentoring, sharing of knowledge and skills, and fostering open and safe platforms for expression and action in their communities and beyond.

A critical element of successfully mobilizing youth is building trust and reducing conflict. Stimulating international and intercultural dialogue amongst youth fosters friendship, exchanges, understanding and cooperation among cultures, generations and people with different worldviews. Youth recognition of diversity as an opportunity contributes to advancing ESD at local, national and global levels.

Youth-to-youth empowerment initiatives have the potential to be bold and creative in the way they tell stories and mobilize others. It is here that other stakeholders can harness and partner with the creativity, passion and dedication of young people. In this way, youth-to-youth initiatives can continue growing, spreading the message and creating more impact.

We, the youth of the world, commit to taking responsibility for empowering and mobilizing young people. We are dedicated to using this collective driving force to maximize positive impact on our society and environment. With this role as change makers, we are ready to do our part in transforming today's world for a more sustainable future.

仮　訳

United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization

Education for Sustainable Development 2014
World Conference, Aichi-Nagoya, 10-12 November
Stakeholder Meetings, Okayama, 4-8 November

UNESCO World Conference on Education for Sustainable Development
Stakeholder Meeting

UNESCO ESD YOUTH CONFERENCE

7 November 2014 • Okayama, Japan

ユース・ステートメント

このユース・ステートメントは2014年11月7日に日本、岡山市にて開催されたユネスコESDユース・コンファレンスにて、ESDに関するグローバル・アクション・プログラム（GAP）の趣旨に沿う形で2014年以降ESDを加速するため、ユースからのビジョン、コミットメントそして提言をまとめ採択されたものである。
本ステートメントは、世界中の何千もの若者たちを代表してこの会議に出席した50人のユース代表の声を反映しているだけでなく、会議前に行われたオンライン・ディスカッションを通じて集められた100名以上のユースの声も反映されている。

持続可能な未来に向けたビジョン

このステートメントを読むにあたって、まず心の中にあなたが愛している人、例えばあなたの子どもやその子ども、そしてその後に続く子どもたちのことを思い浮かべていただきたい。そして想像して欲しい–今日の私たちの決意が、周りの一人ひとりにどれだけのインパクトを与えるのかということを。そして、さらに考えてみてほしい–このユース・ステートメントが彼らの、そして私たちの生命にとってもつ重要性や価値を。

私たちのステートメントは、広くこの世界的な呼びかけに応えてくれた世界中の何千ものユースの声やビジョンから生まれた力強いものである。例えば、マダガスカルの環境教育者の経験や、バーレーンで行われている創造的なバイオミミクリーのアプローチ、タイの先住民の若者の支援や、モルドバでの先進的なゲームを用いたプラットフォームなど、様々な活動に取り組む若者の声を反映している。私たちのこれまでの道のりは様々ではあるが、目指しているものは一緒であると感じている。私たちは異なる背景をもち、国籍も肌の色も、宗教も信条も多様ではあるが、私たちのビジョンは一つであり、私たちの声はこの一つのステートメントにまとめられた。

私たちは共に、持続可能で、強靭かつ平等な社会、一人ひとりが自らの目標に向かい進んでいける機会のある世界の実現に向け立ち上がる。私たちは、持続可能な開発のための教育（ESD）がこのビジョンを実現するために根源的なものであると強く確信している。ESD は社会に活力を生み出す方法であり、私たちの直面する深刻な持続可能性に関する課題を機会に変えていくものであると信じている。ESD は教育に欠かすことのできない要素であり、ESD なしでは前進できないのである。

若者たちは、ESD のアジェンダを前に進めていく上で欠かせない役割を果たす。私たちの決意と行動が、私たちの現実や未来を形作っていくことになるのである。私たちはこれをリーダーとして進めていく強い意志を持っているが、私たちだけでも、またあなたたちだけでも、実現することはできない。**私たちは共に手を取り合い、地球上の若者たちを支援し、動員していく必要があるのだ！** このステートメントは、そのための提言を、ユネスコの提唱する ESD に関するグローバル・アクション・プログラムの趣旨に沿う形でまとめ、提案するものである。

私たちは、ここまで私たちを導いてくださった先駆者の方々の取り組みと努力に対し感謝の意を表すると共に、一刻も早くこれらの提言に対して広範かつ多様なステークホルダーが協力し、共に動き出してくれることを求める。私たちの多くにとっては、この道のりは始まったばかりであり、今まさに始めようとしている方々にも共に歩いてほしいと望むのである。

提言

1. 政策的支援

a) **政策の立案、実行、および評価におけるユースの積極的な関与を確実なものとしていくこと。**ユースは教育におけるどの分野、段階においても重要なステークホルダーとして認識されるべきである。それによりユースは ESD の強化に向けた政策の形成に貢献できるようになる。

b) **ESD に関する政策に早急に取り組み、包括的かつ公平で、性別にも配慮したものとすること。**政策は、持続可能な開発に関する多面的要素を考慮したものであり、かつ今ここで持続可能な開発を実現すべく即座の行動を促すべきである。

c) **関係するあらゆるステークホルダーは、ESD のための変革推進者であるユースの強化のために資源を割くこと。**政府、市民団体、青年団体やコミュニティおよび企業は、この宣言にある提言と ESD に関する政策の実行のために、金銭、技術および人材などの資源を提供するべきである。

2. 機関包括型アプローチ

a) **教育機関や政府は、持続可能性に向けての若者たち主導のプロセスに対して施設支援、資源の提供、そして活動への正当性を与えること。**これについては下からの自主性と上からの指揮の両面が必要である。仕組みとしては、ユース主導の活動に対し、資金の支援、制度的統合、働くスペース、権限および正当な評価、そして必要な訓練の提供が含まれる。

b) **持続可能性に向けた取り組みの協働を加速させること。**教育機関は、生徒、学生、職員、地域コミュニティなどが一緒に取り組むことに対して支援するべきである。そのためにも関係者内で共有されるビジョンやアイデンティティ、出会いの場やプロジェクトが必要となる。

c) **ユースを対等なパートナーとして認め、教育機関の運営をより持続可能性を考慮したものへと変化させること。**教育機関は教えていることを実践し、より環境に配慮した形にすべきである。ユースは、職員と協働し、キャンパスにおけるエネルギーや食料、水、ゴミ、建物、生物多様性などの問題を含む環境問題について意思決定を行い、変革推進者となるべきである。

3. 教育者・トレーナー

a) **全ての市民がESDのためのファシリテーターとなり行動する可能性と責任を持っていると認識すること。**何十億といる人々に対して持続可能性に関する課題と機会について教えるためには、これまでの伝統的な教育機関の枠を超えた人々を教育者や指導者として巻き込む必要がある。ユース、専門家、実践者、そしてあらゆる階層・分野の市民をESDを広める教育者または指導者として動員するべきである。

b) **ESDのトレーナーや同世代の教育者としてのユースの能力を高めること。**ユースは同世代の仲間、両親、友人、そして地域の多くの人々にESDを広められるよう、力をつけるべきである。これには指導専門家および教育機関からの特別な配慮と支援が必要である。

c) **ESDが扱う課題にユースが関心を持つよう、現役の教育者や指導者の能力を高めること。**教師、教育者および指導者は、ESDに関する教育の新しい手法、技術およびアプローチを学ぶ必要がある。これにはオンラインを通じたトレーニングや、フォーラムの開催、ツールの開発や補助金に加え、仲間同士で学べる環境やそのための支援ネットワークなどが必要である。

4. ユースのための革新的な学び

a) **教育機関と政府はユースや教育者が革新的な学びのアプローチを試みることを支援し、促進すること。**ESDは従来の教育とは異なるものである。従ってこれまでとは異なる技術を用いた試みや、創造的かつ実験的な手法が必要である。それにより型にはまった考え方を破り、ユースを教育するための最善の道を見つけることができる。

b) **ESDを推進するにあたり、学習プロセスの効果と効率性を測るためにモニタリングと評価を行うこと。**教育機関、政府、そして教育者は異なる組織や地理的特徴において何がもっとも有効かを特定するためにESDの多様な試みを評価するための指標、枠組み、そしてプロセスを開発するべきである。

c) **効果的な学習法のインパクトを他の地域や組織にも拡大していくこと。**効果的な学習法は、地理的環境を越え普及させ、規模を拡大し、主流となる政策に反映するためにも特定の状況に限定するのではなく、体系化する必要がある。専用の補助金やその価値が正しく評価されること、またハイレベルな支援やリーダーシップが以上３つの提言の実現に向けた鍵となる。

5. 地域コミュニティ

a) **コミュニティ主導型のESDの取り組みにおいてユースの声を尊重すること。**国際機関、政府、市民団体はコミュニティにおいてESD活動を推進する際にユースの声に耳を傾けるべきである。このために、ユースはESDに関連するコミュニティの問題とその解決策の特定、デザイン、実行に関わる必要がある。

b) **地域コミュニティにおける若者主導のESDの取り組みを支援すること。**ESDは地域コミュニティにおける経済的成長と生態系の保護のための重要な基盤を作るものである。この潜在力を生かすためには、ユース主導のESDの取り組みに対して、教育機関、企業、市民団体や政府などからの指導と助言、そして資金援助が必要である。

c) **ユースが現実の状況に関わり、そこから学ぶことを促進すること。**地域コミュニティはESDによってプラスの影響を受けるはずであり、学びやインスピレーションを与える場となるべきである。そのためにも社会奉仕の学習や学際的な教育や研究、リビングラボやラーニングセンター、オンライン教育などを推進していく必要がある。

6. 持続可能性に関する課題と機会

a) **全てのユースが持続可能性に関する課題の複雑さと不確実性、そしてとそれに伴う機会について批判力をもって理解すること。**ESDに関して効果的な行動を起こしていくためには、若者たちは持続可能性に関わる問題の要因となっている、複雑に絡み合った社会文化的、経済的、技術的システムと世界の動向について理解する必要がある。

b) **ユースが、より持続可能な未来のビジョンを作れるように支援すること。**対話と交流を促すことで、若い学び手がより持続可能な世界に向けて斬新かつ、急進的、挑戦的なビジョンを描けるよう支援する必要がある。これらのビジョンはユースが主体的に持続可能性に取り組むための刺激と論理的根拠を与えるものとなる。

c) **学生たちに自らの生活や学校、地域や国を変革していく能力を身につけさせること。**持続可能性へのビジョンを実現するには、ユースは自分自身や社会の持続不可能なシステムを変革するために必要な知識、スキル、そして価値観を身につける必要がある。教育者や仲間たち、そして教育機関からの支援、フィードバック、そして正当な評価は、この道のりにおいて、自信とやる気を持ち進むために必要不可欠である。

7. 女性や社会的に不利な立場に置かれている人々

a) **ESDを推進する教育カリキュラムおよび政策を、社会的に不利な立場に置かれている人々の平等と公平の充実に向けたものとすること。**社会的に不利な立場に置かれている人々は社会的に弱く、性別や年齢、能力、肌の色、宗教、収入、地理的出身地や性的指向といった様々な理由によって差別を受けているため、ESDの活動においても手が届きにくい。

b) **ESDにおいて、社会的に不利な立場に置かれているグループに属するユースの価値観や経験、見方を認識すること。**社会的に不利な立場に置かれているグループに属するユースは、主流となっている教育や恵まれた学生たちにとって、ユニークで意義深い価値観や経験、ものの見方を提供してくれる場合がある。それらを共有するためには、異なる文化、宗教、世代間の対話を通じた相互理解と受容が必要である。

c) **社会的に不利な立場に置かれているグループに属するユースが安全かつ安心して学べる身近な場を作ること。**社会的に不利な立場に置かれているグループに属するのユースがESD活動に参加し、活発に行動するようになるには、いくつかの特殊な条件を満たす必要がある。そのためには、ステレオタイプのイメージを払拭し、経済的支援をすると共に、交流を演出することなどが必要である。

8. ソーシャル・アントレプレナーシップ（社会起業）

a) **ESD の目的に資するソーシャル・アントレプレナーシップの重要性を認識すること。**社会起業は、仕事を創出するほか、若者が ESD を学校以外の環境で学んだり、または自身の ESD 活動をはじめたり、地域コミュニティに良い効果をもたらすことを可能にするものであり、政府や教育機関は、それに気づくべきである。

b) **新しい社会起業の助けとなる政策や補助金を創設すること。**社会起業を通した ESD の促進のために、政府や金融機関は補助金や税金の控除、奨学金や指導・助言の仕組みといった、若い起業家を支援する仕組みを作る必要がある。

c) **社会的企業を立ち上げ、経営していくために必要なユースの能力を育てること。**教育機関や企業、そして市民団体は若い起業家に必要な知識、意識そしてスキルを提供する必要がある。そのためには専門のコースの開設や、仲間同士のコーチング、メンタリング、起業時助成金やオフィスの提供を始めとする様々な支援が必要となる。

ユースがユースを支援し、動員していくために

世界各地で、ユースが彼らの住む地域や国の持続可能性の推進に対してリーダーシップを発揮し、仲間を動員する姿が増え始めている。このプロセスにおいて、若者たちは、持続可能な未来を創るためには、世界中のユースが手に手を取り合い共にビジョンを創り、決意を示し、行動することが必要であると気づき始めている。従って、ユースがユースを支援し動員することは、若者たちの知識、エネルギー、創造性を ESD の推進に活かす、またとない機会を提供しているのである。

ESD の若きリーダーたちは、同様の地域課題を抱え活動している他のユースにとって勇気を与える素晴らしいロールモデルになりえる。そしてこれは、仲間同士の助言や知識やスキルの共有、そして自己表現や実践のためのオープンかつ安全なプラットフォームの創設によって可能となる。

ユースの動員を成功させるために重要な要素となるのは、いかに信頼を築き、対立を減らすかということである。国際的な異文化間の対話をユースの間で奨励することにより、友情関係を育み、交流が生まれ、文化や世代、世界観の違いを超えて相互理解や協力体制を育むことができる。ユースが多様性を機会として捉えることこそ、地域レベル、国家レベル、そして地球レベルにおける ESD の推進につながるのである。

ユース同士のエンパワメントの活動は、彼らが彼ら自身の物語を伝え、周りを巻き込んでいくことで、大胆かつ創造的なものになる可能性を秘めている。そしてこのような活動においてこそ、他のステークホルダーはパートナーとして、若者たちの創造性、熱意、ひたむきさを活かしてほしい。そうすれば、ユースによるユースのための取り組みは成長を続け、メッセージを広め、より大きなインパクトを生むことができるであろう。

私たち、世界のユースは、同世代の若者たちを支援し、巻き込んでいくことに対して責任を持って取り組んでいく。私たちの社会と環境に対して最大限に良いインパクトを生み出すために、若者たちの推進力を活用すべく全力を尽くす。そして、変革者として、今日の世界をより持続可能な未来へと変えていくために、自分たちの役割を果たしていく所存である。

United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization

Education for Sustainable Development 2014
World Conference, Aichi-Nagoya (Japan), 10-12 November
Stakeholder Meetings, Okayama (Japan), 4-8 November

Aichi-Nagoya Declaration on Education for Sustainable Development

We, the participants of the UNESCO World Conference on Education for Sustainable Development held in Aichi-Nagoya, Japan, from 10 to 12 November 2014, adopt this Declaration and call for urgent action to further strengthen and scale up Education for Sustainable Development (ESD), in order to enable current generations to meet their needs while allowing future generations to meet their own, with a balanced and integrated approach regarding the economic, social and environmental dimensions of sustainable development. This Declaration recognises that people are at the centre of sustainable development and builds on the achievements of the United Nations (UN) Decade of ESD (2005-2014); the deliberations of the UNESCO World Conference on ESD in Aichi-Nagoya; and the Stakeholder Meetings held in Okayama, Japan, from 4 to 8 November 2014, namely, UNESCO ASPnet International ESD events, the UNESCO ESD Youth Conference, the Global Regional Centres of Expertise Conference, and other relevant events and consultation processes, including regional ministerial meetings. We express our sincere gratitude to the Government of Japan for hosting the UNESCO World Conference on ESD.

1. **CELEBRATING** the significant achievements made by the UN Decade of ESD (2005-2014), in particular, in putting ESD higher on national and international agendas, advancing policy, improving the conceptual understanding of ESD, and generating substantive good practice amongst a wide range of stakeholders,

2. **EXPRESSING** our appreciation to many governments, UN entities, non-governmental organizations, all types of educational institutions and setups, educators and learners in schools, communities and workplaces, youth, the scientific community, academia and other stakeholders who have actively committed to and participated in the implementation of the UN Decade of ESD, and to UNESCO for the leadership role it has played as lead agency of the Decade,

3. **RECALLING** the international commitment to further promoting ESD that was included in the outcome document of the 2012 UN Conference on Sustainable Development (Rio+20), *The Future We Want,*

4. **NOTING** that the Global Action Programme (GAP) on ESD, endorsed by the 37th session of the General Conference of UNESCO as a follow up to the Decade of ESD and a concrete contribution to the post-2015 agenda, aims at generating and scaling up ESD actions in all levels and areas of education, training and learning,

5. **REAFFIRMING** ESD as a vital means of implementation for sustainable development, as recognised in intergovernmental agreements on climate change (Article 6 of the UN Framework Convention on Climate Change and its Doha work programme), biodiversity (Article 13 of the Convention on Biological Diversity and its work programmes and related decisions), disaster risk reduction (Hyogo Framework for Action 2005-2015), sustainable consumption and production (Sustainable Lifestyles and Education Programme of the 10-Year Framework of Programmes on Sustainable Consumption and Production 2012-2021), and children's rights (Articles 24[2], 28 and 29 of the UN Convention on the Rights of the Child), among many others,

6. **WELCOMING** the growing international recognition of ESD as an integral and transformative element of inclusive quality education and lifelong learning and an enabler for sustainable development, as demonstrated by the inclusion of ESD as a target in the Muscat Agreement adopted at the 2014 Global Education For All Meeting and in the proposal for Sustainable Development Goals (SDGs) by the Open Working Group of the UN General Assembly on SDGs,

7. **RECOGNISING** the establishment of the UNESCO-Japan Prize on ESD approved by the Executive Board of UNESCO at its 195th session,

We, the participants,

8. **EMPHASISE** the potential of ESD to empower learners to transform themselves and the society they live in by developing knowledge, skills, attitudes, competences and values required for addressing global citizenship and local contextual challenges of the present and the future, such as critical and systemic thinking, analytical problem-solving, creativity, working collaboratively and making decisions in the face of uncertainty, and understanding of the interconnectedness of global challenges and responsibilities emanating from such awareness,

9. **STRESS** that ESD is an opportunity and a responsibility that should engage both developed and developing countries in intensifying efforts for poverty eradication, reduction of inequalities, environmental protection and economic growth, with a view to promoting equitable, more sustainable economies and societies benefiting all countries, especially those most vulnerable such as Small Island Developing States and Least Developed Countries,

10. **UNDERSCORE** that the implementation of ESD should fully take into consideration local, national, regional and global contexts, as well as the contribution of culture to sustainable development and the need for respecting peace, non-violence, cultural diversity, local and traditional knowledge and indigenous wisdom and practices, and universal principles such as human rights, gender equality, democracy, and social justice,

11. **APPRECIATE** the commitments to ESD expressed by all concerned stakeholders through their specific contributions to the GAP Launch Commitments,

12. **COMMIT** ourselves to building and maintaining the momentum of the launching of the GAP, in its five Priority Action Areas for ESD, namely policy support, whole-institution approaches, educators, youth, and local communities, through inclusive quality education and lifelong learning via formal, non-formal and informal settings,

13. **CALL UPON** all concerned stakeholders, including governments and their affiliated institutions and networks, civil society organisations and groups, the private sector, media, the academic and research community, and education and training institutions and centres as well as UN entities, bilateral and multilateral development agencies and other types of intergovernmental organisations at all levels, to: a) set specific goals, b) develop, support and implement activities, c) create platforms for sharing experiences (including ICT-based platforms), and d) strengthen monitoring and evaluation approaches in the five Priority Action Areas of the GAP in a synergistic manner,

14. **URGE** all concerned stakeholders, in particular Ministries of Education and all ministries involved with ESD, higher education institutions and the scientific and other knowledge communities to engage in collaborative and transformative knowledge production, dissemination and utilization, and promotion of innovation across sectoral and disciplinary boundaries at the science-policy-ESD practice interface to enrich decision-making and capacity building for sustainable development with emphasis on involving and respecting youth as key stakeholders,

15. **INVITE** governments of UNESCO Member States to make further efforts to:

a) Review the purposes and values that underpin education, assess the extent to which education policy and curricula are achieving the goals of ESD; reinforce the integration of ESD into education, training, and sustainable development policies, with a special attention paid to system-wide and holistic approaches and multi-stakeholder cooperation and partnerships between actors of the education sector, private sector, civil society and those working in the various areas of sustainable development; and ensure the education, training and professional development of teachers and other educators to successfully integrate ESD into teaching and learning;

b) Allocate and mobilise substantial resources to translate policies into actions, especially building necessary institutional capacities for both formal and non-formal education and learning at national and sub-national levels along the five Priority Actions Areas of the GAP; and

c) Reflect and strengthen ESD in the post-2015 agenda and its follow-up processes, ensuring, first, that ESD is maintained as a target in the education goal and also integrated in SDGs as a cross-cutting theme; and, second, that the outcomes of the 2014 World Conference on ESD are taken into consideration at the World Education Forum 2015 to be held in Incheon, Republic of Korea from 19 to 22 May 2015,

16. **REQUEST** UNESCO's Director-General to continue to:

a) Provide global leadership, support policy synergy, and facilitate communication for ESD, in cooperation with governments, other UN entities, development partners, private sector and civil society, within the framework of the UNESCO Roadmap to Implement the GAP;

b) Harness partnerships and mobilise networks including the UNESCO ASPnet, UNESCO Chairs, Centres under the auspices of UNESCO, the World Network of Biosphere Reserves and World Heritage Sites, as well as UNESCO Clubs and Associations; and

c) Advocate the importance of ensuring adequate resources including funding for ESD.

文部科学省仮訳

あいち・なごや宣言

2014年11月10日から12日、愛知県名古屋市で開催されたＥＳＤに関するユネスコ世界会議の参加者である我々は、持続可能な開発に関する経済、社会、環境分野のバランスの取れた、統合されたアプローチにより、現代の世代が要求を満たしながらも、未来の世代が要求を満たすことができるように、この宣言を採択し、持続可能な開発のための教育（ＥＳＤ）の更なる強化と拡大のための緊急の行動を求める。この宣言は、人々が持続可能な開発の真っただ中にいることを認識するとともに、国連ＥＳＤの10年（2005年-2014年）の成果、つまりＥＳＤに関するユネスコ世界会議及び2014年11月4日から8日に岡山市で開催されたステークホルダーの主たる会合、すなわちユネスコスクール世界大会、ユネスコＥＳＤユース・コンファレンス、持続可能な開発のための教育に関する拠点（ＲＣＥ）の会議、さらに地域の大臣会合を含むその他の関連イベントや協議プロセスの審議に基づく。我々はＥＳＤに関するユネスコ世界会議の開催国である日本政府に心から感謝する。

1. 国連ＥＳＤの10年（2005年-2014年）の多大なる功績、特に国内外のアジェンダにおけるＥＳＤの位置づけを高め、政策を進め、ＥＳＤの概念的理解を深め、幅広いステークホルダーによる実質的な多くの優れた取組を生み出したことを祝し、

2. 国連ＥＳＤの10年の実施に積極的に参加した多くの政府、国連機関、非政府組織、すべての種類の教育機関・教育組織、学校の教育者と学習者、地域と現場、ユース、科学コミュニティ、学術界、その他のステークホルダー、また、10年間の主導機関としての役割を担ってきたユネスコに感謝の意を表し、

3. 2012年の国連持続可能な開発会議（リオ＋20）の成果文書「我々が望む未来」に含まれるＥＳＤの更なる促進のための国際的なコミットメントを想起し、

4. 第37回ユネスコ総会において、国連ＥＳＤの10年のフォローアップとして、またポスト2015年アジェンダへの具体的な貢献として支持されたＥＳＤに関するグローバル・アクション・プログラム（ＧＡＰ）が、教育、訓練、学習の全てのレベル及び分野においてＥＳＤの行動の導入、拡大を目指していることに留意し、

5. 気候変動（気候変動に関する国際連合枠組条約第６条及びドーハ作業計画）、生物多様性（生物多様性に関する条約第13条とその作業計画及び関係する決定事項）、防災（兵庫行動枠組2005年-2015年）、持続可能な消費と生産（持続可能な消費と生産に関するプログラムの10年枠組の持続可能なライフスタイルと教育プログラム2005年-2015年）、児童の権利（児童の権利に関する条約第24条（2）、第28条、第29条(1)）、その他の分野における政府間合意において認められているように、ＥＳＤを持続可能な開発の実施のための極めて重要な方法として再確認し、

6. グローバルＥＦＡミーティング2014にて採択されたマスカットアグリーメントにおける目標及び持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）に関する国連総会のオープン・ワーキング・グループによって提案されたＳＤＧｓの目標の中にＥＳＤが含まれたことよって示されているように、包括的な質の高い教育と生涯学習に不可欠で、変化させる力を持つ要素として、また持続可能な開発を可能にするものとしてＥＳＤの国際的な認識の高まりを歓迎し、

7. 第195回ユネスコ執行委員会で承認されたユネスコ／日本ＥＳＤ賞の創設を評価し、

我々参加者は、

8. 批判的思考、システム思考、分析的問題解決、創造性、協働、不確実なことに直面した際の決断、また、国際的な課題がつながっていることの理解及びこの自覚から生じる責任のような、地球市民そして地域の文脈における現在及び未来の課題に取り組むために必要な知識、スキル、態度、能力、価値を発達させることで、学習者自身及び学習者が暮らす社会を変容させる力を与えるＥＳＤの可能性を重要視し、

9. ＥＳＤは、すべての国、特に小島嶼国や低所得国のような最も脆弱な国のためになる公平でより持続可能な経済、社会の実現を目的として、先進国と発展途上国の両方が貧困撲滅、不平等の縮小、環境保護、経済成長のための努力の強化に取り組む機会であり、責任であることを強調し、

10. ＥＳＤの実践は、持続可能な開発への文化の貢献、平和の尊重、非暴力、文化多様性、地域と伝統的な知識、先住民の英知と実践、さらに、人権、男女の平等、民主主義、社会正義のような普遍的原則の必要性と同様に地元、国内、地域、世界の文脈を十分に考慮するべきであることを重視し、

11. 関係する全てのステークホルダーが、ＧＡＰの開始に際してのコミットメントへの具体的な貢献を通じて表明したＥＳＤへの参加に感謝し、

12. ＥＳＤの五つの優先行動分野である政策支援、機関包括型アプローチ、教育者、ユース、地域コミュニティにおいて、フォーマル、ノンフォーマル、インフォーマルな環境における、包括的な質の高い教育及び生涯学習をとおして、ＧＡＰ開始のモメンタムの構築及び維持を約束し、

13. 政府、政府が加盟する機関・ネットワーク、市民社会団体・グループ、民間企業、メディア、学術研究コミュニティ、教育・研修機関及びセンターをはじめ、国連機関や二国間・多国間開発機関、その他の種類のすべてのレベルの政府間機関を含む、関係する全てのステークホルダーが、相乗的な方法で、a) 明確なゴールを設定し、b) 活動を開発、支援、実施し、c) 経験を共有するためのプラットフォーム（ＩＣＴを基礎とするプラットフォームを含む）を構築し、d) ＧＡＰの五つの優先行動分野におけるモニタリング及び評価の方法を強化するよう求め、

14. ユースをキーとなるステークホルダーとして巻き込み、尊重しながら持続可能な開発のための意志決定及び能力育成を強化するために、科学・政策・ＥＳＤの実践のインターフェイスにおいて、特に教育省やＥＳＤに関する全省庁、高等教育機関及び科学やその他の知識コミュニティなど、全ての関係するステークホルダーが部門や分野の境界を越えて共同的で可変的な知識の生産、普及、活用、イノベーションの促進に従事するよう促進し、

15. ユネスコ加盟国の政府に以下のような更なる取組を求める。
    a) 教育の目的、教育を支える価値をレビューし、教育政策とカリキュラムがどの程度ＥＳＤのゴールを達成しているかを評価し、システム全体としての全体的アプローチ及びマルチステークホルダーの協力、教育セクター、民間企業、市民社会及び多様な持続可能な開発分野に従事する人々のパートナーシップに特別な注意を払いながら、教育、訓練、及び持続可能な開発政策へのＥＳＤの統合を強化し、教員や他の教育者の教育、訓練、職能開発が十分にＥＳＤを取り入れることを確保し、

    b) 特にＧＡＰの五つの優先行動分野に沿った国内及びサブナショナルレベルのフォーマル及びノンフォーマルな教育・学習の両方に必要な機関の能力を構築するなど、政策を行動に移すために実質的な資源を配分、結集し、

    c) 第一にＥＳＤを教育の目標として残し、分野横断的なテーマとしてＳＤＧｓに取り入れることを保証し、第二にユネスコ世界会議（2014 年）の成果を 2015 年 5 月 19 日から 22 日に韓国・仁川で開催される世界教育フォーラム 2015 において考慮されるよう保証することでポスト 2015 年アジェンダ及びそのフォローアッププロセスにＥＳＤを反映、強化させる。

16. ユネスコ事務局長に以下のことを求める。

    a) ＧＡＰの実施のためのユネスコのロードマップの枠組みの範囲で、政府、他の国連機関、開発パートナー、民間企業、市民社会と協力し、ＥＳＤのグローバルリーダーシップを提供し、政策の共同作用を支援し、ＥＳＤに関するコミュニケーションを円滑化し、

    b) ＥＳＤを実施するための新たなモメンタムを構築し、パートナーシップを活用し、ユネスコクラブ及びユネスコクラブ協会と同様、ユネスコスクール、ユネスコチェア、ユネスコが支援するセンター、生物圏保存地域及び世界遺産の国際ネットワークなどのネットワークを活用、動員し、

    c) ＥＳＤの資金を含む適切な方策を保証する重要性を支援する。